作成日 2017年10月24日 作成者 たまきさん

目次

	7イニーBASIC for Arduino STM32 VO.85 リファレンスマニュアル RV02	
		
1.1	はじめに	
1.2	関連情報	
1.3	著作権・利用条件について	
1.4	システム構成	
1.5	利用環境のバリエーション	3
1.6	仕様	5
1.7	結線図	6
1.8	パーツー覧	10
1.9	ボードピンの利用	11
1.10	ボート上のピン一覧	12
1.11	ピン割り当て機能を利用するコマンド・関数一覧	13
1.12	メモリーマップ	14
1.13	文字(フォント) コード	15
1.14	キー入力コード	16
1.15	編集操作操作キー	19
2. 実行	- - - - - - - - 	20
2.1	最小限構成の実行環境構築	20
2.2	圧電サウンダー(圧電スピーカー)の追加	20
2.3	SD カードモジュールの追加	20
2.4	NTSC ビデオ出力の追加	20
2.5	PS/2 キーボード インタフェースの追加	20
3. プロ	コグラミング環境とその設定	21
3.1	プログラミング環境のバリエーション	21
3.2	ファームウェア(スケッチ) 更新後の初期設定	21
3.3	PS/2 キーボードに関する設定	22
3.4	シリアルコンソールの通信条件の設定	22
3.5	NTSC ビデオ出力の同期信号の調整	23
3.6	起動時のスクリーン画面の選択	24
3.7	スクリーン画面の設定	24
3.8	内部 RTC の時刻設定	24
3.9	プログラムの保存と読み込み	25
240	パソコンからのプログラム語はと保存	26

3.11	フラシュメモリのエクスポート	26
3.12	プログラムの自動起動設定	27
3.13	仮想 EEPROM 領域の初期化	27
3.14	プログラム保存領域の初期化	27
3.15	MMC 互換カード(SD カード含む)の初期化	27
4. 使:	ってみよう!	28
4.1	入力可能状態は OK■(カーソル)	28
4.2	Hello,world を表示してみる	28
4.3	Hello,world を Hello,Tiny BASIC に変更してみる	28
4.4	PRINT の前に 10 を追加してプログラムにしよう	29
4.5	プログラムを実行してみよう	29
4.6	プログラムに追加する	30
4.7	行番号を並びなおす	30
4.8	やっぱり 10 行は不要、削除したい	31
4.9	プログラムを保存したい	31
4.10	保存されたプログラムを読み込み	31
5. プロ	コグラム構成要素の説明(コマンド・関数等)	32
5.1	プログラムの構造と形式	32
5.2	行と命令文	33
5.3	制御文	34
5.4	コマンド・関数	34
5.5	コマンド・関数一覧	35
5.6	数值	38
5.7	文字・文字列	38
5.8	変数	39
5.9	演算子	39
5.10	式	41
5.11	定数	41
5.12	文字列利用における制約	42
6. 各制	制御文の詳細	44
6.1	GOTO 指定行へのジャンプ(制御命令)	44
6.2	GOSUB サブルーチンの呼び出し(制御命令)	45
6.3	RETURN GOSUB 呼び出し元への復帰(制御命令)	46
6.4	IF 条件判定(制御命令)	47
6.5	FOR TO ~ NEXT 繰り返し実行(制御命令)	48
6.6	END プログラムの終了(制御命令)	49
7. 各三	コマンド・関数の詳細	50
7.1	RUN プログラムの実行(システムコマンド)	50

7.2	RENUM 行番号の振り直し(システムコマンド)	51
7.3	DELETE プログラムの指定行の削除(システムコマンド)	52
7.4	CONSOLE コンソール画面切替	53
7.5	SCREEN スクリーンモードの設定	54
7.6	WIDTH シリアルターミナルの画面サイズの設定	55
7.7	LIST プログラムリストの表示	56
7.8	NEW プログラムの消去	57
7.9	LOAD 内部フラッシュメモリ・SD カードからプログラムを読み	58
7.10	SAVE 内部フラッシュメモリ・SD カードへのプログラム保存	59
7.11	FILES 内部フラッシュメモリ保存・SD カード内のプログラムの一覧表示	60
7.12	BLOAD SD カードからバイナリデータ読込	62
7.13	BSAVE SD カードへのバイナリデータ保存	63
7.14	REM コメント	64
7.15	LET 変数に値を代入	65
7.16	CLV 変数領域の初期化	66
7.17	LRUN 指定プログラム番号の実行	67
7.18	EXPORT 内部フラッシュメモリの内容のエクスポート	68
7.19	CONFIG システムの設定	70
7.20	SAVECONFIG システムの設定の保存	71
7.21	ERASE 内部フラッシュメモリ上のプログラム削除	72
7.22	MKDIR ディレクトリの作成	73
7.23	RMDIR ディレクトリの削除	74
7.24	REMOVE ファイルの削除	75
7.25	CAT ファイルの内容表示	76
7.26	ABS 絶対値の取得(数値関数)	77
7.27	ASC 文字から文字コードへの変換(数値関数)	78
7.28	FREE プログラム領域の残りバイト数の取得(数値関数)	80
7.29	INKEY キー入力の読み取り(数値関数)	81
7.30	RND 乱数の発生(数値関数)	82
7.31	LEN 文字列の長さの取得(数値関数)	83
7.32	MAP 数値のスケール変換(数値関数)	84
7.33	CHR\$ 文字コードから文字への変換(文字列関数)	85
7.34	BIN\$ 数値から 2 進数文字列への変換(文字列関数)	86
7.35	HEX\$ 数値から 16 進数文字列への変換(文字列関数)	87
7.36	DMP\$ 整数の小数付き数値文字列への変換(文字列関数)	88
7.37	STR\$ 変数が参照する文字列の取得・文字列の切り出し	89
7.38	WAIT 時間待ち	90
7.39	CLT 起動からの経過時間カウントのリセット	91

7.42 PEEK 指定アドレスの値参照(数値関数) 94 7.43 PRINT 画面への文字表示 96 7.44 INPUT 数値の入力 97 7.45 CLS 画面表示/容の全消去 98 7.46 COLOR 文字色の設定 96 7.47 ATTR 文字表示属性の設定 100 7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の扇画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.55 CIRCLE 門の描画 107 7.55 CIRCLE 門の描画 106 7.57 GPRINT 文字列の端画 105 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの表示 115 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の溶定性医ピクセルの寿無列症 (数値関数) 117 7.62 GINP 活定域域のピクセルの寿無列症 (数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 (12 12 7.66 GETDATE 目付の設得 122 7.67 GETTIME 時刻の設定 124 7.68 SETDATE 時刻の設定 125 7.69 GPO GPIO 関門の機能設定 126 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM/パルス出力 126 7.72 NI	7.40	TICK 経過時間取得(数値関数)	92
7.43 PRINT 画面への文字表示 96 7.44 INPUT 数値の入力 97 7.45 CLS 面面表示内容の全消去 98 7.46 COLOR 文字色の設定 98 7.47 ATTR 文字表示属性の設定 100 7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の措画 105 7.53 LINE 直轄の措画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIPCLE 目の描画 106 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 106 7.57 GPRINT 文字列の描画 116 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの表示 115 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの表示 115 7.62 GINP 指定傾成のピクセルの有無判定(数値関数) 117 7.63 TONE 単音出力序止 126 7.64 NOTONE 単音出力原立 126 7.65 GETTIME 時刻の設定 127	7.41	POKE 指定アドレスへのデータ書き込み	93
7.44 INPUT 数値の入力	7.42	PEEK 指定アドレスの値参照(数値関数)	94
7.45 CLS 画面表示内容の全消去 98 7.46 COLOR 文字色の設定 98 7.47 ATTR 文字表示属性の設定 100 7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の描画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 日の譜画 107 7.56 BITMAP ビットマップ画像の譜画 108 7.756 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ビットマップコアイルの読み込み 113 7.59 LDBMP ビットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 目付の取得 122 7.67 GETIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の取得 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 125 7.71 POUT PWM バルス出力 125 7.72 SHIFTIOUT デジタルシフトアウト出力 125 7.73 IN デジタルシフトアウト出力 126 7.74 ANA アナログ入カ(数値関数) 133	7.43	PRINT 画面への文字表示	95
7.46 COLOR 文字長の設定 99 7.47 ATTR 文字表示属性の設定 100 7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数值関数) 104 7.52 PSET 点の描画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 106 7.57 GPRINT 文字列の描画 116 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの表示 115 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 12 7.65 DATE 現在時刻の設備 12 7.66 GETDATE 目付の取得 12 7.67 GETTIME 時刻の設備 12 7.69 GPIO GPIO 機能定 12 7.70 OUT デジタル出力 12 <td>7.44</td> <td>INPUT 数値の入力</td> <td>97</td>	7.44	INPUT 数値の入力	97
7.47 ATTR 文字表示属性の設定 100 7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 園面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ園面スクロール 103 7.51 VPEEK 園面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の描画 106 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 108 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 園面上の指定値ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 122 7.66 GETTDATE 目付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の取得 123 7.76 GPIO GPIO 機能設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタルシフトアウト出力 126 7.77 SHIFTIOUT デジタルシフトアウト出力 127 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 133 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.45	CLS 画面表示内容の全消去	98
7.48 LOCATE カーソルの移動 101 7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の描画 106 7.53 LINE 画線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 109 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力 119 7.65 DATE 現住時刻の表示 121 7.66 GETDATE B付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の取得 123 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタルシフトアウト出力 126 7.71 POUT PWM パルス出力 127 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 137 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133 7.75 SHIFTIN デジタルンフトアウト入力(数値関数) 133	7.46	COLOR 文字色の設定	99
7.49 REDRAW 画面表示の再表示 102 7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール 103 7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の描画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 108 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの読み込み 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 目付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の設定 124 7.68 SETDATE 時刻の設定 125 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 126 7.77 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 126 7.77 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 126 7.77 NA ANA アナログ入力(数値関数) 133 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.47	ATTR 文字表示属性の設定	100
7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール	7.48	LOCATE カーソルの移動	101
7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数) 104 7.52 PSET 点の描画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 108 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 60 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力序止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 時刻の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の取得 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM バルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 133	7.49	REDRAW 画面表示の再表示	102
7.52 PSET 点の描画 105 7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 108 7.57 GPRINT 文字列の描画 117 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力 119 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 目付の取得 122 7.67 GETIME 時刻の即得 122 7.68 SETDATE 時刻の即得 123 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM バルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 133	7.50	CSCROLL キャラクタ画面スクロール	103
7.53 LINE 直線の描画 106 7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 109 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の限定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタルシフトアウト出力 133 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.51	VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数)	104
7.54 RECT 矩形の描画 107 7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 109 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 118 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 126 7.71 POUT PWM パルス出力 126 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 126 7.73 IN デジタルシフトアウト出力 129 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数) 133	7.52	PSET 点の描画	105
7.55 CIRCLE 円の描画 108 7.56 BITMAP ピットマップ画像の描画 109 7.57 GPRINT 文字列の描画 110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 122 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 127 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 128 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 133 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.53	LINE 直線の描画	106
7.56 BITMAP ビットマップ画像の描画 109 7.57 GPRINT 文字列の描画 1110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 1111 7.59 LDBMP ビットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力 119 7.66 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 133 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.54	RECT 矩形の描画	107
7.57 GPRINT 文字列の描画 1110 7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 1111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 115 7.60 DWBMP BMP ファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 132 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 133	7.55	CIRCLE 円の描画	108
7.58 GSCROLL グラフィックスクロール 111 7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 113 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 127 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタルシフトアウト出力 129 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数) 133	7.56	BITMAP ビットマップ画像の描画	109
7.59 LDBMP ピットマップファイルの読み込み 115 7.60 DWBMP BMPファイルの表示 115 7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタルシフトアウト出力 129 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数) 133	7.57	GPRINT 文字列の描画	11C
7.60 DWBMP BMP ファイルの表示	7.58	GSCROLL グラフィックスクロール	111
7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数) 117 7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力(数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力(数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数) 133	7.59	LDBMP ビットマップファイルの読み込み	113
7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数) 118 7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.60	DWBMP BMP ファイルの表示	115
7.63 TONE 単音出力 119 7.64 NOTONE 単音出力停止 120 7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.61	GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数)	117
7.64NOTONE 単音出力停止1207.65DATE 現在時刻の表示1217.66GETDATE 日付の取得1227.67GETTIME 時刻の取得1237.68SETDATE 時刻の設定1247.69GPIO GPIO 機能設定1257.70OUT デジタル出力1277.71POUT PWM パルス出力1287.72SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力1297.73IN デジタル入力 (数値関数)1317.74ANA アナログ入力 (数値関数)1327.75SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数)133	7.62	GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数)	118
7.65 DATE 現在時刻の表示 121 7.66 GETDATE 日付の取得 122 7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.63	TONE 単音出力	119
7.66GETDATE 日付の取得1227.67GETTIME 時刻の取得1237.68SETDATE 時刻の設定1247.69GPIO GPIO 機能設定1257.70OUT デジタル出力1277.71POUT PWM パルス出力1287.72SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力1297.73IN デジタル入力 (数値関数)1317.74ANA アナログ入力 (数値関数)1327.75SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数)133	7.64	NOTONE 単音出力停止	12C
7.67 GETTIME 時刻の取得 123 7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.65	DATE 現在時刻の表示	121
7.68 SETDATE 時刻の設定 124 7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.66	GETDATE 日付の取得	122
7.69 GPIO GPIO 機能設定 125 7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.67	GETTIME 時刻の取得	123
7.70 OUT デジタル出力 127 7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.68	SETDATE 時刻の設定	124
7.71 POUT PWM パルス出力 128 7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力 129 7.73 IN デジタル入力 (数値関数) 131 7.74 ANA アナログ入力 (数値関数) 132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数) 133	7.69	GPIO GPIO 機能設定	125
7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力	7.70	OUT デジタル出力	127
7.73 IN デジタル入力(数値関数)	7.71	POUT PWM パルス出力	128
7.74 ANA アナログ入力(数値関数)132 7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数)	7.72	SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力	129
7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数)133	7.73	IN デジタル入力(数値関数)	131
7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力(数値関数)133	7.74		
	7.75		
1.10 IZON IZO バレーファハイスからのテーク文画(妖画肉数/	7.76	I2CR I2C スレーブデバイスからのデータ受信(数値関数)	
	7.77		

	7.78	SMODE シリアルポート機能設定	138
	7.79	SOPEN シリアル通信オープン	14C
	7.80	SCLOSE シリアル通信クローズ	141
	7.81	SPRINT シリアル通信文字列出力	
	7.82	SWRITE シリアル通信 1 バイト出力	
	7.83	SREADY シリアル通信データ受信データ確認(数値関数)	145
	7.84	SREAD シリアル通信 1 バイト受信(数値関数)	
	7.85	EEPFORMAT 仮想 EEPROM のフォーマット	
	7.86	EEPWRITE 仮想 EEPROM のへのデータ書き込み	148
	7.87	EEPREAD 仮想 EEPROM のからのデータ読み込み(数値関数)	149
8.	応用	プログラム(執筆中)	
	8.1	ボード上の LED の点滅	15C
	8.2	追加 LED の点滅	
	8.3	PWM による LED 輝度の制御	151
	8.4	スライド抵抗をつかった LED の輝度調節	151
	8.5	シフトレジスタ 74HC595 を使った 8 個の LED の制御	
	8.6	I2C インタフェースの利用(基本編)	
	8.7	シリアル通信	151
	8.8	OLED(SSD1306)ディスプレイの利用	151

1. 仕様や構成など

1.1 はじめに

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」は整数型 BASIC インタープリタ開発・実行環境です。

Tetsuya Suzuki 氏が開発及び公開している「TOYOSHIKI Tiny BASIC for Arduino」をベースに、安価な Blue Pill ボード (STM32F103C8T6 搭載)向けに移植し機能拡張を行いました。開発環境としては、Arduino STM32 を採用しています。

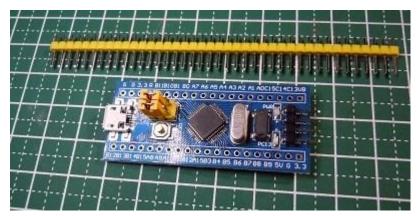


図 1Blue Pill ボード



図 2 ブレッドボード上の実装例



図 3 ユニバーサル基板上の実装例

機能拡張としては、プログラム編集・開発機能の強化(スクリーンエディット機能、プログラム保存機能、シリアルコンソール)、周辺機器のサポート(Vモニターディスプレイ、PS/2キーボード、MMC 互換カード対応、単音出力)、電子工作利用のための制御機能(デジタル入出力、PWM 出力、アナログ入力、I2C バス通信、シリアル通信)を追加しました。



図 4 起動直後の画面

本リファレンスマニュアルでは、オリジナル版の TinyBASIC の文法に加え、新しく追加した機能、コマンドについて解説・説明いたします。本書の構成としては、前半に概要、システム構成、仕様、レガシーBASIC 環境を始めて利用する方向けの解説、中盤にリファレンス、後半に応用の内容となります。

1.2 関連情報

「豊四季タイニーBASIC (オリジナル版)」に関する情報

□ 開発者公開ホームページ

電脳伝説 Vintagechips 豊四季タイニーBASIC 確定版

https://vintagechips.wordpress.com/2015/12/06/豊四季タイニーbasic 確定版/

□ 開発者公開リソース

https://github.com/vintagechips/ttbasic_arduino/

□ 開発者執筆書籍

タイニーBASIC を C で書く

http://www.socym.co.jp/book/1020



原本のご紹介 タイニー BASIC を C で書く パソコンでもマイコンでも走り、機能拡張し放起。 著者一鈴木哲哉 定価一3,200円+税 判型/ページ数一85変形/288ページ ISBN978-4-8026-1020-9

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」に関する情報

□ 公開サイト

豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32

https://github.com/Tamakichi/ttbasic_arduino/tree/ttbasic_arduino_ps2_ntsc

- □ Arduino STM32 に関する情報
 - Arduino STM32 公式 HP(モージュール配布サイト)
 rogerclarkmelbourne/Arduino_STM32
 https://github.com/rogerclarkmelbourne/Arduino_STM32
 - Arduino STM32 公式フォーラム http://www.stm32duino.com/
 - STM32duino wiki

http://wiki.stm32duino.com

- Blue Bill ボードに関する情報 http://wiki.stm32duino.com/index.php?title=STM32F103_boards
- DEKO のあやしいお部屋。 STM32F103C8T6 http://ht-deko.com/arduino/stm32f103c8t6.html

1.3 著作権・利用条件について

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」の著作権は移植・機能拡張者の「たま吉」、オリジナル版開発者の「Tetsuya Suzuki 氏」にあります。

本著作物の利用条件は、オリジナル版「豊四季タイニーBASIC」に従うものとします。

オリジナル版は GPL(General Public License)でライセンスされた著作物であり、「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」もそれに従い、GPL ライセンスされた著作物となります。

更に利用条件として以下を追加します。

- 1) 不特定多数への再配布においてはバイナリーファイルのみの配布を禁止、必ずソースを添付すること。
- 2) 「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」の明記、配布元の URL を明記する。
- 3) 営利目的の)NAVER 等のまとめサイト(まとめ者に利益分配のあるもの)へのいかなる引用の禁止

補足事項

オリジナル版において開発者 Tetsuya Suzuki 氏は次の利用条件を提示しています。

1) TOYOSHIKI Tiny BASIC for Arduino

https://github.com/vintagechips/ttbasic_arduino

の記載内容/

(C)2012 Tetsuya Suzuki

GNU General Public License

2) 豊四季タイニーBASIC のリファレンスを公開

https://vintagechips.wordpress.com/2012/06/14/豊四季タイニーbasic リファレンス公開/

の記載内容/

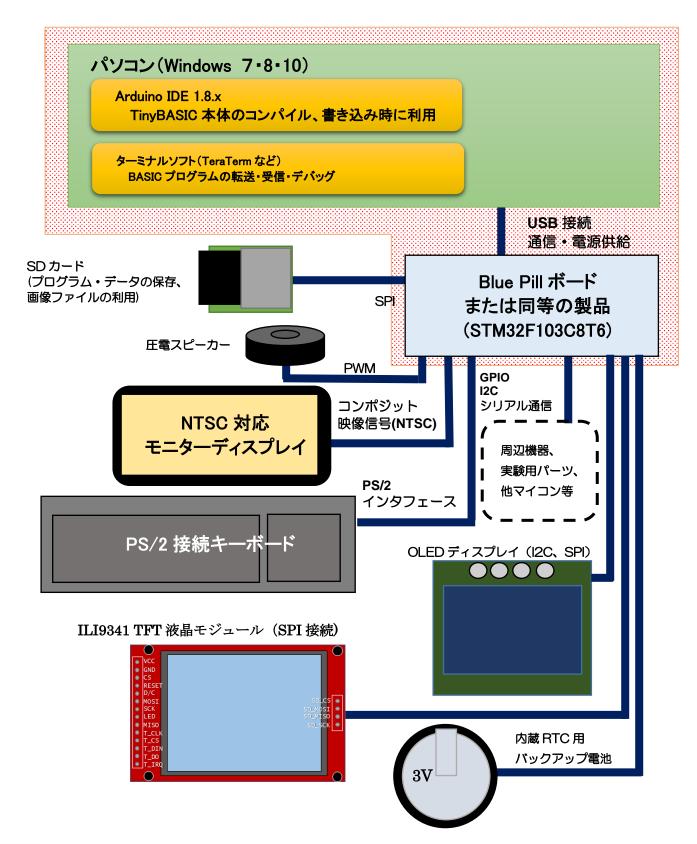
豊四季タイニーBASICがもたらすいかなる結果にも責任を負いません。

著作権者の同意なしに経済的な利益を得てはいけません。

この条件のもとで、利用、複写、改編、再配布を認めます。

1.4 システム構成

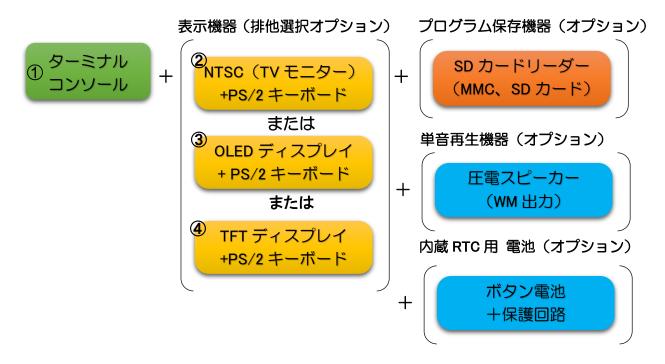
「豊四季 Tiny BASIC for Arduino STM32」では、次のような構成での利用で利用可能です。



囲み内は利用においての最小限の構成です。シリアル経由でのプログラム入力が可能です。 周辺機器は必須ではありません。また、同時利用は出来ないものがあります。

1.5 利用環境のバリエーション

豊四季 Tiny BASIC for Arduino STM32 では、次のような組み合わせで利用環境を構築することが可能です。



BASIC プログラムを対話編集・実行する環境でバリエーションを分類すると、次の4種類(①~④)となります。

① ターミナルコンソール版

USB ポートを使ったシリアルコンソールを使った最小限の構成です。

パソコン上で TeraTerm 等のターミナルソフトを使ってプログラム開発を行うことが出来ます。

必要に応じて、SD カードリーダー、圧源スピーカー、内蔵 RTC 用バックアップ電池を追加して利用出来ます。



② NTSC版

NTSC 対応モニターと PS/2 キーボードを使う環境です。

必要に応じて、SD カードリーダー、圧源スピーカー、内蔵 RTC 用バックアップ電池を追加して利用出来ます。



③ OLED 版

OLED モジュールを表示機として利用する環境です。PS/2 キーボードを併用します。

必要に応じて、SD カードリーダー、圧源スピーカー、内蔵 RTC 用バックアップ電池を追加して利用出来ます。



OLED モジュールの接続は I2C と SPI をサポートしま。

I2C 接続は、接続が簡単でボード上のポートを占有することなく利用出来ますが、SPI 接続に比べると表示レスポンスが遅いです。高速な描画を行いたい場合は SPI 接続にて利用して下さい。

④ TFT版

TFT カラーグラフィック液晶と PS/2 キーボードを使う環境です。

カラー表示をサポートします。

必要に応じて、SD カードリーダー、圧源スピーカー、内蔵 RTC 用バックアップ電池を追加して利用出来ます。



1.6 仕様

(1) ソフトウェア仕様

項目		概要		
プログラミング環境		CUI(キャラクユーザーインタフェース)		
		スタンドアロンのスクリーンエディタ+実行環境		
NT	SC キャラクタ表示画面	37×27 文字、28×13 文字、28×13 文字、24×13 文字		
NT	SC グラフィック表示画面	224×216 ドット、224×108 ドット、112×108 ドット		
タ	ーミナルスクリーン画面	16×10 文字 ~ 127 文字×50 文字の範囲で任意指定		
0L	ED キャラクタ表示画面	21x8 文字、10x4 文字、7x2 文字(画面回転可能)		
0L	ED グラフィック表示画面	128x64 ドット (画面回転可能)		
TF	Tキャラクタ表示画面	53x30、26x15、17x10、13x7、10x6、8x5 文字(画面回転可能)		
TF	T グラフィック表示画面	320x240 ドット (画面回転可能)		
	形式	整数型 BASIC(符号付 16 ビット整数 -32768~32767)		
B	プログラム領域	4096 バイト		
ŝ	利用文字コード	1 バイト JIS コード(半角記号・英数字、半角カタカナ) +		
I		キャラクタ文字(IchigoJam 互換)		
C言語仕様	利用可能変数	変数名: 208 個		
丨語		A~Z の英字 1 文字 26 個,		
仕		AOA6 ~ ZOZ6 の英字 1 文字+数字 1 文字 182 個		
禄		配列変数@:100 個		
		@(0)~@(99)		
	ユーザー開放	SRAM 1024 バイト		
	作業用メモリ	内部フラッシュメモリ 250 ワード(16 ビット×250)		
	プログラム保存	内部フラッシュメモリ 8本(32,768バイト)		
	方式	外部 MMC 互換カード(SD カードも含む)		
		=> 保存可能数は SD カードの容量による		

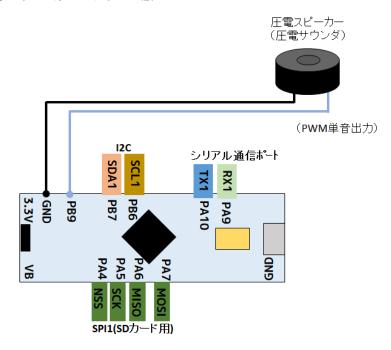
(2) ハードウェア仕様

ハートリェア仕様	LOT TT	
項目	概要	
動作クロック	72MHz	
時計機能	内部 RTC 利用(電池によるバックアップ可能)	
	精度: ±10分/月	
映像出力	モノラル(2色白黒)NTSC ビデオ出力	
	接続は RCA 端子.(コンポジット映像信号)	
キーボード I/F	PS/2 5V 対応(5V トレラント ピン利用)	
	日本語キーボード、US キーボード対応	
サウンド	圧電スピーカーによる単音モノラル再生	
	(3.3V 矩形波 1~32767Hz)	
USB I/F	DFU 利用ファームウェア書込み	
	USB-シリアル通信	
シリアル通信	1 チャンネル:通信速度 ~921,600、データ長 8 ビット、	
	ストップビット1 パリティ None	
I2C インタフェース	1 チャンネル(マスター利用のみ)	
	アドレス 7ビット、400kbps	
GPIO	・デジタル入力 1 ビット× 24 ポート	
	・デジタル出力 1 ビット× 24 ポート	
	・PWM 出力 フチャンネル	
	(周波数可変、ディユティー比 1/4096 刻み)	
アナログ入力	9 チャンネル (分解能 12 ビット)	
MMC 互換カード	FAT16 / FAT32 32G バイトまで対応	
(SD カード含む)	SPI 接続	
OLED ディスプレイ	SSD1306、SSD1309、SH1106 コントローラ利用モジュール	
対応モジュール	画面サイズ 0.96 インチ〜22.4 インチ 128x64 ドットの解像度の製品	
	対応インタフェース:I2C、SPI	
TFT ディスプレイ	ILI9341 コントローラ利用グラフィック液晶モジュール	
対応モジュール	画面解像度 320×240 の製品	
L	- I	

1.7 結線図

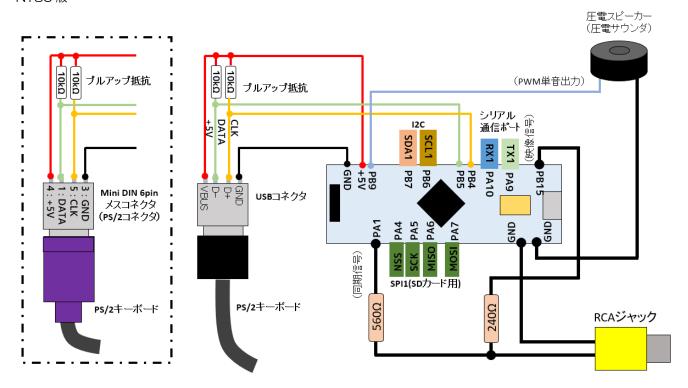
Blue Pill の場合の各パーツの取り付け・結線は次の図のようになります。

① ターミナルコンソール版



圧電スピーカーはオプションです。必要に応じて接続して下さい。 RTC 用バックアップ電池、SD カードモジュールも必要に応じて追加できます。

② NTSC 版

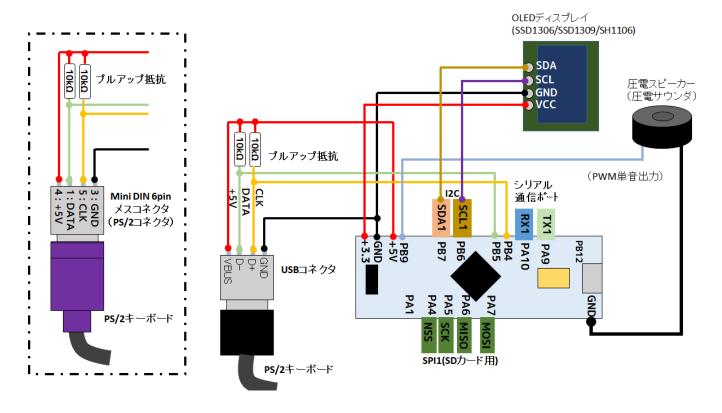


PS/2 キーボード用の接続コネクタは、USB コネクタ、Mini DIN6 ピンのどちらかを用途に応じて選択します。 圧電スピーカーはオプションです。必要に応じて接続して下さい。

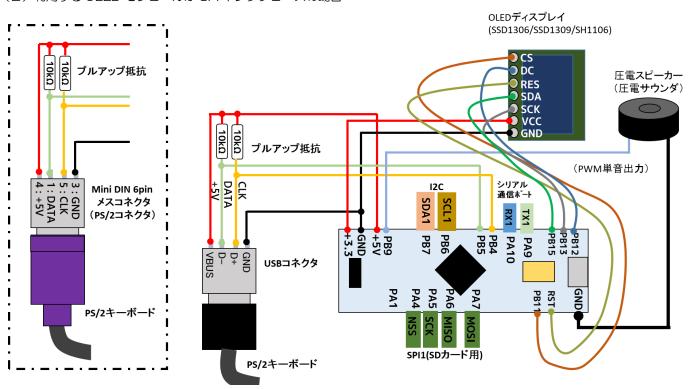
RTC 用バックアップ電池、SD カードモジュールも必要に応じて追加できます。

③ OLED 版

(1)利用する OLED モジュールが I2C インタフェースの場合

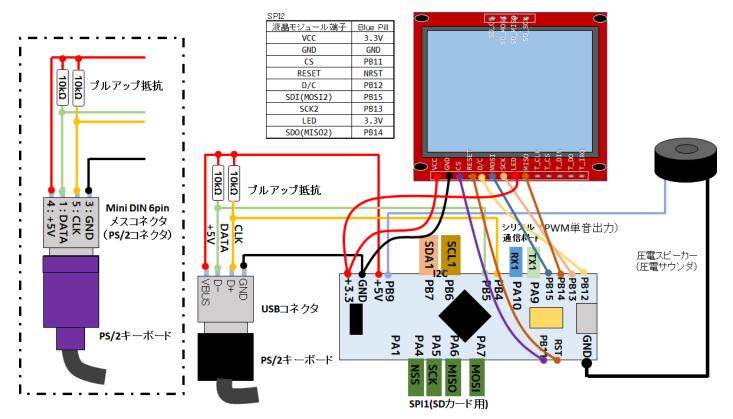


(2) 利用する OLED モジュールが SPI インタフェースの場合



両タイプとも、圧電スピーカーはオプションです。必要に応じて接続して下さい。 またRTC用バックアップ電池、SDカードモジュールも必要に応じて追加できます。

④ TFT版

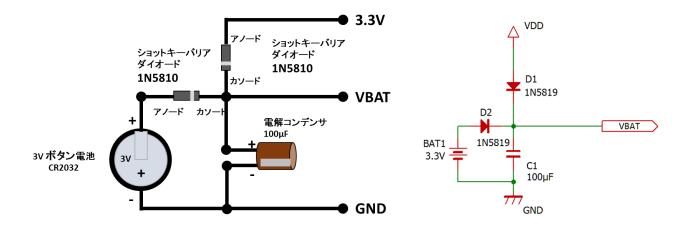


圧電スピーカーはオプションです。必要に応じて接続して下さい。 RTC 用バックアップ電池、SD カードモジュールも必要に応じて追加できます。

利用する TFT モジュールに SD カードリーダが搭載している場合は、その SD カードリーダの利用が可能です。

⑤ RTC 用バックアップ電池(オプション)

RTC 用バックアップ電池を利用することで、電源を切った状態でもRTC の時刻を保持することが出来ます。以下の接続例を示します。利用するダイオードは、VF 値が低い(0.5 以下) ものを推奨します。



⑥ SD カードモジュール (オプション)

市販のプルアップ抵抗及び、ダンピング抵抗が組み込まれたモジュールの利用を推奨します。



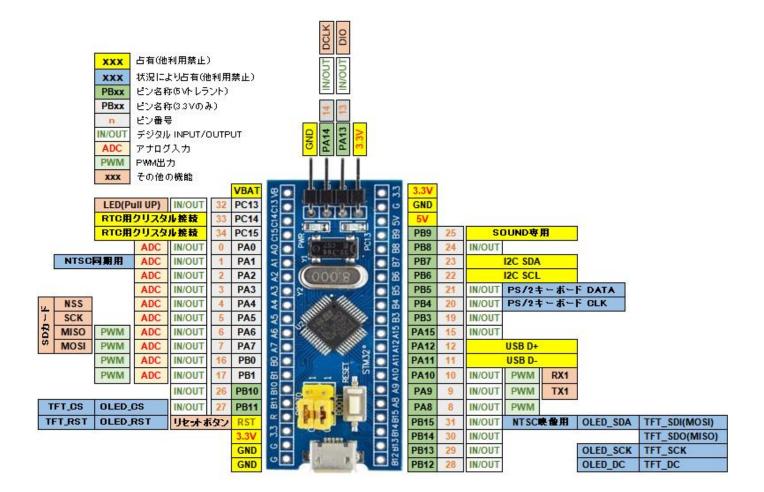
1.8 パーツ一覧

ブレッドボード上に実装する場合を想定したパーツ一覧(※パーツの入手先、製品、価格は目安です)

No.	パーツ名称	個数	説明	価格 (円)
1	Blue Pill マイコンボード	1	マイコン本体 amazon (HiLetgo) STM32F103C8T6 ARM STM32 Minimum システム 開発ボードモジュール	290
2	RCA ジャック(メス)	1	NTSC モニター接続用端子 秋月電子 RCA ジャック DIP 化キット(黄) AE-RCA-DIP-Y	100
3	USB コネクタ A メス ※1	1	PS/2 キーボード接続用端子 秋月電子 USB コネクタ DIP 化キット(A メス) AE-USB-A-DIP	120
4	Mini DIN 6pin コネクタ ※1	1	PS/2 キーボード接続用端子 秋月電子 ミニ DIN コネクタピッチ変換キット AE-MiniDIN-6	150
5	圧電スピーカー	1	サウンド用 秋月電子 圧電スピーカー(17mm) PKM17EPP-4001-B0	40
6	抵抗 560Ω 1/4W	1	NTSC ビデオ信号生成用	10
7	抵抗 240Ω 1/4W	1	NTSC ビデオ信号生成用	10
8	抵抗 10kΩ 1/4W	2	PS/2 キーボード用	20
9	SD カードモジュール ※2	1	SD カード利用 amazon EasyWordMall SD カードスロットソケットリーダーモジュール Arduino 用 HiLetgo Micro SD/ TF カードモジュール シールド モジュール 6 ピン SPI	150
10	ボタン電池 CR2032 ※3	1	RTC バックアップ用 ダイソー ボタン電池 CR2032	100
11	ボタン電池用ボックス ※3	1	RTC バックアップ用 秋月電子 ボタン電池基板取付用ホルダー CR2032 用(小型タイプ)	50
12	ショットキーバリアダイオー ド 1N5810, 1S3 など ※3	2	RTC バックアップ用 秋月電子 整流用ショットキーダイオード(30V1A) 1S3 VF が 0.5V 以下が目安	40
13	電解コンデンサ 100 μF ※3	1	RTC バックアップ用 秋月電子 電解コンデンサー100 μF25V85℃(ルビコン OK)	10
14	OLED ディスプレイ	1	SSD1306/SSD1309/SH1106 コントローラ 解像度 128x64 ドット、I2C、SPI に対応 1.3 インチまたは 1.54 インチの製品推奨	500
15	TFT グラフィック液晶	1	ILI9341 コントローラ利用グラフィック液晶モジュール SPI 接続、画面解像度 320x240 の製品	800
16	ブレッドボード ユニバーサル基板、線材	適宜		500

※2, ※3 RTC 用電池、SD カードモジュールは必要に応じて実装 画像は各販売元または秋月電子の通販サイトのものを利用させていただいています。

1.9 ボードピンの利用



- 5V トレラント対応ピンでは、5V 系の信号入出力に接続可能です。
- コマンドや関数にてピンを指定する場合、ピン名称またはピン番号による指定が可能です。
- VBAT 端子は内蔵 RTC の外部電源によるバックアップに利用可能です。
- BOOT1 端子も PB2 としてデジタル INPUT/OUTPUT に利用可能です。

1.10 ボート上のピン一覧

ピン	ピン	用途	説明
名称 PAO	番号	アナログ入力、デジタル IN/OUT	
PA1	1	アナログ入力、デジタル IN/OUT 、NTSC 同期信号	汎用、NTSC 版では占有(利用禁止)
PA2	2	アナログ入力、デジタル IN/OUT	河田、11130 版では日本(地方宗正) 河用
PA3	3	アナログ入力、デジタル IN/OUT	汎用
PA4	4	アナログ入力、デジタル IN/OUT、SPI(NSS)	汎用、SD カード
PA5	5	アナログ入力、デジタル IN/OUT、SPI(SCK)	汎用、SD カード
PA6	6	アナログ入力、デジタル IN/OUT、PWM、SPI(MISO)	汎用、SD カード
PA7	7	アナログ入力、デジタル IN/OUT、PWM、SPI(MOSI)	汎用、SD カード
PA8	8	デジタル IN/OUT、PWM	汎用
PA9	9	デジタル IN/OUT、PWM、シリアル通信	汎用、シリアル通信(送信)
PA10	10	デジタル IN/OUT、PWM、シリアル通信	汎用、シリアル通信(受信)
PA11	11	USB D-	占有、他の利用禁止
PA12	12	USB D+	占有、他の利用禁止
PA13	13	S-LINK、デジタル IN/OUT	S-LINK、汎用
PA14	14	S-LINK、デジタル IN/OUT	S-LINK、汎用
PA15	15	デジタル IN/OUT	汎用
PB0	16	アナログ入力、デジタル IN/OUT、PWM	汎用
PB1	17	アナログ入力、デジタル IN/OUT、PWM	汎用
PB2	18	BOOT1、デジタル IN/OUT ※プルアップ抵抗あり	汎用、BOOT1 モード指定
PDZ		起動時にレベルの状態でターミナルモード選択	ターミナルモード選択
PB3		デジタル IN/OUT	汎用
PB4		デジタル IN/OUT 、PS/2 キーボード I/F CLK	汎用、PS/2 キーボード利用時占有(利用禁止)
PB5	21	デジタル IN/OUT 、PS/2 キーボード I/F DATA	汎用、PS/2 キーボード利用時占有(利用禁止)
PB6	22	I2C SCL1	占有、他の利用禁止
PB7		I2C SDA1	占有、他の利用禁止
PB8		デジタル IN/OUT	汎用
PB9	25	SOUND(PWM 出力)	占有、他の利用禁止
PB10	26	デジタル IN/OUT	汎用
PB11		デジタル IN/OUT、OLED_CS、TFT_CS	汎用、OLED(SPI)、TFT 利用時占有(利用禁止)
PB12		デジタル IN/OUT、OLED_SC、TFT_DC	汎用、OLED(SPI)、TFT 利用時占有(利用禁止)
PB13		デジタル IN/OUT、OLED_SCK、TFT_SCK	汎用、OLED(SPI)、TFT 利用時占有(利用禁止)
PB14		デジタル IN/OUT、TFT_SDO	汎用、TFT 利用時占有(利用禁止)
PB15		デジタル IN/OUT、NTSC 映像信号、OLED_SDA、TFT_SDI	汎用、NTSC、OLED(SPI)、TFT 利用時占有
PC13		LED、デジタル IN/OUT ※プルアップ抵抗あり	汎用
PC14		RTC へのクロック供給	占有、他の利用禁止
PC15	34	RTC へのクロック供給	占有、他の利用禁止

- 色塗り部は GPIO コマンドでの利用する機器のよっては利用禁止となる
- 各ピン 20mA (ソース、シンク利用) まで電流を流すことが可能、推奨 8mA
- 全ピン合計では 150mA まで利用可能

1.11 ピン割り当て機能を利用するコマンド・関数一覧

ピン割り当て機能	機能利用コマンド・関数	説明
IN/OUT	GPIO	ピン機能割り当て
(デジタル入出力)	OUT	デジタルオンオフ出力
	IN	デジタルオンオフの状態入力
	SHIFTOUT	8ビットデータのシリアルシフト出力
	SHIFTIN	8ビットデータのシリアルシフト入力
ADC	GPIO	ピン機能割り当て
(アナログ入力)	ANA()	アナログ入力
PWM	GPIO	ピン機能割り当て
(PWM 出力)	POUT	PWM 出力
I2C SDA		I2C 通信 データ送信
I2C SCL	12CW() 12CR()	I2C 通信 データ送信
SOUND 専用	TONE	サウンド出力
. ==	NOTONE	サウンド停止
LED	GPIO	ピン機能割り当て
	OUT	LED の点滅
RX、TX	SMODE	モード設定
(シリアル通信、コンソール)	SOPEN	シリアル通信オープン
	SREAD()	1 バイト受信
USB D+/USB D-	SWRITE	1 バイト送信
(USB シリアル通信、コンソー	SREADY()	データ受信可能チェック
ル)	<u>SPRINT</u>	文字列送信
	WIDTH	ターミナルスクリーンサイズ指定
	<u>SCREEN</u>	スクリーンモード指定
	<u>PRINT</u>	文字列表示
	CLS	画面クリア
	REDRAW	画面の再表示
RTC 用クリスタル接続	CLS	画面クリア
	REDRAW	画面の再表示
	GETTIME	時刻の取得
	SETDATE	時刻の設定
PS/2 キーボード	CONFIG	US/日本語キーボード切り替え
DATA/CLK	SAVECONFIG	上記設定保存
NTSC 同期用・映像用	CONFIG	垂直同期信号調整
(ビデオ出力)	SAVECONFIG	上記設定保存
	PRINT	文字列表示
	CLS	画面クリア
	REDRAW	画面の再表示
	CSCROLL	キャラクタ画面スクロール
	PSET	点の描画
	LINE	線の描画
	RECT	矩形の描画
	CIRCLE	円の描画
	BITMAP	ビットマップ画像の描画
	GPRINT	文字列の描画
	GSCROLL	グラフィックスクロール
	GPEEK	画面上のピクセル参照
	PINP	指定領域内のピクセル参照
	SCREEN	スクリーンモード指定
SD カード	FILES	ファイル一覧表示
(SPI1)	LOAD	プログラムの読み込み
	SAVE	プログラムの保存
	BLOAD	バイナリデータの読み込み
	BSAVE	バイナリデータの保存
	CAT	ファイル内容の表示
	LDBMP	ビットマップファイルをメモリにロード
	DWBMP	ビットマップファイルを入しりにロード
	REMOVE	ファイルの削除
	MKDIR	ディレクトリの作成
		ディレクトリの作成 ディレクトリの削除
DOOT4 (DDO)	RMDIR	
BOOT1 (PB2)	SMODE SCREEN	シリアルモード設定
	I SUBEEN	スクリーンモード切替え

1.12 メモリーマップ

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」ではSTM32F103CT6のサポート外のフラッシュメモリ領域 64 バイトを含む合計 128k バイトの領域を利用しています。SRAM は 20k バイトの領域を利用しています、

フラッシュメモリ

128k バイトの領域はページ単位(1024 バイト)で領域が管理されています。

領域の利用は下記の通りです。

	アドレス	ページ番号	ページ数	用途
0	0x08000000-0x08001FFF	0	8	Arduino STM32 ブートローダー(DFU)
0	0x08002000-0x080157FF	8	86	Tiny BASIC インタープリタ
0	0x08015800-0x0801F7FF	94	32	プログラム保存用(4k バイト×8)
0	0x0801F800-0x0801FFFF	126	2	仮想 EEPROM(config 用、ユーザー利用用)

仮想アドレス

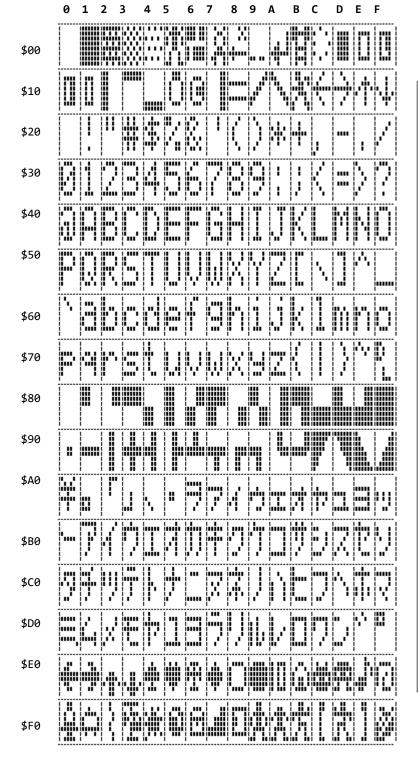
Tiny BASIC では、仮想アドレス利用することで SRAM およびフラッシュメモリ上のデータの参照・書き込みを行うことができます。仮想アドレスは次の構成となります。

仮想アドレス	定数名	領域サイズ(バイト)	用途
\$0000	VRAM	可変・最大 6,400	キャラクタスクリーン表示用メモリ (CW×CH) 最大 128×50 = 6,400 バイト
\$1900	VAR	416	変数領域(A~Z, A0:A6~Z0:Z6)+ 4 バイト
\$1AA0	ARRAY	200	配列変数領域(@(0)~@(99))
\$1BA0	PRG	4,096	プログラム領域
\$2BA0	MEM	1,024	ユーザーワーク領域
\$2FA0	FNT	2,048	フォント 256 文字(フラッシュメモリ)
\$37A0	GRAM	可変・最大 6,048	グラフィック表示用メモリ NTSC、OLED 版でのみ利用可能。ただし、 ターミナルモードの場合(CONSOLE 1) 領域サイズは 0 となります。 サイズは GW/8*GH で計算できます。

各領域のアドレス先頭は定数 VRAM, VAR, ARRAY, PGG, MEM, FNT, GRAM に定義されています。

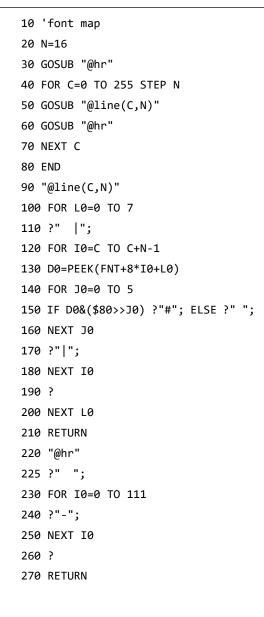
1.13 文字(フォント)コード

NTSC ビデオ表示で利用しているデフォルトフォントのキャラクター表を下記に示します。 フォントはサイズは 6x8 ドットです。lchigoJam と互換性があります。



(備考)

キャラクター表は下記のプログラムで作成しています。



ライセンスに関する表記



CC BY IchigoJam

フォントデータは IchigoJam 1.2.1 のフォントを参考にして作成しています。 (絵文字部分は IchigoJam の8x8 フォントを見ながら自作作しました)

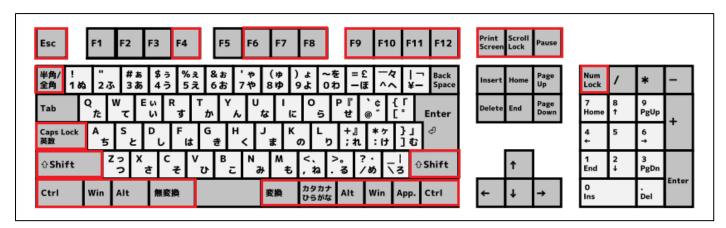
1.14 キー入力コード

INKEY()関数等で入力したキーを判定する際は、キー入力コードを用います。

大部分のキー入力コードは入力する文字コード、ASCII コードと一致します。カーソルキー等の入力制御用のキーは、「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」固有のコードとなります。

□ キー入力コードが取得出来ないキー

赤枠のキーは、制御用または利用不可キーとなっています。



(注意)ターミナルコンソールの通常状態(SCREEN O 以外のモード)では、BackSpace キーを覗き、制御・編集用キーは利用 出来ません。ターミナルコンソールの SCREEN O では、F4、F6~F12 は値を返しますが、サポート範囲外のため利 用をは推奨しません。

106/109 キーボード (※画像は ウィキペディア https://ja.wikipedia.org/wiki/キー配列 より拝借)

□ キー入力コード一覧

キーボード入力にて取得出来るキー入力コードを以下に示します。

コードに数値の記載のあるキーに限りコードの取得が可能です。

+-	併月	なし	S	Shift	C.	TRL	カタ	マカナ	SHIFT+	カタカナ
+-	文字	コード	文字	т П	文字	コード	文字	コード	文字	コード
[ESC]										
[F1]		12		12		12		12		12
[F2]		4		4		4		4		4
[F3]		14		14				14		14
[F4]										
[F5]		18		18		18		18		18
[F6]										
[F7]										
[F8]										
[F9]										
[F10]										
[F11]										
[F12]										

はサポートしていないキーです。

+	併用	まなし	SI	nift	C.	TRL	カ 2	タカナ	SHIFT	「+カタカナ
+ -	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード
[Backspace]		8						8		8
[Enter]		13						13		13
[Tab]		9						9		9
[CapsLock]										
[Shift]										
[Ctrl]										
[Win]										
[Alt]										
[無変換]										
[空白(Space)]	空白	32					空白	32	空白	32
[変換]										
[カタカナひらがなローマ字]										
[メニュー]										
[Insert]		134						134		134
[Home]		132						132		132
[PageUp]		136						136		136
[Delete]		133						133		133
[End]		137						137		137
[PageDown]		135						135		135
[1]		129						129		129
[]		128						128		128
[←]		130						130		130
[→]		131						131		131
[PrintScreen]										
[ScrollLock]										
[Pause/Break]										
[!1 ぬ]	1	49	!	33			1	49	!	33
[″2 ను]	2	50	"	34			2	50	"	34
[#3 ぁあ]	3	51	#	35			3	51	#	35
[\$4 ぅう]	4	52	\$	36			4	52	\$	36
[%5 ぇえ]	5	53	%	37			5	53	%	37
[&6 おお]	6	54	&	38			6	54	&	38
['7ゃや]	7	55	,	39			7	55	,	39
[(8 фФ]	8	56	(40			8	56	(40
[)9ょよ]	9	57)	41			9	57)	41
[0 をわ]	0	48					0	48	0	48
[- ほ]	-	45	=	61	CTRL -	29	_	176	=	61
[~ ^]	^	94	~	126			^	94	~	126
[¥_]	¥	92		124			¥	92		124

はサポートしていないキーです。

	併用	なし	Sł	nift	СТ	RL	カタ	カナ	SHIFT	+カタカナ
+-	文 字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード
[Q t=]	q	113	Q	81	CTRL Q	17	q	113	Q	81
[W て]	W	119	W	87	CTRL W	23	w	119	W	87
[E いい]	е	101	Е	69	CTRL E	5	I	180	I	180
[R す]	r	114	R	82	CTRL R	18	r	114	R	82
[T か]	t	116	Т	84	CTRL T	20	t	116	Т	84
[Y λ.]	У	121	Υ	89	CTRL Y	25	У	121	Υ	89
[Uな]	u	117	U	85	CTRL U	21	ゥ	179	ゥ	179
[] []	i	105	I	73	CTRL I	9	1	178	1	178
[0 ら]	0	111	0	79	CTRL O	15	オ	181	オ	181
[P t]	р	112	Р	80	CTRL P	16	р	112	Р	80
[,@,]	@	64	`	96			"	222	`	96
[{[「。]	[91	{	123			Γ	162	۰	223
[A ち]	а	97	Α	65	CTRL A	1	7	117	7	117
[\$ \]	s	115	S	83	CTRL S	19	S	115	S	83
[D L]	d	100	D	68	CTRL D	4	d	100	D	68
[Fは]	f	102	F	70	CTRL F	6	f	102	F	70
[G き]	g	103	G	71	CTRL G	7	g	103	G	71
[H <]	h	104	Н	72	CHRL H	8	h	104	Н	72
[J ま]	j	107	J	74	CTRK J	10	j	107	J	74
[K Ø]	k	107	K	75	CTRK K		k	107	К	75
[L 4]	I	108	L	76	CTRK L	12	- 1	108	L	76
[+;ħ]	;	59	+	43			;	59	+	43
[*:け]	:	58	*	42	CTRL *	28	:	58	*	42
[]}」む]]	93	}	125			٦	163	}	125
[Zっつ]	Z	122	Z	90	CTRL Z	26	Z	122	Z	90
[X 5]	х	120	Х	88	CTRL X	24	х	120	Х	88
[C そ]	С	99	С	67	CTRL X		С	99	С	67
[V ひ]	٧	118	٧	86	CTRL V	22	٧	118	٧	86
[B =]	b	98	В	66	CTRL B	2	b	98	В	66
[Nみ]	n	110	N	78	CTRL N	14	ン	221	ン	221
[M も]	m	109	М	77	CTRL M	13	m	109	М	77
[<,、ね]	,	44	<	60				164	<	60
[>.。る]		46	>	62	CTRL >	30	0	161	>	62
[?/・め]	/	47	?	63	CTRL ?	31	/	47	?	63
[¥_ろ]	¥	92	-	95			¥	92	-	95

はカタカナローマ字入の子音のため、2文字入力にてコードが確定します。

1.15 編集操作操作キー

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」では、NTSC ビデオ出力画面、シリアルコンソール画面(CONSOLE 0)でのフルスクリーン編集をサポートしています。

編集キー一覧

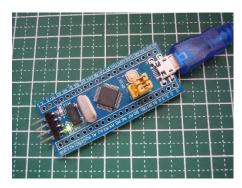
編集キー	機能
[ESC]	プログラム中断、シリアルコンソールでは要2回押し
[F1]	画面の全消去
[F2]	カーソル位置の行消去
[F3]	カーソルの次行に空行挿入
[F5]	画面の再表示
[BackSpace]	カーソル前の文字の削除
[Insert]	上書きモード、挿入モードも切り替え
[Home]	カーソルを行の先頭に移動
[END]	カーソルを行の末尾に移動
[PageUP]	カーソルを画面右上に移動、画面のスクローダウン
[PageDown]	カーソルを表示している最終行に移動、スクロールアップ
[Delete]	カーソル位置の文字の削除
[←]	カーソルを左に移動
[→]	カーソルを右に移動
[↑]	カーソルを上に移動
[↓]	カーソルを下に移動
[Enter]	行入力の確定、改行
[NumLock]	テンキーのロック、ロック解除
[カタカナ/ひらがな/ローマ字]	カタカナ入力のON、OFF
[Ctrl] + C	プログラム中断
[Ctrl] + D	カーソル位置の行削除
[Ctrl] + K	カタカナ入力のON、OFF
[Ctrll + L	画面の全消去
[Ctrl] + N	カーソルの次行に空白挿入
[Ctrl] + R	画面の再表示
[Ctrl] + X	カーソル位置の文字の削除

2. 実行環境の構築(執筆中)

この章では、安価な Blue Pill ボードで「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」を稼働させるための作業について説明します。初めて構築する場合は、最小構成から構築し問題なく動作したらパーツを追加して機能拡張を行っていくことをお勧めします。

2.1 最小限構成の実行環境構築

最小構成「Blue Pill ボート」+「USB ケーブル」+「ホストパソコン」で利用する場合の環境構築について説明します。 この構成では、Blue Pill ボートに追加するパーツ類は不要です。



1) 購入直後の動作確認

USB ケーブルにてパソコンやACアダプタの USB 端子に接続し、ボード上の2つの LED の点灯を確認します。 Blue Pill ボードには動作確認用のサンプルプログラムが書き込まれています。

チェックポイント

電源 ON を示す LED:常時点灯

プログラムから制御できる PC13 ポートに接続していLED:1 秒周期で点滅

- (注意) パソコンに接続した場合、不明な USB デバイスとして警告画面が表示される場合があります。 この段階では、警告を無視して下さい。
- Arduino STM32 用ブートローダの書込み Blue Pill ボードへのブートローダの書込み、 パソコンへのドライバーソフトのインストール

2.2 圧電サウンダー(圧電スピーカー)の追加

2.3 SD カードモジュールの追加

2.4 NTSC ビデオ出力の追加

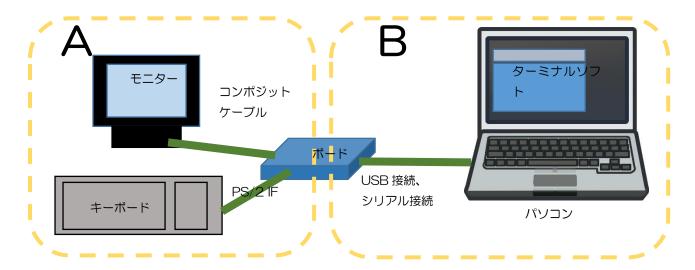
2.5 PS/2 キーボード インタフェースの追加

3. プログラミング環境とその設定

本章では、「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」を使ってプログラムの開発を行うための環境及びその設定について、解説します。

3.1 プログラミング環境のバリエーション

次の図は利用環境をあらわしたものです。



利用す環境のパターン

- ①Bのみ(ボードは追加パーツ無しでも利用可能) シリアルコンソール環境
- ②Aのみ(ボードには、PS/2 キーボード IF、NTSC ビデオ出力端子等のパーツ実装済) スタンドアローン環境
- ③A+B(パソコンを開発の支援環境として利用する) 複合利用環境

上記の環境にて快適に利用するために、本節以降の各環境の利用に必要な設定を行って下さい。

3.2 ファームウェア(スケッチ)更新後の初期設定

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」のファームウェア(スケッチ)を初めての利用、またはバージョンの更新を行った場合、内部フラッシュメモリのプログラム保存及び CONFIG データ保存用の領域の初期化が必要となります。 初期化は次の作業を行って下さい。

- ① プログラム保存領域の初期化 内部フラッシュメモリの初期化を行います。 詳細については下記の項目を参照して下さい。
 - ⇒ 「3.14 プログラム保存領域の初期化」
- ② 仮想 EEPROM 領域の初期化 システム設定情報を保存する領域の初期化を行います。 詳細については下記の項目を参照して下さい。 ⇒ 「3.13 仮想 EEPROM 領域の初期化」

初期化を行った場合、再設定が必要となります。

3.3 PS/2 キーボードに関する設定

PS/2 キーボードは、日本語キーボードと US キーボードに対応しています。

デフォルトでは日本語キーボード対応になっています。

利用するキーボードのタイプを一時的に切り替えるには CONFIG コマンドを利用します。

書式

CONFIG 1,キーボード選択(0:日本語キーボード 1:US キーボード)

例: US キーボードに切り替える

CONFIG 1,1

例: 日本語キーボードに切り替える

CONFIG 1,0

設定した状態を保存するののは、SAVECONFIG コマンドを実行します。

SAVECONFIG

これにより、次回以降の利用にも反映されます。

3.4 シリアルコンソールの通信条件の設定

ここでは、Windows 10 パソコン上でターミナルソフト TearTerm を利用する場合の設定について解説します。 Plue Pill ボードでは、USB ポートを使った接続とシリアルポートを使った2つの方法にて利用出来ます。

1) USB 接続(Blue Pill ボードの micro USB コネクタ経由)の場合

①通信条件の設定

ポート	設定値
ポート	各自の環境に合わせて設定
ボー・レート	115200(任意)
データ長	8 bit
パリティビット	無し
ストップビット	1bit
フロー制御	無し

USB 接続の場合、ボー・レートの設定任意です。

ボー・レートの設定は無視され USB 通信の最適な速度で通信を行うようです(推測)。

TeraTerm の設定は、メニュー[設定] - [シリアルポート]から[シリアルポート設定]画面を開いて行います。

②言語等に関する設定

「豊四季 Tiny BASIC for Arduino STM32」には 1 バイトコードの半角カタカナの利用をサポートします。 半角カタカナ利用のためには、利用する文字列コードとしてシフト JIS を指定します。

[設定] - [全般設定] - [全般設定]画面 の設定



言語 : Japanese 言語 UI : Japaneze.lng

[設定] - [端末の設定] - [端末の設定]画面 の設定





 漢字-受信
 : SJIS

 漢字-受信
 : SJIS

改行コード受信: AUTO、送信 CR ウィンドウサイズ: 区チェックを入れる

2) GPIO シリアルポート(PA9、PA10)の場合 接続には USB-シリアル変換モジュール等が必要となります。

①通信条件の設定

ポート	設定値
ポート	各自の環境に合わせて設定
ボー・レート	115200(任意)
データ長	8 bit
パリティビット	無し
ストップビット	1bit
フロー制御	無し

ボー・レートの設定は利用する USB-シリアル変換モジュールの性能の範囲で自由に選択して下さい。115200 以上での利用を推奨します。



Blue Pill ボードでは、TeraTerm で設定可能な最高速度 921600 での通信も可能です。 TeraTerm の設定は、メニュー[設定] - [シリアルポート]から[シリアルポート設定]画面を開いて行います。

②言語等に関する設定

設定は、「1)USB 接続(Blue Pill ボードの micro USB コネクタ経由)の場合」と同じです。

3.5 NTSC ビデオ出力の同期信号の調整

NTSC ビデオモニターの映像がスクロールする等、正常に表示出来ない場合は、次の調整を試してみてください。 改善される場合があります。

NTSC 垂直同期信号補正

CONFIG 0,補正(0~2 デフォルト値:0)

例:

CONFIG0,2

設定した状態を保存するののは、SAVECONFIGコマンドを実行します。

SAVECONFIG

これにより、次回以降の利用にも反映されます。

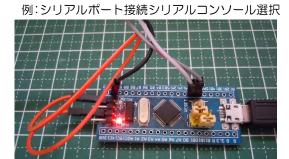
3.6 起動時のスクリーン画面の選択

起動時に次の設定にて利用するスクリーン画面を選択することが出来ます。

スクリーン画面	BOOT1	SWCLK	備考
NTSC ビデオ出力画面	0	-	
USB ポート接続シリアルコンソール	1	OPEN or LOW	
シリアルポート接続シリアルコンソール	1	HIGH	通信速度 115,200bps

BOO1 とSWCLK 端子





起動時に次の設定にて利用するスクリーン画面を選択することが出来ます。

(注意) SWCLK を 3.3V に結線した場合、2 点間に $80 \mu A$ (実測)の電流が流れます(0.265mW)。 消費電力を押さえたい場合は、間に大き目の抵抗 $(100K\Omega\sim1M\Omega)$ を間に入れて下さい。 $1M\Omega$ の抵抗を入れた場合、 3μ A(0.001mW)まで抑えられます。

3.7 スクリーン画面の設定

スクリーン画面(ログラムの表示・編集・実行を行う画面)は、デフォルトでは NTSC 出力画面となります。 また、入力デバイスは PS/2 キーボードとなります。

スクリーン画面は、下記の表のコマンドにより利用するモードを切り替えることが出来ます。

スクリーン画面	コマンド	説明
NTSC ビデオ出力画面	SCREEN 1	画面(解像度) : 224×216ドット
		テキスト : 37×27文字
	SCREEN 2	画面(解像度) : 224×108ドット
		テキスト : 37×13文字
	SCREEN 3	画面(解像度) : 112×108ドット
		テキスト : 18×13文字
シリアルコンソール	CONSOLE 1	USB シリアルポートまたは、GPIO シリアルポート接続のコンソール画面
		テキスト : 80×25 文字(デフォルト)
	補助コマンド	画面サイズは WIDTH コマンドにて、変更可能(16x10~128x50)
	WIDTH	例: WIDTH 80,40
	SMODE	
	3,,,,,,,,,	利用するシリアルポートの指定するコマンド
		SMODE 0 : USB シリアルポート利用(デフォルト(
		SMODE 1, "9600": GPIO シリアルポートの利用、引数に通信速度指定

3.8 内部 RTC の時刻設定

内部 RTC の時刻設定は次のコマンドで行います。

SETDATE 年,月,日,時,分,秒

例: SETDATE 2017,8,10,12,30,0

設定した時刻は DATE コマンドで確認できます。

例:DATE

2017/08/10 [Thr] 12;32:45

RTC の設定時刻は、SD カード利用した場合のファイル作成・更新時刻としても利用されます。

3.9 プログラムの保存と読み込み

作成したプログラムは内部フラシュメモリに保存可能です。

フラッシュメモリへの保存

SAVE プログラム番号(0~7)

フラッシュメモリからの読み込み

LOAD プログラム番号(0~7)

フラッシュメモリに保存しているプログラムのリスト表示

FILES

```
files
0:CLS
1:'oscilloscope
2:'ジョクヒョウジ
3:(none)
4:(none)
5:(none)
6:(none)
7:(none)
```

FILES コマンドはプログラムの先頭行を表示します。

プログラム番号の格納領域にプログラムが保存されていない場合は、(none)が表示されます。 フラッシュメモリ上のプログラムは ESASE コマンドにてにて削除することが出来ます。

LRUN コマンドを用いると、指定したプログラムをロードして実行することが出来ます。

LRUN 1

マイコンボードの起動時に予め指定したプログラムを起動することも可能です。 詳細は、「3.12 プログラムの自動起動設定」を参照して下さい。

また、SD カードモジュールを接続している場合、MMC 互換カード(SD カード含む)へのプログラムの保存、読み込みが可能となります。

MMC 互換カード(SD カード含む)への保存

SAVE "ファイル名"

MMC 互換カード(SD カード含む)からの読み込み

LOAD "ファイル名"

MMC 互換カード(SD カード含む)に保存しているプログラムのリスト表示

FILES ""

ファイルの保存先には、ディレクトリ名の指定も可能です。 詳細については、各コマンドのリファレンスを参照して下さい。

3.10 パソコンからのプログラム読込と保存

パソコンからマイコンボードにプログラムを転送する方法としては、 ターミナルソフトの画面にプログラムソースコピー&ペーストする方法が簡単でおすすめです。 この場合、ターミナル画面は SCREENO 以外のモードで行って下さい。

また、IchigoJam 等のキャラクター文字を利用しているプログラムを転送する場合、キャラクターコードが制御用文字コードとして処理していまい、正常に転送出来ない場合があります。この場合は、SMODE コマンドを使って一時的に制御用文字コードの機能を無効化してから転送して下さい。

制御用文字コードの機能を無効化

```
SMODE 3,0
```

制御用文字コードの機能を有効化

```
SMODE 3,1
```

3.11 フラシュメモリのエクスポート

内部フラッシュメモリに保存されている、プログラムをパソコンにバックアップする機能として、 EXPORT コマンドが用意されています。

パソコン上のターミナルソフトから接続した状態で、EXPORT コマンドを実行します。 ターミナルソフト上に保存されているプロフラムが全て出力されますので、その内容をコピー&ペーストにて メモ帳等に張り付けて保存します。

```
export
NEW
10 CIS
20 GETTIME H,M,S
30 @(0)=H/10:@(1)=H%10
40 @(2)=10
50 @(3)=M/10:@(4)=M%10
60 @(5)=10
70 @(6)=S/10:@(7)=S%10
80 FOR I=0 TO 7
90 BITMAP I*24+10,20,FNT,@(I)+ASC("0"),6,8,4
100 NEXT I
110 GOTO 20
SAVE 0
NEW
10 'oscilloscope
20 CLS
30 GPIO PB1,ANALOG
40 "LOOP"
50 R=ANA(PB1)
60 Q=R/20
70 LOCATE 0,0:?R;" "
80 PSET GW-1,GH-Q-4,1
90 WATT 50
100 GSCROLL 8,208,3
110 GOTO "LOOP
SAVE 1
1 '9 J7t309
5000 CLS
5010 GETTIME H,M,S
5020 @(0)=H/10:@(1)=H%10
5030 @(2)=10
5040 @(3)=M/10:@(4)=M%10
5050 @(5)=10
5060 @(6)=S/10:@(7)=S%10
5070 FOR I=0 TO 7
5080 BITMAP I*24+10,20,FNT,@(I)+ASC("0"),6,8,4
5090 NEXT I
5100 GOTO 20
OK
```

保存したプログラムをマイコンボードに読み込むには「3.10 パソコンからのプログラム読込と保存」の内容を参考にして、保存していたテキストの「NEW~SAVE X」の単位でコピー&ペーストしてプログラム番号単位で保存していきます。 作業については、「7.18EXPORT 内部フラッシュメモリの内容のエクスポート」の内容も参照して下さい。

3.12 プログラムの自動起動設定

マイコンボードの起動時にフラッシュメモリー上の指定したプログラム番号のプログラムを起動することが出来ます。 この設定は CONFIG コマンド、SAVECONFIG コマンドにて行います。

プログラム番号 0 を自動起動する場合は、次のコマンドを実行します。

CONFIG 2,0 OK SAVECONFIG OK

CONFIG コマンドの第2引数にプログラム番号(0~7)を指定します。

自動起動を解除する場合は、次のコマンドを実行します。

CONFIG 2,-1 OK SAVECONFIG OK

自動起動するプログラムには、SD カード上のプログラムを指定することは出来ませんが、 フラッシュメモリーから起動されるプログラムから RLUN コマンドを使って間接的に起動することが出来ます。

10 LRUN "STAT.BAS"

3.13 仮想 EEPROM 領域の初期化

仮想 EEPROM 領域には、システム設定情報とユーザー用仮想 EEPROM 用に利用します。

この領域を初期化は EEPFORMAT コマンドを実行して下さい。

具体的には、次のコマンドを実行して下さい。

EEPFORMAT OK

3.14 プログラム保存領域の初期化

内部フラッシュメモリの初期化は、ERASE コマンドを利用します。

具体的には、次のコマンドを実行して下さい。

ERASE 0,7 OK

3.15 MMC 互換カード(SD カード含む)の初期化

MMC 互換カード(SD カード) の初期を行い場合は、FAT16 たまは FAT32 形式で行って下さい。 通常、購入した SD カードは FAT16 または FAT32 にてフォーマットされており、そのまま利用することが出来ます。

なお、MMC 互換カード(SD カード) は電気的に弱い面もありますので、万が一の故障を想定し、重要なデータを保存する用途との併用は避け、なるべく専用のカードを用意して下さい。

4. 使ってみよう!

この章では、「レガシーBASIC(古き良き時代の BASIC 言語)の雰囲気を知らない方々にその雰囲気をつかんでもらいましょう」ということで、軽いフットワークで解説進めます。

準備 OK? 前章の実行環境は完璧? それでは電源を入れて使ってみよう!

4.1 入力可能状態は OK■(カーソル)

OK ■

この状態は、「いつでもこいや〜」状態。 きみのコマンド入力を待っている状態。 何か打ち込んでみよう!

4.2 Hello,world を表示してみる

直接、次の文字を打ってみよう。 print "Hello,world" Enter

入力ミスの修正は[BS]キー、[DEL]キー、カーソルキーなどいつものキーが使えるよ。

入力出来たら、最後に[Enter]キーを押してみよう。

print "Hello,world" Enter Hello,world OK

表示出来たね。PRINT は文字列を表示するコマンドなのです!

入力は大文字、小文字どちらでも OK!

4.3 Hello,world を Hello,Tiny BASIC に変更してみる

カーソルキー[↑][↓][←][→]でカーソルを動かして、worldのwに移動してみよう。
print "Hello, orld"
Hello, world

[DEL]キーで world を削除して、代わりに Tiny BASIC と入力しよう。
入力後に、[Enter]キーを押すのを忘れずに!
print "Hello, Tiny BASIC"
Hello, Tiny BASIC
OK

こんな感じで[Enter]がコマンド実行の合図だ。

[Enter]を入力する際、カーソルは行のどこにあっても構わない。

4.4 PRINT の前に 10 を追加してプログラムにしよう

```
再びカーソル操作で print の前に 10 を挿入して[Enter]キーを押してみよう。
10 print "Hello,Tiny BASIC" Enter

ello,Tiny BASIC
OK

これでプログラムとして登録された。LIST コマンドで確認してみよう。
カーソルを OK の下の空き行に移動して、list と入力
10 print "Hello,Tiny BASIC" Enter
Hello,Tiny BASIC
OK
list Enter
10 PRINT "Hello,Tiny BASIC"
OK
■
```

登録したプログラムの内容が表示されたね。

まだ、行番号10しか登録していないので、その1行だけの表示だ。

このように、先頭に数字(=行番号)をつけると行番号の後ろのコマンドがプログラムとして登録されるのだ。

4.5 プログラムを実行してみよう

う~ん、気分的に、画面を綺麗にしてから表示したくなった。

画面をきれいにしてから、3回実行してみよう。

cls Enter
OK
run Enter
Hello,Tiny BASIC
OK
run Enter
Hello,Tiny BASIC
OK
run Enter
Hello,Tiny BASIC
OK
run Enter

3回同じ処理が実行出来たね。

CLS は画面を消すコマンド、RUN はプログラムを実行。よく使うコマンドだよ。

4.6 プログラムに追加する

```
今の"画面きれいにしてから、3回表示"をプログラムにやらせてみよう!
次をように入力して、プログラムとして登録するよ。
5 cls Enter
7 for i=1 to 3 Enter
20 next i Enter
入力したプログラムを確認!
List Enter
5 CLS
7 FOR I=1 TO 3
10 PRINT "Hello, Tiny BASIC"
20 NEXT I
OK
今入力した5,7,10行が追加されたね。プログラムは行番号順に表示されるよ。
それでは実行! run コマンドで実行するよ。
run Enter
Hello, Tiny BASIC
Hello, Tiny BASIC
Hello, Tiny BASIC
 3 行表示出来た。
 プログラムの実行順番は行番号順。CLS が最初に実行されるよ。
 FOR 文は繰り返しを行う命令。3回10行の表示を行ったよ。
```

4.7 行番号を並びなおす

行番号の 5,7,10,20 と並びがちょっと美しくないですね。 直してみよう。

RENUM コマンドを使ってプロフラムの行番号を 10 ずつに整えるよ。

```
retum Enter
OK
List Enter
10 CLS
20 FOR I=1 TO 3
30 PRINT "Hello,Tiny BASIC"
40 NEXT I
OK
きれいに並んだね。
```

やっぱり 10 行は不要、削除したい 4.8

```
やっぱり、直前の表示内容は消したくない。
10 行はいらない。削除したい。行番号だけ入力して[Enter]を押してみよう。
```

10 Enter

```
これで10行が削除されるよ。確認してみよう。
```

```
List Enter
20 FOR I=1 TO 3
30 PRINT "Hello, Tiny BASIC"
40 NEXT I
OK
```

10 行が無くなったね。

20 行から始まるのは美しくない。行番号をまた振り直そう。

```
renum Enter
10 FOR I=1 TO 3
20 PRINT "Hello, Tiny BASIC"
30 NEXT I
```

こんな感じ行番号だけの入力で、行削除。よく使う操作だよ。

4.9 プログラムを保存したい

```
今作成したプログラムは SRAM 上に保存されているのだ。
マイコンの電源を切ると消えてしまう・・・
```

消えないで欲しい・・・。そんな時、SAVE コマンドを使うよ。

SAVE コマンドはプログラムをフラッシュメモリに保存するよ。

フラッシュメモリに保存されたプログラムは電源を切っても消えないよ。

次のコマンドを打ってみましょう。

```
save Enter
OK
```

これで保存できたはずだ。

4.10 保存されたプログラムを読み込み

本当に保存されているか確認してみましょう。

SRAM 上のプログラムを消してフラッシュメモリか読み込みと試してみよう。

NEW コマンドを打ってプログラムを初期化するよ。

```
new Enter
```

OK

これで消えたはず。

LIST コマンドで確認。

list Enter

何も出てこない。本当に消えた。

次に LOAD コマンドでフラッシュメモリからプログラム読み込むよ。

```
loadEnter
ΟK
list Enter
10 FOR I=1 TO 3
20 PRINT "Hello, Tiny BASIC"
30 NEXT I
ΟK
```

成功!復活出来た!・・・これで基本的な操作は終了だ。

基本はバッチリ、準備万端! Tiny BASIC を使った更なるプログラミングをエンジョイしよう!

5. プログラム構成要素の説明(コマンド・関数等)

本章では、「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」がサポートするプログラム言語について解説します。

5.1 プログラムの構造と形式

次のプログラムリストは、画面に時刻を表示するプログラムです。

実行すると NTSC ビデオ画面に時刻を更新表示します。

10 CLS:SETDATE 2017,8,1,8,57,0

20 GETTIME H,M,S

30 @(0)=H/10:@(1)=H%10

40 @(2)=10

50 @(3)=M/10:@(4)=M%10

60 @ (5) = 10

70 @(6)=S/10:@(7)=S%10

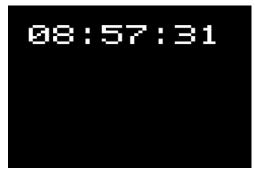
80 FOR I=0 TO 7

90 BITMAP I*24+10,20,FNT,@(I)+ASC("0"),6,8,4

100 NEXT I

110 GOTO 20

実行結果



プログラムの構造的は・・・・

プログラムは複数の行(行番号+命令文)で構成されます。

- 例)10 CLS: SETDATE 2017,8,1,8,57,0 : 画面の表示内容を全消去し、時刻を設定する命令文は1つまたは複数のコマンドや式で構成されます。
- 例) 30 @(O)=H/10:@(1)=H%10 : 2つの代入式を記述 配列変数@(O)、@(1)に値を代入するコマンドはコマンド名と引数で構成されます。
- 例)20 GETTIME H, M, S : 変数 H, M, S に現在の時間、分、秒を代入する引数は式、変数、定数にて構成されます。
 - 例) BITMAP |*24+10,20,FNT,@(I)+ASC("O"),6,8,4: 引数に式を記述しその計算結果を引数として渡している

基本的に、プログラムは行番号順にシーケンシャルに実行されます。

- 例)10行から70行までは行番号順に実行し配列変数@(O)から@(6)に時刻情報を設定します制御命令により、分岐や繰り返しを行うことが出来ます。
 - 例) 80 行~100 行は FOR ~ NEXT により、8 回処理を繰り返します。
 - 例) 20 行~110 行は GOTO 文により無限に処理を繰り返します。

このようにプログラムは様々な要素で構成れます。

次節からは、これらの各構成要素について解説します。

5.2 行と命令文

口行

行とは利用者がコンピュータに対して指示を行う単位です。行は命令文にて構成されます。 「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」では、行の単位で利用者からの指示を処理します。

スクリーンエディタ、およびコンソールから、

PRINT "Hello" Enter Hello OK

のように Enter キーの入力により、行の単位で指示を受け取りその処理を行います。 また、行の先頭に行番号を付けた場合、

10 PRINT "Hello" Enter

「指定した行番号で行(命令文)をプログラムに登録せよ」

との指示であると判断し、命令文は実行せずに、行(命令文)をプログラムとしてメモリーに登録します。

10 Enter

のように行番号だけを指定した場合は、

「指定した行番号で行(命令文)を削除せよ」

との指示であると判断し、該当する行をプログラムから削除します。

□ 命令文

命令文とはコマンド、式、関数、コメント、ラベルを組み合わせて記述した命令です。

コマンドはコロン:を使って1行に複数記述することができます。

10 I=I+1:LOCATE 0,I:COLOR 7,0:PRINT "Hello":GOTO 50:'サンプル

コメント文

文において、REM、および省略形のシングルクオーテーション'を使った以降の文はコメントとなります。

例:

10 'Smple program

20 REM Sample program

30 PRINT "Hello": 'print hello

ラベル

行の先頭のダブルクオテーションで囲った文字列はラベルとして動作します。

ラベル自体は実行時に何も行いません。GOTO 文、GOSSUB 文のジャンプ先の指定で利用します。 ラベルの後ろにはコマンドを続けて記述することができます。

例:

10 "LOOP":PRINT "Hello"

20 GOTO "LOOP"

5.3 制御文

制御文は制御命令を使ったプログラムの記述文です。複数のキーワード、式の組み合わせで構成されます。 プログラムは RUN コマンドを実行することにより、通常は先頭行から行番号順に逐次実行されます。 この逐次実行は制御文を用いることで条件分岐、繰り返しを行うことが出来ます。

FOR 文の例:繰り返し処理を行う

10 FOR A=0 TO 10 STEP 5

20 PRINT A

30 NEXT A

以下に制御命令の一覧を示します。

制御命令	説明
GOTO 行番号	指定行へのジャンプ
GOTO ラベル	
GOSUB 行番号	サブルーチンの呼び出し
GOSUB ラベル	
RETURN	GOSUB 文サブルーチン呼び出しからの復帰
<u>F</u> 条件式 実行文 1	条件判定
<u>F</u> 条件式 実行文 1 ELSE 実行文 2	
FOR 変数=初期値 TO 最終値 実行文(複数行可能) NEXT 変数	繰り返し
FOR 変数=初期値 TO 最終値 STEP 増分 繰り返し実行文 NEXT 変数	
END	プログラムを終了する

各制御命令の詳細については、「6各制御文の詳細」を参照して下さい。

5.4 コマンド・関数

コマンド

コマンドとは何らかの処理を行うプログラム要素です。コマンドには一般コマンドとシステムコマンドの2種類があります。 一般コマンドはコマンドラインからの直接利用とプログラム内での利用が可能です。

システムコマンドは、プログラムの管理を行うコマンドです。プログラム中で利用した場合、不整合が生じるため、コマンドラインでのみ利用可能としています。

システムコマンドをプログラム中で利用した場合、エラー("Cannot use system command")となります。

例:プログラム内にシステムコマンド <u>DELETE</u>を記述

10 ? "SAMPLE"

20 DELETE 10

30 END

RUN

Cannot use system command in 20

20 DELETE 10

OK

関数

関数とは何らかの値を返す命令文です。関数には数値関数と文字列関数の2種類があります。

数値関数は数値を返す関数です。文字列関数は文字列を返す関数です。

数値関数はコマンドの引数や式のなどの数値として利用します。

文字列関数は PRINT, SPRINT, GPRINT の引数、ファイル名の引数にて利用できます。

例:関数の利用

上記のプログラムは文字"A"のフォントパターンを2進数で表示します。

10 行にて数値関数 <u>ASC()</u>を利用しています。30 行で文字列関数 <u>BIN\$()</u>を利用しています。

関数単独での利用は出来ません。コマンドや関数の引数、式中でのみ利用可能です。

例:関数の利用は文法エラーとなる

```
ASC("A")
Syntax error
OK
```

5.5 コマンド・関数一覧

機能別に分類したコマンド及び関数の一覧を示します。

各コマンド及び関数の利用方法の詳細については、「7.各コマンド・関数の詳細」を参照して下さい。

□ システムコマンド

RUN	プログラムの実行
RENUM	行番号の振り直し
RENUM 先頭行番号	先頭行番号:振りな直し開始先頭行
RENUM 先頭行番号,間隔	間隔:行間の増分
DELETE 行番号	プログラムの指定行の削除
DELETE 先頭行番号,末尾行番号	

□ プログラム関連

コマンド

CONSLE E-F	コンソール画面の切替
	モード
	OFF(0): デバイスコンソール
	ON(1): シリアルコンソール
SCREEN モード、[画面向き]	スクリーンモードの変更
	モード
	NTSC 版
	1: 224x216 ドット、2 : 224x108 ドット、3:112x108 ドット
	OLED 版
	1:21x8 文字、2:10x4 文字、3:7x2 文字
	TFT 版
	1:53x30、2:26x15、3:17x10、4:13x7、5:10x6、6:8x5 文字
	画面向き
	OLED、TFT 版でのみ指定可能
	0~3 で時計回りで 90 度づず回転
WIDTH 横文字数,縱文字数	シリアルターミナルの画面サイズの設定
LIST	プログラムリストの表示
<u>LIST</u> 開始行番号	開始行番号:表示を開始する行
	100013 H 3 203 C 1000 3 3 13
LIST 開始行番号,終了行番号	終了行番号:表示を終了する行
LIST 開始行番号,終了行番号 NEW	
	終了行番号:表示を終了する行
NEW	終了行番号:表示を終了する行 プログラムの消去
NEW LOAD	終了行番号:表示を終了する行 プログラムの消去 内部フラッシュメモリ/SD カードからプログラム読込み

SAVE	内部フラッシュメモリ/SD カードへのプログラム保存
	内部フラブユス C 9/3D 27 1 1 1 1 1 2 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1
SAVE [プログラム番号]	プログラム番号:保存先番号(O~9)
SAVE "ファイル名"	″ファイル名″:SD カード上のファイル名
FILES	内部フラッシュメモリ/SD カードのプログラム一覧表示
	開始,終了;プログラム番号
 FILES "パス名"	"パス名":フォルダ名、ファイル名(ワイルドカード可能)
BLOAD ″ファイル名″,アドレス ,バイト数	SD カードからバイナリデータ読込
BSAVE "ファイル名",アドレス ,バイト数	SD カードへのバイナリデータ保存
REM [コメント文] or '[コメント文]	コメント 省略形の'(シングルクオテーション)も可能
	変数・配列変数に値を代入(LET は省略可能)
 ET @(添え字)=n1[,n2,n3,n4…]	配列変数では連続代入指定が可能
CLV	変数領域の初期化
 RUN プログラム番号	指定したプログラムを内部フラッシュ/SD カードから読込んで実行する
 _RUN プログラム番号,行番号	
_RUN プログラム番号,″ラベル″	
_RUN ″ファイル名″,″ラベル″	
EXPORT	内部フラッシュメモリの内容をエクスポートする
 EXPORT 対象プログラム番号	対象番号 エクスポートする番号
EXPORT 開始プログラム番号,終了プログラム番号	開始番号、終了番号 エクスポートする範囲
CONFIG 項目番号,設定値	システムの設定
SAVECONFIG	システム設定の保存
RASE プログラム番号	内部フラッシュメモリ上のプログラム削除
RASE 開始プログラム番号,終了プログラム番号	
MKDIR ″ディレクトリ名″	ディレクトリの作成
RMDIR ″ディレクトリ名″	ディレクトリの削除
 REMOVE "ファイル名"	ファイルの削除
CAT "ファイル名"	ファイルの内容表示
BSAVE "ファイル名",アドレス ,バイト数 REM [コメント文] or [コメント文] LET 変数=式 LET の(添え字)=n1 [,n2,n3,n4…] DLV LRUN プログラム番号 RUN プログラム番号、行番号 RUN プログラム番号、デラベル RUN "ファイル名"、「万本号 RONFIG 項目番号、設定値 SAVE プログラム番号 WKDIR "ディレクトリ名" RMDIR "ディレクトリ名" RMDIR "ディレクトリ名" RMDIR "ディレクトリ名"	SDカードへのバイナリデータ保存 コメント 省略形の'(シングルクオテーション)も可能 変数・配列変数に値を代入(LET は省略可能) 配列変数では連続代入指定が可能 変数領域の初期化 指定したプログラムを内部フラッシュ/SDカードから読込んで実行する 対象番号 エクスポートする番号 開始番号、終了番号 エクスポートする範囲 システムの設定 システム設定の保存 内部フラッシュメモリ上のプログラム削除 ディレクトリの作成 ディレクトリの削除 ファイルの削除

数値関数

ABS(整数)	絶対値の取得
ASC(変数)	変数が参照する文字列の取得/文字列の切り出し
ASC(変数,文字位置)	例 A=ASC("ABCD",2)
ASC(文字列)	S="ABC":B=ASC(S,2)
ASC(文字列,文字位置)	
FREE()	プログラム領域の残りバイト数の取得
INKEY()	キー入力の読み取り
RND()	乱数の発生
LEN(変数)	文字列長の取得
LEN(文字列)	
MAP(値,開始範囲 1,終了範囲 1, 開始範囲 2,終了範囲 2)	数値のスケール変換

文字列関数

CHR\$(文字コード)	画文字コードから文字への変換
BIN\$(数值[,桁指定))	数値から2進数文字列への変換
HEX\$(数值[,桁指定))	数値から 16 進数文字列への変換
DMP\$(数值)	整数の小数付き数値文字列への変換
DMP\$(数值,小数桁数)	小数桁数 O~4
DMP\$(数值,小数桁数,整数部桁数)	整数部桁数 ○~8
STR\$(変数)	変数が参照する文字列の取得
STR\$(変数,先頭,長さ)	
STR\$(文字列)	
STR\$(文字列,先頭,長さ)	

□ 時間待ち・時間計測関連

コマンド

WAIT ミリ秒	時間待ち
CLT	TICK()の経過時間のリセット

数值関数

TICK()	起動からの経過時間取得
<u>TICK</u> ([モード])	モード:O ミリ秒秒単位、1: 秒単位

□ 記憶領域操作関連

コマンド

POKE アドレス,データ[,データ,データ]	指定アドレスへのデータ書き込み

数值関数

-		
I	PEEK(アドレス)	指定アドレスの値参照

□ キャラクタ表示関連

コマンド

豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32 V0.85 リファレンスマニュアル RV02

<u>PRINT</u> [#n,] 数値・文字列[; 数値・文字列…][;]	画面への文字表示 文末:で改行の抑制可能
INPUT 変数	数値の入力
INPUT 変数,オーバーフロー時の既定値	例: INPUT "A=",A,-1
INPUT プロンプト,変数	
INPUT プロンプト,変数,オーバーフロー時の既定値	
<u>CLS</u>	画面表示内容の全消去
COLOR 文字色	文字色の設定 ※ターミナル版でのみ利用可能
COLOR 文字色,背景色	
ATTR 属性	文字表示属性設定 ※ターミナル版でのみ利用可能
LOCATE 横位置,縱位置	カーソルの移動
REDRAW	画面表示の再表示
CSCROLL x1,y1,x2,y2,方向	指定領域内での文字スクロール

数值関数

\ (DCCL\ (\t+\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\	東京北京位置の立向コード名昭
VPEEK(横位置,縦位置)	画面指定位置の文字コード参照

□ グラフィク表示関連

コマンド

PSET x, y, 色	点の描画
LINE x1,y1,x2,y2,色	直線の描画
<u>RECT</u> x1,y1,x2,y2,色,モード	矩形の描画
<u>CIRCLE</u> x, y,半径,色,モード	円の描画
BITMAP x, y, アドレス, インデックス, 幅, 高さ [.倍率]	ビットマップ画像の表示
<u>GPRINT</u> X,Y,[#n,] 数値・文字列[:数値・文字列…][:]	指定位置に文字列描画
GSCROLL x1,y1,x2,y2,方向	指定領域内でのグラフィックスクロール
LDBMP "ファイル名",アドレス,bx,by, 幅, 高さ [,色指定]	SD カードから BMP ファイルをメモリにロード
DWBMP "ファイル名",x, y, bx, by 幅, 高さ [,色指定]	SD カードから BMP ファイルをロードして表示

数值関数

GPEEK(横位置,縦位置)	画面上の指定位置ピクセルの参照
GINP(横位置,縦位置,高さ,幅,色)	指定領域のピクセルの有無判定

□ サウンド関連

コマンド

TONE 周波数,出力期間	指定周波数のパスル出力	
NOTONE	パルス出力の停止	

□ RTC (時刻) 関連

コマンド

DATE 現在時刻の表示	
GETDATE 変数 1, 変数 2, 変数 3, 変数 4	日付の取得 変数 1 ら順に年,月,日,曜日コードを格納
GETTIME 変数 1,変数 2,変数 3	時刻の取得 変数 1 から順に時,分,秒を格納
SETDATE 年,月,日,時,分,秒	時刻の設定

□ GPIO・入出力関連

コマンド

	GPIO ピン名 ピン番号,機能名	GPIO 機能設定		
		ピン名利用時は GPIO 記述省略可能		
	OUT ピン番号,出力値	デジタル出力		
	POUT ピン番号, デューティー値	PWM パルス出力		
	POUT ピン番号, デューティー値,周波数			
	SHIFTOUT データピン,クロックピン, 出力形式,出力データ	デジタルシフトアウト出力		

数值関数

IN(ピン番号)	デジタル入力
ANA(ピン番号)	アナログ入力
SHIFTIN(データピン番号, クロックピン番号, 入力形式)	デジタルシフトイン入力
SHIFTIN(データピン番号, クロックピン番号, 入力形式,条件)	
I <u>2CR</u> (デバイスアドレス,コマンドアドレス,コマンド長,	I2C スレーブデバイスからのデータ受信
データアドレス,データ長)	
<u>I2CW</u> (デバイスアドレス,コマンドアドレス,コマンド長,	I2C スレーブデバイスへのデータ送信
データアドレス,データ長)	

ロ シリアル通信関連

コマンド

SMODE T-F	GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え
SMODE モード, "通信速度"	
SOPEN "通信速度"	シリアルポートのオープン
SCLOSE	シリアルポートのクローズ

豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32 V0.85 リファレンスマニュアル RV02

<u>SPRINT</u> [#n,] 数値・文字列: 数値・文字列:	シリアルポートへの文字列出力
SWRITE データ	シリアルポートからの 1 バイト送信

数值関数

SREADY()	シリアル通信 受信データ確認
SREAD()	シリア通信 1 バイト受信

□ 仮想 EEPROM 関連

コマンド

EEPFORMAT	仮想 EEPROM のフォーマット
EEPWRITE アドレス,データ	仮想 EEPROM のへのデータ書き込み

数值関数

EEPREAD(アドレス)	仮想 EEPROM のからのデータ読み込み

システムコマンド、一般コマンドの詳細については「7各コマンド・関数」を参照して下さい。

5.6 数值

□ 数値

「Tiny BASIC for Arduino STM32」で使える数値は整数型のみとなります。

整数型は 16 ビット幅、有効範囲は-32768~32767 となります。式、数値定数、数値関数、変数、配列変数はすべてこれに従います。

数値の表記は次の形式が可能です。

10 進数表記(-32768~32767) :-1、-32767, 100

16 進数表記(1 桁~4 桁) : \$1345, \$abcd, \$Abcd

(注意)

数値を中間コードに変換(文字列数値を2バイト型数値に変換)する際、オバーフローが発生した場合は oberflow エラーとなります。

例(1):

?32768 Overflow

評価・演算においてオーバーフローが発生した場合はエラーとはなりません。

例②:

?32767+1 -32768

例①、例②は一見、同じような記述ですが、結果に差異が発生することをご理解下さい。

5.7 文字·文字列

□ 文字・文字列

「Tiny BASIC for Arduino STM32」では半角英数字の文字列を扱うことが出来ます。 文字列の表記は次の通りです。

"文字列": ダブルクォーテーションで囲みます。

文字列は 0~255 文字まで指定可能です。

例:

?PRINT "Hello" Hello OK

5.8 変数

□ 変数

変数とは数値を格納する保存領域です。数値と同様に式に利用できます。

変数には、通常の変数の他に配列変数があります

変数に格納する数値は 16 ビット幅、有効範囲は-32768~32767 となります。

変数は数値型のみ利用可能ですが、文字列の格納アドレスを代入することにより、文字列の参照を行うことが出来出来ます。

変数の表記

通常の変数 : 変数名は英字 A~Z の1文字、または英字+数字(O~6)の2文字の利用が可能です。

例:

10 A0=200

20 A1=300

30 A=A0+A1

40 S="Hello"

配列変数 : @(添え字)の形式で添え字は数値で $O\sim99(@(O)\sim@(99))$ まで利用可能添え字の数値には式、変数等の利用が可能

例:

10 A=5

20 @ (0) = 30/5

30 @(A+1)=5

代入式において、指定した添え字を起点として連続代入が可能

例

10 @(10)=100,200,300,400,500

5.9 演算子

□ 演算子

数値演算で利用できる演算子を示します。

記述例のA,Bには数値、変数、配列変数、関数、カッコで囲んだ式が利用できます。

算術演算子

演算子	説明		記述例
+	足し算	A+B	A と B を足す
-	引き算	A-B	A から B を引く
*	掛け算	A*B	AとBの積
/	割り算	A/B	AをBで割る
%	剰余算	A%B	A を B で割った余り

ビット演算子

演算子	説明	記述例
&	ビット毎の AND 演算	A&B AとBのビット毎のAND
	ビット毎の OR 演算	A B AとBのビット毎のOR
>>	ビット右シフト演算	A>>B Aを右にBビットシフト
<<	ビット左シフト演算	A< <b a="" b="" th="" を左に="" ビットシフト<="">
~	ビット毎の反転	~A A の各ビットを反転
^	ビット毎の XOR	A^B AとBのXOR

比較演算、論理演算の論理反転は、〇が偽、〇以外が真となります。

〇以外が真となりますので、1、-1 はとも真となります。

比較演算子

演算子	説明		記述例
=	等しいかを判定	A=B	AとBが等しければ真,異なれば偽
! =	異なるかを判定	A!=B	A と B が異なれば真,等しければ偽
<	小さいかを判定	A <b< th=""><th>A が B 未満であれば真、そうでなければ偽</th></b<>	A が B 未満であれば真、そうでなければ偽
<=	小さいまたは等しいかを判定	A<=B	A が B 以下であれば真、そうでなければ偽
>	大きいかを判定	A>B	A が B より大きければ真、そうでなければ偽
>=	大きいまたは等しいかを判定	A>=B	A が B 以上であれば真、そうでなければ偽
<>			

論理演算子

演算子	説明	記述例
AND	論理積	A AND B A.B が真なら真、でなければ偽
OR	論理和	A OR B A,B どちらかが真なら真、でなければ偽
!	否定	!A Aが真なら偽、偽なら真

□ 演算子の優先順序

演算子の優先度を下記に示します。優先度の数値が小さいほど優先度が高くなります。 計算結果が意図した結果にならない場合は、優先度の確認、括弧をつけて優先度を上げる等の対応を行って下さい。

演算子の優先度

優先度	演算子
1	括弧で囲った式
2	!, ~
3	*, / , % , &, . << , >>,^
4	+ , - ,
5	=, <> , != , >, >= , < , <= , AND , OR

比較演算子と論理演算は優先度が同レベルです。比較演算子の演算を先に行う場合は、 括弧を使って優先度を上げて下さい。

例:

?1<5 and 2>3 0 ?(1<5) and (2>3) 1

5.10 式

口 式

式とは 1、1+1、A、A+1、ABS(-1) などの演算・値の評価を伴う記述をいいます。

式はプログラム実行にて計算・評価が行われ、1つの整数値の値として振る舞います。

変数への値の代入、コマンド、条件判定(IF文)、関数に引数に式が用いられた場合は、評価後の値がコマンドおよび関数に渡されます。

式の利用:

変数への値の代入(代入命令 LET は省略可能)

LET A=(1+10)*10/2 A=5*5+3*2 @(I+J) = I*J

コマンド・関数の引数

LOCATE X+I*2, J:PRINT "*"

OUT PC13, I>J

A=EEPREAD(I+J+1)/2

5.11 定数

「Tiny BASIC for Arduino STM32」では次の定数が利用出来ます。 定数はコマンドの引数や式の中で数値関数と同等に利用出来ます。

□ 1ビット入出力値

HIGH, LOW

HIGH は 1,LOW は 0 が割り当てられています。

各コマンドの引数、IF文、式にて利用出来ます。

□ メモリ領域先頭アドレス定数

VRAM, VAR, ARRAY, PRG, MEM, FNT, GRAM

データ領域を参照するための定数です。各定数の詳細は次の通りです。

定数名	値	領域サイズ	用途
VRAM	\$0000	(可変最大)4096	スクリーン表示用メモリ(CW×CH)
VAR	\$1000	576	変数領域(A~Z, AO~Z9)+ 4 バイト
ARRAY	\$1240	200	配列変数領域(@(O)~@(99))
PRG	\$1340	4,096	プログラム領域
MEM	\$2340	1,024	ユーザーワーク領域
FNT	\$2740	(可変最大)2,048	フォント 256 文字(フラッシュメモリ)
GRAM	\$2F40	(可変最大)6,048	グラフィック表示用メモリ

定数値のアドレスは仮想的なアドレスです。実アドレスとは異なります。

PEEK、POKE、I2CW、I2CR、BITMAP、LDBMPのメモリ領域を利用するコマンドで利用できます。

□ 画面表示の定数

画面サイズを参照する定数です。

CW : キャラクタ画面の横文字数(6x8 フォントの場合 37) CH : キャラクタ画面の縦行数(6x8 フォントの場合 27)

GW : グラフィック画面の横ドット数(224) GH : グラフィック画面の縦ドット数(216)

□ 方向を示す定数

CSCROLL, GSCROLL コマンドでスクロール方向を指定に利用出来ます。

UP :値 0 DOWN: 値 1 RIGHT: 値 2 LEFT:値 3

□ ピン番号定数

GPIO、OUT、IN、ANA、SHIFTOUT、SHIFTIN コマンド・関数のピン番号の指定に利用します。

各ピン番号定数に実際のピン番号 0~34が割り当てられています。

PA0, PA1, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8 PA9, PA10, PA11, PA12, PA13, PA14, PA15 PB0, PB1, PB2, PB3, PB4, PB5, PB6, PB7, PB8 PB9, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PB15 PC13, PC14, PC15

□ GPIO モード設定定数

GPIO コマンドのモード設定を行うための定数です。
OUTPUT_OD, OUTPUT, INPUT_PU, INPUT_PD, ANALOG, INPUT_FL

□ ビット方向定数

LSB, MSB

ビット送信等で上位、下位を指定するための定数です。

SHIFTIN,SHFITOUT コマンドで利用します。

□ OFF/ON 定数

OFF : 値 O ON : 値 1

5.12 文字列利用における制約

「Tiny BASIC for Arduino STM32」では制約付きで文字列の利用をサポートしています。 変数への代入も可能です。

例:

10 A="ABCDE"
20 PRINT A
RUN
ABCDE
OK

変数への文字列代入は、文字列格納アドレスを変数に代入することにより実現しています。

C 言語のポインタによる参照方式と同等です。

ただし、「Tiny BASIC for Arduino STM32」では文字列情報を[長さ+文字列]の形式で管理しているため、文字列の参照を代入した変数の値を変更して利用することは行えません。

下記のような利用は出来ません。行った場合、意図しない動作となります。

例:

10 A="ABCDE" 20 A=A+1 30 PRINT A

また、コマンドラインでの利用は行えません。文字列参照が正しく行うことが出来ません。

例:

A="ABCDE"	
OK	
?A	

変数に代入した文字列の操作を行う次の関数を用意しています。

・LEN() 文字列の長さの取得

```
10 A="ABCDE"
20 L=LEN(A)
RUN
OK
```

・STR\$() 変数で参照している文字列の取得、部分切り出し

```
10 A="ABCDE"
20 PRINT STR$(A)
30 PRINT STR$(A,4,1)
RUN
ABCDE
D
OK
```

・ASC() 指定位置の文字コードの取得 :

```
10 A="ABCDE"
20 C=ASC(A,4,1)
RUN
68
OK
```

6. 各制御文の詳細

6.1 GOTO 指定行へのジャンプ (制御命令)

た書 口

GOTO 行番号 GOTO ″ラベル″

□ 説明

プログラムの実行を行番号、"ラベル"で指定した行にジャンプします。

行番号には数値、式(変数、関数を含む)が利用可能です。

ラベルを指定した場合、行先頭に同じラベルがある行にジャンプします。

ラベルはダブルクオテーション(´)で囲って指定します。

```
10 I=0
20 "LOOP"
30 PRINT "@"
40 I=I+1:IF I=5 GOTO 60
50 GOTO "LOOP"
60 END
```

上記の例では、40 行の GOTO で 60 行にジャンプ、50 行のラベル指定で 20 行にジャンプしています。 ラベルを使うとプログラムの流れがわかりやすくなります。

行の先頭に無いラベルは、ジャンプ先としての利用は出来ません。

```
10 GOTO "hoge"
20 END
30 ? "Hello":"hoge":?"test"
run
Undefined line number or label in 10
10 GOTO "hoge"
OK
```

行番号には式や変数の指定が可能ですが、RENUM コマンドよる行番号付け替えに対応出来ない場合があります。

1GOTO N*100+500

2GOTO 500+N*100+500

①では RENUM コマンドは何もしません。②は 500 を号番号とみなして更新します。

ただし①②とも計算結果が正しい行番号となることは保証出来ません。ご注意下さい。

ロ エラーメッセージ

Undefined line number or label : 指定した行、ラベルが存在しない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

ラベルを使ったルール処理

```
100 GOSUB "SUB01"
110 GOSUB "SUB02"
120 N=0
130 "LOOP"
140 PRINT "N="; N
150 N=N+1:IF N<5 GOTO "LOOP"
160 END
170 "SUB01"
180 PRINT "SUB01"
190 RETURN
200 "SUB02"
210 PRINT "SUB02"
220 RETURN
```

6.2 GOSUB サブルーチンの呼び出し(制御命令)

た書 口

GOSUB 行番号 GOSUB "ラベル"

□ 説明

プログラムの実行を一旦、行番号またはラベルで指定した行に移ります。

移った先で RETURN 命令により、呼び出した GOSUB 命令の次の位置に戻ります。

行番号には数値、式(変数、関数を含む)が利用できます。

ラベルを指定した場合は、行先頭に同じラベルがある行に移ります。

ラベルはダブルクオテーション(´)で囲って指定します。

```
10 GOSUB "PRN_LOGO"
20 GOSUB "PRN_DATE"
30 GOSUB 200
40 END
50 "PRN_LOGO"
60 PRINT "Tiny BASIC for Arduino STM32"
70 RETURN
80 "PRN_DATE"
90 PRINT "Edition V0.84 2017/08/01"
100 RETURN
200 PRINT "Ready"
210 RETURN
```

上記の例では、10 行、20 行でラベルを指定してサブルーチンを呼び出しています。

30 行では、行番号を指定してサブルーチンを呼び出しています。

ラベルを使うことで、プログラムの実行がわかりやすくなります。

行の先頭に無いラベルは、GOSSUB文の呼び出し先としての参照はされません。

```
10 GOSUB "hoge"
20 END
30 ? "Hello":"hoge":?"test":RETURN
run
Undefined line number or label in 10
10 GOSUB "hoge"
OK
```

行番号には式や変数の指定が可能ですが、RENUM コマンドよる行番号付け替えに対応出来ない場合があります。

1GOSUB N*100+500

2GOSUB 500+N*100+500

①では RENUM コマンドは何もしません。②は 500 を号番号とみなして更新します。

ただし①②とも計算結果が正しい行番号となることは保証出来ません。ご注意下さい。

ロ エラーメッセージ

Undefined line number or label : 指定した行、ラベルが存在しない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

GOSUB too many nested : GOSUB のネスト数が規定(=10)を超えた Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

ラベルを使ったサブルーチンの呼び出し例

```
100 GOSUB "SUB01"
110 GOSUB "SUB02"
120 N=0
130 "LOOP"
140 PRINT "N=";N
150 N=N+1:IF N<5 GOTO "LOOP"
160 END
170 "SUB01":PRINT "SUB01":RETURN
200 "SUB02":PRINT "SUB02":RETURN
```

6.3 RETURN GOSUB 呼び出し元への復帰(制御命令)

た 書工

RETURN

□ 説明

直前に呼び出された GOSUB の次の処理に復帰します。

詳細は「6.2 GOSUB サブルーチンの呼び出し(制御命令)」を参照して下さい。

ロ エラーメッセージ

Undefined line number or label : 指定した行、ラベルが存在しない

Overflow: 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えているRETURN stack underflow: GOSUB の呼び出しがないのに RETURN を実行

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

ラベルを使ったサブルーチンの呼び出し例

```
100 GOSUB "SUB01"
110 GOSUB "SUB02"
120 N=0
130 "LOOP"
140 PRINT "N=";N
150 N=N+1:IF N<5 GOTO "LOOP"
160 END
170 "SUB01"
180 PRINT "SUB01"
190 RETURN
200 "SUB02"
210 PRINT "SUB02"
220 RETURN
```

6.4 IF 条件判定(制御命令)

た 書 口

IF 条件式 実行文 1

IF 条件式 実行文 1 ELSE 実行文 2

□説明

条件式の真偽判定を行い、真の場合は実行文 1 を実行します。

真の場合に ELSE がある場合、ELSE 文以降の命令文は実行しません。

偽の場合、ELSE がある場合、実行文2を実行します。なければ次の行にスキップします。

真偽は次の条件となります。

真:評価した値がO以外である 偽:評価した値がOである

真偽判定を行う条件式には定数、数値、関数を含む計算式

式の例:

IF A > 5 B=B-1

IF A+1 PRINT A

IF A & 1 TONE 440,200

IF INKEY() = ASC("A") GOTO 100

定数の例

IF HIGH GOTO 100

数値の例

IF 123 PRINT "123"

関数の例

IF RND(1) X=X+1

実行文には IF、GOTO、GOSUB 等の制御命令を使うことも可能です。

(注意) ELSE 利用の制約(ぶら下がり ELSE に関する補足)

IF 文をネストして利用した場合、ELSE 文は直前の IF 文に対応します。

例:IF A=1 IF B=1 ? "A,B=1" ELSE ? "A=1,B<>1"

上記の ELSE は2番目のIF文に対応します。

この「ELSE 文は直前の IF 文に対応」の条件で、ELSE 文に IF 文をネスト出来ます。

例: IF A=1 IF B=1 ? "A,B=1" ELSE IF B=2 ? "A=1,B=2" ELSE IF B=3 ?"A=1,B=3"

上記では、A=1,B=1,2,3の条件に対して対応する表示メッセージを表示する例です。

ロ エラーメッセージ

IF without condition : 条件式が定義されていない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

y を押したら、"Y key" を表示して終了、その他のキーなら"End" を表示して終了する 何も押されていなければ 10 行から 30 行をループする。

10 A=INKEY()

20 IF A=ASC("y") PRINT "Y key":END ELSE IF A<>0 PRINT "End":END

30 GOTO 10

6.5 FOR TO ~ NEXT 繰り返し実行(制御命令)

た 書 口

FOR 変数=初期値 TO 最終値 実行文(複数行可能) NEXT 変数 FOR 変数=初期値 TO 最終値 STEP 増分 繰り返し実行文(複数行可能) NEXT 変数

□ 説明

変数を初期値から最終値まで増やし、FORから NEXT の間の実行文を繰り返し実行します。 変数が最終値に達した時点で繰り返しを止め、NEXT の次の命令の実行を行います。

STEP にて増分を指定しない場合、増分は1となります。

STEP を用いた場合は、マイナス値を含め任意の増分の指定が可能です。

例:

```
10 PRINT "start."
20 FOR I=0 TO 5 STEP 2
30 PRINT I
40 NEXT I
50 PRINT "done."
```

実行結果

```
start
0
2
4
done.
ok
```

上記の例では1を0から5まで、2ずつ増加して30行の命令を繰り返し実行します。

Iが4の時、増分2を足すと終了値5を超えた6となるので繰り返しを終了し、50行を実行します。 FOR文はネストも可能です(利用例を参照)。

FOR~NEXT の繰り返しは、利用している変数が繰り返し条件を満たさなくなった時点で繰り返しを終了します。 最初の例に"35 I=6"を追加し、ループ内で条件を満たさなくすることでループを抜けることが出来ます。

```
10 PRINT "start."
20 FOR I=0 TO 5 STEP 2
30 PRINT I
35 I=6
40 NEXT I
50 PRINT "done."
```

実行結果

```
start 0 done. ok
```

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

FOR without variable : FOR 文で変数を指定していない FOR without TO : FOR 文で TO を指定していない NEXT without counter : NEXT に対応する FOR 文が無い

FOR too many nested : FOR 文のネスト数が規定数(=10)を超えた

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

画面の指定位置に*を表示する(FOR文のネストの例)

```
10 CLS
20 FOR Y=5 TO 10
30 FOR X=5 TO 10
40 LOCATE X,Y:PRINT "*"
50 NEXT X
60 NEXT Y
```

6.6 END プログラムの終了(制御命令)

た書 口

END

□ 説明

プログラムの実行を終了します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

特定の条件でプログラムを終了する

10 I=0

20 PRINT I

30 IF I=5 END

40 GOTO 20

7. 各コマンド・関数の詳細

7.1 RUN プログラムの実行(システムコマンド)

た書 口

RUN

□ 引数

なし

□ 説明

プログラムの実行を行います。

実行中のプログラムは [ESC]キーまたは、[CTRL+C]キーにて強制終了することが出来ます。 シリアルコンソール上でで[ESC]キーにて中断する場合は、[ESC]キーを2回押す必要があります。

プログラムの実行中は、カーソルが非表示となります。

プログラムの実行中は実行すべき次の行が無い場合、実行を終了します。

また END コマンドにより実行を終了します。

プログラムの実行中にエラーが発生した場合は実行を終了します。

(注意) WAIT 命令で長い時間待ちを行っている場合は、時間待ちが終了するまで、[ESC]キー、 [CTRL+C]キー による強制終了を行うことが出来ません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

□ 利用例

プログラムを実行する

```
LIST
10 I=0
20 PRINT "*";
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
40 PRINT
50 END
OK
RUN
************
OK
```

7.2 RENUM 行番号の振り直し(システムコマンド)

た書 口

RENUM

RENUM 開始行番号

RENUM 開始行番号,增分

RENUM 開始行番号, 増分, 振り直し開始行番号、振り直し終了行番号

口 引数

開始番号 : 振り直しをする新しい行番号の開始番号 (0~32767)

増分 : 行番号の増分(1~32767)

振り直し開始行番号 : 振り直し対象の開始行番号(0~32767)

振り直し終了行番号 : 行番号の増分(0~32767)

□ 説明

プログラム全体の行番号を指定した条件にて振り直します。

引数を省略した場合は、行番号を10行から10間隔で振り直します。

開始番号のみ指定した場合、指定した開始番号から 10 間隔で振り直します。

開始番号と増分を指定した場合、指定した開始番号から指定した増分で振り直します。

振り直しにおいて、GOTO 文、GOSUB 文のとび先の行番号も更新されます。

行番号 O、1 は振り直しの対象から除外されます。

これは、常に先頭行と利用しプログラム説明等のコメントを記載するためです。

(注意) GOTO,GOSUB に存在しない行番号を指定している場合、更新は行われません。また、行番号に計算式を利用している場合、正しい更新が行われない場合があります。 GOTO 100+N*10

の記載の場合、先頭の数値 100 を行番号とみなして更新します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error :文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

 Illegal value
 :振り直しをする新しい行番号が有効範囲を超えている

 Overflow
 :指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

行番号を 100 から 10 間隔で振り直す

```
LIST
1'SAMPLE
10 I=0
20 PRINT "*":
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
40 PRINT
50 END
OK
RENUM 100,10
OK
LIST
1'SAMPLE
100 I=0
110 PRINT "*";
120 I=I+1:IF I<10 GOTO 110
130 PRINT
140 END
```

7.3 DELETE プログラムの指定行の削除(システムコマンド)

た 書工

DELETE 行番号

DELETE 先頭行番号,末尾行番号

□ 引数

行番号 : 削除対象の行番号 1~32767先頭番号 : 削除対象範囲の先頭番号 1~32767末尾番号 : 削除対象範囲の末尾番号 1~32767

□ 説明

プログラム内の指定した行、指定した範囲(先頭行番号、末尾行番号)の行を削除します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

lllegal value : 先頭番号と末尾番号の指定に矛盾がある

□ 利用例

プログラム内の 20 行から 50 行の範囲を削除する

```
10 ? "AAAAAA"
20 ? "BBBBBB"
30 ? "CCCCCC"
40 ? "DDDDDD"
50 ? "EEEEEE"
60 ? "FFFFFFF"
70 ? "GGGGGG"

DELETE 20,50
OK
LIST
10 ? "AAAAAAA"
60 ? "FFFFFFF"
70 ? "GGGGGGG"
OK
```

7.4 CONSOLE コンソール画面切替

た 書 口

CONSOLE T-F

□ 引数

モード:0~1の整数

モード	機能	機能
OFF (0)	デバイスコンソール	コンソール画面をデバイス画面に切り替えます。 デバイス画面は NTSC、OLED ディスプレイ、TFT ディスプレイです。
ON (1)	シリアルコンソール	コンソール画面をシリアルターミナル画面に切り替えます。 USB シリアル、シリアルポート接続のシリアルコンソールが利用可能です。

□ 説明

コンソール画面の切替を行います。

デバイスコンソールを指定した場合、利用しているデバイス(NTSC、OLED、TFT)がコンソール画面となります。 シリアルコンソールを指定した場合、USB シリアルまたはシリアルポート接続のターミナルコンソール画面となります。

シリアルコンソールでは、シリアル接続したパソコン上のターミナルソフト等でのスクリーン編集を行うことが出来ます。 デフォルトでは2つのシリアルポート(USBシリアル、シリアル端子 PA9、PA10)のうち、USBシリアルがスクリーン 編集用として機能します。シリアル端子をスクリーン編集用に利用する場合、SMODEコマンドにて切り替えて下さい。

例

SMODE 1,"115200"

(注意) シリアルコンソールでは、デバイスコンソール、PS/2 キーボードは機能しません。 切り替えにおいてはご注意下さい。

シリアルコンソールを利用している状態で SCREEN コマンドを実行した場合、デバイスコンソールに切り替わり、指定したスクリーンモードの設定が反映されます。

シリアルコンソールからデバイスコンソールに切り替えた場合、スクリーンモードはデフォルトの設定となります。

□ 補足

起動直後のモードについて

デフォルトではモード:0(デバイスコンソール)となります。

ただし、次の設定を行うことでモード:1(シリアルコンソール)に切り替えることが出来ます。

設定:BOOT1 のジャンパーピンを 1 にセットして起動する

さらに、上記の設定と併用して、SWCLK(PA14)ピンが HIGH(VCC 接続)の場合、USB シリアルではなくシリアルポート (PA9、PA10) をシリアルコンソール画面として利用することが出来ます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Illegal value : 指定した引数の値が範囲外である

Overflow : 指定した数値が-32767 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

コンソール画面をシリアルコンソールに切り替える

CONSOLE ON

7.5 SCREEN スクリーンモードの設定

た 書工

SCREEN モード [,画面向き]

□ 引数

モード : 1 \sim 6 の整数 画面向き: 0 \sim 3 の整数

□ 説明

デバイスコンソールのスクリーンモードの設定を行います。

設定可能なモード、画面向きは利用するデバイスコンソールにより異なります。

①デバイスコンソールが NTSC ビデオ出力画面の場合

• モードの設定値

モード	機能	機能
1	NTSC ビデオ画面 モード1 (デフォルト)	画面解像度
2	NTSC ビデオ画面 モード2	画面解像度 224×108ドット テキストスクリーン 37×13文字
3	NTSC ビデオ画面 モード3	画面解像度

・ 画面向き

指定出来ません

②デバイスコンソールが OLED ディスプレイの場合

• モードの設定値

モード	機能	機能
1	ノーマルモード (デフォルト)	画面(解像度 128×64、 テキストスクリーン 21×8 文字
2	フォント倍角	画面(解像度 128×64、 テキストスクリーン 10×4 文字
3	フォント3倍角	画面(解像度 128×64、 テキストスクリーン 7×2 文字

・ 画面向き

O(デフォルト) ~ 3 の指定で 90 度ずつ回転することが出来ます。

③TFT(ILI9341)ディスプレイの場合

・モードの設定値

モード	機能	機能
1	ノーマルモード (デフォルト)	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 53×30 文字
2	フォント倍角	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 26×15 文字
3	フォント3倍角	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 17×10 文字
4	フォント 4 倍角	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 13×7 文字
5	フォント5倍角	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 10×6 文字
6	フォント6倍角	画面(解像度 320×240、 テキストスクリーン 8×5 文字

・ 画面向き

O(デフォルト) ~ 3 の指定で 90 度ずつ回転することが出来ます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Illegal value : 指定した引数の値が範囲外である

Overflow : 指定した数値が-32767 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

スクリーンモードをモード 1 に設定する

SCREEN 1

7.6 WIDTH シリアルターミナルの画面サイズの設定

た 書工

WIDTH 横文字数, 縦文字数

□ 引数

横文字数:ターミナル画面上のスクリーンの横文字数 16 ~ 128 (デフォルト 80) 縦文字数:ターミナル画面上のスクリーンの縦文字数 10 ~ 50 (デフォルト 24)

□ 説明

シリアルターミナル画面上のスクリーンサイズの設定を行います。 この設定にてスクリーンエディタの表示文字数、スクロール範囲の変更を行うことが出来ます。 スクリーンサイズは、最小サイズ 16 桁×10 行 ~ 最大 128 桁×50 行 となります。

(注意) スクリーンモード O 以外で WIDTH コマンドを実行た場合、設定は無視されます。また、スクリーンモード O に変更した直後はデフォルトの 80×25 となります。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Illegal value : 指定した引数の値が範囲外である

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

スクリーンサイズを80桁×30行に設定する

WIDTH 80,30

7.7 LIST プログラムリストの表示

た書 口

LIST

LIST 表示行番号

LIST 表示開始行番号,表示終了行番号

口 引数

表示開始行番号:表示を開始する行番号(0~32767)表示終了行番号:表示を終了する行番号(0~32767)

□ 説明

プログラムリストの表示を行います。

引数を指定しない場合は、全てのプログラムを表示します。

表示開始番号を指定した場合は、その番号以降のプログラムリストを表示します。

表示開始番号、表示終了番号を指定した場合は、そこ範囲のプログラムリストを表示します。

表示したプロフラムリストは、カーソルを移動して編集することが出来ます。

編集後は必ず[ENTER]キーを押して入力確定を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

```
LIST
10 I=0
20 PRINT "*";
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
40 PRINT
50 END
OK

list 20,30
20 PRINT "*";
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
OK
```

7.8 NEW プログラムの消去

た書 口

NEW

□ 引数

なし

□ 説明

プログラム領域のプログラム、変数、配列変数を消去します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

プログラムを消去する

```
LIST
10 I=0
20 PRINT "*";
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
40 PRINT
50 END
OK
run
******
OK
?I
10
OK
NEW
OK
LIST
OK
?I
0
OK
```

7.9 LOAD 内部フラッシュメモリ・SD カードからプログラムを読み

た 書式

LOAD

LOAD プログラム番号

LOAD "ファイル名"

LOAD "ファイル名", モード

口 引数

プログラム番号 :0~7 内部フラッシュメモリのプログラム番号

*"*ファイル名" : ディレクトリパス(省略可能)+ファイル 8 文字+拡張子 3 文字 のファイル名 (63 文字まで)

モード : 0:上書きロード (デフォルト)、1:追記ロード

□ 説明

内部フラッシュメモリ、または外付け SD カードからプログラムを読み込みます。

引数を省略した場合は、内部フラッシュメモリのプログラム番号を読み込みます。

引数にプログラム番号を指定した場合は、指定したプログラム番号を読み込みます。

プログラム番号 O~7 で指定します。読込の際、変数領域は初期化されます。

引数にファイル名を指定した場合、SD カードからプログラムを読み込みます。

ファイル形式は、テキスト形式またはバイナリ形式(SAVE 時にバイナリ形式指定) 対応しています。

ファイル名にはディレクトリパスを付けることが出来ます。

ファイル名には大文字小文字の区別はありません。

例:

LOAD "/SAMPLE/TEST.BAS"

LOAD "/PRG1.BAS"

LOAD "PRG1.BAS"

SDカードからの読み込みには、引数のモードにてO:上書きロード、1:追記ロードを指定することが出来ます。

上書きロードの場合、メモリー上のプログラムの初期化後に読み込みます。変数領域は初期化されます。

追記モードの場合、メモリー上のプログラムに追記して読み込みを行います。変数領域は初期化されません。

(注意) バイナリーモードで SAVE したプログラムを読み込む場合、メモリー上のプログラムの行番号よりも若い番号が付いている場合、行番号の重複や行並びに不整合が生じます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

Illegal value : プログラム番号の指定が 0~9 の範囲外である

Program not found:指定したプログラム番号にプログラムが保存されていない

Bad file name : 指定したファイル名が正しくない SD I/O error : SD カードの利用が出来ない

File read error : SD カードからのファイル読み込みに失敗した Overflow : 指定した数値が-32767 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

プログラム番号 1 を読み込む

LOAD 1
OK

7.10 SAVE 内部フラッシュメモリ・SD カードへのプログラム保存

た 書 口

SAVE

SAVE プログラム番号

SAVE "ファイル名"

SAVE "ファイル名",保存形式

口 引数

プログラム番号 : 0~7

"ファイル名" : ディレクトリパス(省略可能)+ファイル 8 文字+拡張子 3 文字 のファイル名 (63 文字まで)

保存形式 : 1 テキスト形式(デフォルト)、〇 バイナリ形式

□ 説明

プログラムをマイコン内のフラッシュメモリ、または SD カードに保存します。

引数の省略、数値を指定した場合は内部フラッシュメモリに保存します。

プログラムは最大で8つ保存可能です。保存先はプログラム番号0~7で指定します。

引数の省略した場合、プログラム番号 0 に保存します。

ファイル名を指定した場合は、SD カードにプログラムを保存します。

保存形式の指定により、テキスト形式またはバイナリ形式して保存が行えます。

保存形式を指定しない場合は、テキスト形式で保存されます。

バイナリ形式での保存はプログラム領域 4k バイトの全てを保存します。

(注意) NTSC 表示版では SAVE コマンド実行時に画面表示が乱れる場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

Illegal value : プログラム番号の指定が 0~7 の範囲外である

Bad file name : 指定したファイル名が正しくない SD I/O error : SD カードの利用が出来ない

File write error : SD カードへのファイルの書込みに失敗した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

プログラム番号 1 にプログラムを保存する

SAVE 1 OK

7.11 FILES 内部フラッシュメモリ保存・SD カード内のプログラムの一覧表示

た 書 口

FILES

FILES 開始プログラム番号

FILES 開始プログラム番号,終了プログラム番号

FILES "ファイルパス"

□ 引数

開始プログラム番号 :表示開始プログラム番号 O~7 終了プログラム番号 :表示終了プログラム番号 O~7

″ファイルパス″ :SD カード内のディレクトリまたはファイル名(ワイルドカード指定可能)

□ 説明

マイコン内のフラッシュメモリに保存されているプログラムまたは、SDカード内のファイルの一覧を表示します。 引数を指定しない場合は、内部フラッシュメモリ内のプログラム番号O~7の先頭行をリスト表示します。

開始プログラム番号,終了プログラム番号を指定した場合、その範囲のリストを表示します。

プログラム番号にプログラムが保存されていない場合は(none)と表示されます。

プログラム先頭行にコメントをつけると、一覧表示でのプログラムの内容が分かり易くなります。

例:

```
files
0:'Edit bitmap
1:'RTC TEST
2:(none)
3:(none)
4:(none)
5:(none)
6:(none)
7:1'LED Blink
OK
```

引数にファイルパスを指定した場合、SD カード内のファイルを一覧表示します。

ファイル名は8.3形式となります。

ファイルパスには、ディレクトリ名、ディレクトリ名+ファイル名(ワイルドカード指定可能)の記述が可能です。ワイルドカードは、*と?が利用可能です。ディレクトリ名指定の上位、下位の"/"は省略可能です。""と"/"は同じ出力となります。

```
FILES ""
FILES "/"
FILES "/*"
FILES "/SRC/"
FILES "/SRC/SAMPLE/"
FILES "SRC/"
FILES "SRC/*.BAS"
FILES "SRC/*.B??"
```

出力されるファイル一覧の順番は不定となります。ディレクトリファイルの場合は、ファイル名の最後に*が付きます。

```
files "*.bas"
TFST.BAS
              TTMF.BAS
TM.BAS
              SOKUDO.BAS
トケイ BAS
              トケイ 2.BAS
TEST2.BAS
              TESTBMP.BAS
AA.BAS
              1.BAS
2.BAS
              3.BAS
サッチャン.BAS
              SUB.BAS
ケイソク.BAS
             DAT*
```

(注意) 豊四季 Tiny BASIC (ファームウェア) の新規利用または更新を行った直後は、フラッシュメモリ上の既存 データの内容の不整合により正しく表示できない場合があります。その場合は、ERASE コマンドにてフラッシュメモリ上のプログラムの消去を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した lllegal value : 指定した開始プログラム番号,終了プログラム番号の値が正しくない。

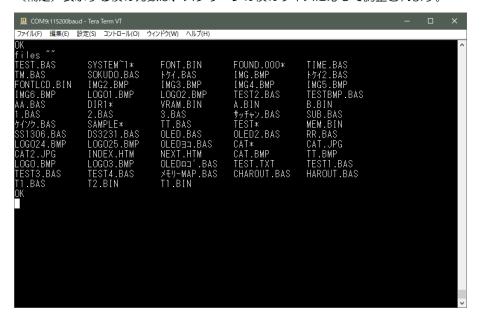
Bad file name : 指定したファイル名が正しくない SD I/O error : SD カードの利用が出来ない

File read error : SD カードからのファイル読み込みに失敗した Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

SCREEN OでSDカード内のファイル一覧を表示する。

(補足)表示する横の列数は、スクリーンの横のサイズに応じて調整されます。



7.12 BLOAD SD カードからバイナリデータ読込

た 書 口

BLOAD "ファイル名",アドレス,バイト数

口 引数

*"*ファイル名" :ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字 のファイル名

アドレス : 読み込みデータ格納アドレス \$0000 ~ バイト数 : 読み込みデータサイズ 1~32767

□ 説明

SD カードから指定したファイルの内容を指定したアドレスに指定バイト数分、読み込みます。

アドレスには仮想アドレスを有効範囲内で指定します。

仮想アドレスについては「1.12メモリーマップ」の仮想アドレスを参照下さい。

BSAVE で保存したユーザーワーク領域、変数領域等内容を読み込んで利用することが出来ます。

ファイル名には、PRINT 文と同じ書式の記述が可能です。

例:

```
10 N=1
20 BLOAD #-2,"DATA";N;".BIN",MEM,1024
OK
```

上記の例では、ファイル "DATAO1.BIN"をユーザー作業領域に読み込みます。

(注意) 読み込むファイルは BSAVE コマンドで保存したファイルに限られます。オリジナルのファイルを読み込む場合は、先頭に 2 バイト xOO.xOO を付加して下さい。

(注意) プログラム領域への読み込みを行った場合の動作がおかしくなる場合があります。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数が有効範囲を超えているBad file name: 指定したファイル名が正しくないSD I/O error: SD カードの利用が出来ない

File read error : SD カードからのファイル読み込みに失敗した Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

画面表示内容(グラフィック表示)をファイルに保存し、そのファイルを読み込み再表示を行う

BSAVE "GDATA.BIN", GRAM, 6048 OK CLS OK

BLOAD "GDATA.BIN", GRAM, 6048

OK

7.13 BSAVE SD カードへのバイナリデータ保存

た 書 口

BSAVE "ファイル名",アドレス,バイト数

□ 引数

"ファイル名": ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字 のファイル名

アドレス : 保存データ格納アドレス \$0000~

バイト数:保存データサイズ 1~32767

□ 説明

指定アドレスに格納されいてるバイナリデータを SD カードに保存します。

アドレスには仮想アドレスを有効範囲内で指定します。

仮想アドレスについては「1.11 メモリーマップ」の仮想アドレスを参照下さい。

ファイル名には、PRINT 文と同じ書式の記述が可能です。

例:

```
10 N=1
20 BSAVE #-2,"DATA";N;".BIN",MEM,1024
```

上記の例では、ユーザー作業領域をファイル名 "DATAO1.BIN"に保存します。

(注意) 保存ダータの先頭に 2 バイト xOO,xOO が付加されます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数が有効範囲を超えているBad file name: 指定したファイル名が正しくないSD I/O error: SD カードの利用が出来ない

File write error : SD カードへのファイル書き込みに失敗した。

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

グラフィック表示内容の保存と読み込み

BSAVE "GDATA.BIN", GRAM, 6048

OK CLS OK

BLOAD "GDATA.BIN", GRAM, 6048

OK

7.14 REM コメント

た書 口

REM コメント

' コメント

□ 引数

コメント : 任意の文字列

□ 説明

プログラムに説明等の記載を行います。

'(シングルクオート)は REM の省略形です。

REM および以降の文字以降はすべてコメントとみなし、プログラムとして実行されません。

プログラムの先頭行にコメントを付けた場合は、FILES コマンドで保存プログラム一覧を表示したたきに、各プログラムの見出しとなります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

コメントの記述例

1 REM Print starts
10 I=0:'initialize value
20 PRINT "*";
30 I=I+1:IF I<10 GOTO 20
40 PRINT

50 END

7.15 LET 変数に値を代入

□ 書式

LET 変数=値

LET 配列変数=値,値,値,値...

変数=値

配列変数=値,値,値,値...

□ 引数

変数:変数、または配列変数

配列変数 : 配列変数 @(値)

配列の値(添え字)には式、数値、変数、配列変数、数値定数の利用が可能

值 : 式、数值、変数、配列変数、数值定数

□ 説明

変数に値を代入します。

値は式、数値、定数、変数、配列変数等を評価した整数値です。

配列変数への代入は、複数の値を指定した連続代入が可能です。指定した添え字を起点に順番に代入します。

LET @(3)=1,2,3,4,5

上記の記述は、

LET @(3)=1: LET @(4)=2: LET @(5)=3: LET @(5)=4: LET @(5)=5

と同じです。

LET は省略可能です。次の2は同じ結果となります。

LET A=A+1

A=A+1

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

LIST

1 'Print starts

10 LET I=0: 'initialize value

20 PRINT "*";

30 LET I=I+1:IF I<10 GOTO 20

40 PRINT

50 END

7.16 CLV 変数領域の初期化

た書 口

CLV

□ 引数

なし

□ 説明

変数領域(変数、配列)の初期化を行います。

変数 A~Z、配列@(O)~@(99)はすべて O に初期化されます。

LRUN コマンドにてプログラムをロードして実行する場合、変数領域は初期化されません。 これにより呼び出し元のプログラムの変数をひ引き継ぐことが出来ます。 呼び出されたプログラムにて明示的に変数領域の初期化を行う場合は、CLV コマンドを使って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

a=123			
OK			
?a			
123			
OK			
CLV			
OK			
?a			
OK			

7.17 LRUN 指定プログラム番号の実行

た 書 二

LRUN プログラム番号

LRUN プログラム番号,行番号

LRUN プログラム番号,"ラベル"

LRUN "ファイル名"

LRUN "ファイル名",行番号

LRUN "ファイル名","ラベル"

口 引数

プログラム番号 : 実行するプログラムの番号 $0 \sim 7$

"ファイル名" :ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字のファイル名

行番号 : プログラムの実行開始行番号 1~32767″ラベル″ : プログラムの実行開始行のラベル指定

□ 説明

プログラム番号またはファイル名で指定したプログラムを実行します。

第 1 引数に数値を指定した場合は、内部フラッシュメモリから指定したプログラム番号のプログラムを読み込んで実行します。ファイル名を指定した場合は、SD カードから指定ファイルを読み込んで実行します。

第2引数に行番号またはラベルの指定がある場合は、その行からプログラムの実行を開始します。

ファイル名の指定には、PRINT 文と同等の記述が可能です。

変数Nの値でファイル名を作成してプログラムを実行する。

10 INPUT "PROG NO=",N,0

20 IF N=0 OR N>9 GOTO 10

20 LRUN #-2, "PRG"; "N; ".BAS"

上記の例では、Nの値が1~9の場合には対応する"PRGO1.BAS"~"PROGO9.BAS"をロードして実行します。

(注意) LRUN にてプログラムを実行し場合、変数領域の初期化は行われません。直前のプログラムが設定した変数の値を引き継ぎます。初期化が必要な場合は呼び出されたプログラム中で CLV コマンドを実行して下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: プログラム番号の指定が 0~7 の範囲外である

Program not found :指定したプログラム番号にプログラムが保存されていない

Bad file name : 指定したファイル名が正しくない SD I/O error : SD カードの利用が出来ない

File read error : SD カードからのファイル読み込みに失敗した Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767を超えている

□ 利用例

入力したプログラム番号を実行する。

10 INPUT N 20 LRUN N

7.18 EXPORT 内部フラッシュメモリの内容のエクスポート

た 書 口

EXPORT

EXPORT 対象番号

EXPORT 開始番号,終了番号

□ 引数

対象番号 : エクスポートするプログラム保存番号 O \sim 7 開始番号,終了番号 : エクスポートするプログラム保存番号の範囲 O \sim 7

□ 説明

マイコン内のフラッシュメモリに保存されているプログラム(プログラム番号 0~7)を出力表示します。 ターミナルソフト等を利用することにより、出力表示されたプログラムリストをコピーすることで、内部保存されたプログラムのバックアップを行うことが出来ます。

引数に何も指定しない場合は、O ~ 7までの全てのプログラムを画面に出力します。 対象番号を指定した場合は、該当するプログラム番号の内容のみ出力します。 開始番号と終了番号を指定した場合はその範囲のプログラムを出力します。

出力形式は次の形式となります。

```
NEW
10 'oscilloscope
20 CLS
30 GPIO PB1,ANALOG
40 "LOOP"
50 R=ANA(PB1)
60 Q=R/20
70 LOCATE 0,0:?R;" "
80 PSET 223,221-Q,1
90 WAIT 50
100 GSCROLL 0,8,GW-1,GH-1,LEFT
110 GOTO "LOOP"
SAVE 1
```

プログラム番号毎のプログラムリストの先頭に"NEW"コマンド、末尾に"SAVE プログラム番号"が付加されます。 ターミナルソフトにペーストすることにより、フラッシュメモリ内に再登録することが出来ます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

lllegal value :指定した引数が有効範囲を超えている

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

プログラム番号 1,2 に保存されているプログラムのエクスポート

```
EXPORT 1,2
NEW
10 'oscilloscope
20 CLS
30 GPIO PB01, ANALOG
40 "LOOP"
50 R=ANA(PB01)
60 Q=R/20
70 LOCATE 0,0:?R;"
80 PSET GW-1,GH-Q-4,1
90 WAIT 50
100 GSCROLL 8,208,3
110 GOTO "LOOP"
SAVE 1
NEW
10 CLS
20 RECT 0,0,GW,GH,1,1
30 RESETTICK
40 FOR I=0 TO 215
50 FOR X=0 TO 200 STEP 16
60 GSCROLL X,0,8,GH,0
70 GSCROLL X+8,0,8,GH,1
80 NEXT X
100 NEXT I
110 ?TICK()
120 GOTO 120
SAVE 2
OK
```

7.19 CONFIG システムの設定

た書 口

CONFIG 項目番号, 設定値

□ 引数

項目番号: 0~2

設定値 : 選択した項目の設定値(項目により設定値の条件は異なる)

□ 説明

「豊四季タイニーBASIC for Arduino STM32」の環境設定を行います。

項目番号	設定名称	設定値	説明
0	NTSC 垂直同期信号補正	0,1,2	NTSC の垂直同期信号の補正値を設定します。 デフォルトは O です。 利用するモニターの表示がスクロールして今う場合、映像が乱れる場合は、この値を設定して調整してください。
1	キーボード設定	0,1	利用するキーボードのレイアウト設定を行います。 O:日本語キーボード(デフォルト) 1:US キーボード
2	自動起動プログラム設定	-1 0∼7	電源 ON 後に自動起動するプログラムを指定します。 O~7はフラッシュメモリに保存しているプログラム番号を指 定します。-1 の設定で自動起動無しの設定となります。

設定はコマンド実行後、直ちに反映されます。本設定は電源を落とすまで有効です。 次回以降の起動にも適用したい場合は、SAVECONFIG コマンドで保存して下さい。

初めてボードに書き込みを行う場合、SAVECONFIG コマンドで書き込めない場合があります。 その場合は、EEPFORMAT コマンドにて保存領域の初期化を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

Illegal value :指定した項目番号、設定値が正しくない。

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

利用しているキーボードを US キーボードに設定する。

CONFIG 1,1
OK
SAVECONFIG
OK

7.20 SAVECONFIG システムの設定の保存

た書 口

SAVECONFIG

口 引数

なし

□ 説明

CONFIG コマンドの設定変更をフラッシュメモリに保存します。次回以降の起動でも設定を有効にします。フラッシュメモリの利用状況により、保存に失敗する場合があります。

その場合は、フラッシュメモリの初期化を EEPFORMAT にて行って下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

利用しているキーボードを US キーボードに設定する。

CONFIG 1,1 OK SAVECONFIG OK

7.21 ERASE 内部フラッシュメモリ上のプログラム削除

た 書 口

ERASE プログラム番号 ERASE 開始プログラム番号,終了プログラム番号

□ 引数

プログラム番号 : $O \sim T$ 開始プログラム番号 : $O \sim T$ 終了プログラム番号 : $O \sim T$

□ 説明

マイコン内のフラッシュメモリに保存されているプログラム(プログラム番号 O~7)の削除を行います。 削除対象プログラムは、コマンド引数にてプログラム番号を指定するか、 削除するプログラム番号の範囲(開始プログラム番号、終了プログラム番号)にて指定します。

(注意) 豊四季 Tiny BASIC のスケッチを書き込み後、FILES コマンドにてプログラム一覧を表示した場合、 意味不明の文字列が大量に表示される場合があります。

この場合は ERASE コマンドを実行して、プログラム保存領域を初期化して下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 書式と異なる利用を行った、プログラム番号に変数、式を指定した

 Illegal value
 : プログラム番号の指定が 0~7 の範囲外である

 Overflow
 : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

フラッシュメモリに保存されている全てのプログラムの削除を行う。

```
ERACE 0,9
OK
FILES
0:(none)
1:(none)
2:(none)
3:(none)
4:(none)
5:(none)
6:(none)
7:(none)
OK
```

7.22 MKDIR ディレクトリの作成

た 書 口

MKDIR "ディレクトリ名"

口 引数

"ディレクトリ名": 1~63 文字までのディレクトリ名

□ 説明

SD カードにディレクトリを作成します。

指定するディレクトリ名は、上位ディレクトリ名を含めて最大63文字まで指定可能です。 作成するディレクトリの名称は8文字可能です。大文字小文字の区別はありません。

上位のディレクトリ名は"/"です(名前指定において省略可能)。

次の2つは同じ動作をします。

MKDIR "/DIR1"

MIDIR "DIR1"

サブディレクトリの作成は次のように記述します。

MKDIR "/DIR1/SUBDIR"

または

MKDIR "DIR1/SUBDIR"

上位のディレクトリがない場合にサブディレクトリ作成を行った場合、親ディレクトリも作成されます。 次のコマンドでは、DIR2 と DIR2/SUBDIR が作成されます。

MKDIR "DIR2/SUBDIR"

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Bad file name:指定したファイル名が正しくない SD I/O error :SD カードの利用が出来ない

:SD カードへのファイル書き込みに失敗した。 File write error

□ 利用例

OK

ディレクトリ SRC を作成する

MKDIR "SRC"

73

7.23 RMDIR ディレクトリの削除

た 書工

RMDIR "ディレクトリ名"

□ 引数

″ディレクトリ名″: 1~63 文字までのディレクトリ名

□ 説明

SD カード内の指定したディレクトリを削除します。

指定したディレクトリにサブディレクトリやファイルが存在する場合、そのファイルも削除されます。

指定するディレクトリ名は、上位ディレクトリ名を含めて最大 63 文字まで指定可能です。 作成するディレクトリの名称は8文字可能です。大文字小文字の区別はありません。

上位のディレクトリ名は"/"です(名前指定において省略可能)。

次の2つは同じ動作をします。

RMDIR "/DIR1"
RMDIR "DIR1"

サブディレクトリの削除は次のように記述します。

RMDIR "/DIR1/SUBDIR"

または

RMDIR "DIR1/SUBDIR"

(注意) ルートディレクトリの削除は出来ません。

RMDIR "/" は"Bad file name"エラーとなります。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったBad file name: 指定したファイル名が正しくないSD I/O error: SD カードの利用が出来ない

File write error : SD カードへのファイル書き込みに失敗した。

□ 利用例

ディレクトリ SRC を削除する

RMDIR "SRC" OK

7.24 REMOVE ファイルの削除

た 書工

REMOVE "ファイル名"

□ 引数

["]ファイル名" :ディレクトリパス(省略可能)+ファイル 8 文字+拡張子 3 文字 のファイル名(63 文字まで)

□ 説明

SD カード内の指定したファイルを削除します。

ファイル名にはディレクトリ名+ファイル名の形式での記述が可能です。

上位のディレクトリ名は"/"です(名前指定において省略可能)。

次の2つは同じ動作をします。

REMOVE "/SAMPLE.BAS"
REMOVE "SAMPLE.BAS"

ディレクトリ内のファイルを削除する場合はそのディレクトリ名も指定します。

REMOVE "/SRC/SAMPLE.BAS"

または

REMOVE "/SRC/SAMPLE.BAS"

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったBad file name: 指定したファイル名が正しくない

SD I/O error : SD カードの利用が出来ない

File write error : SD カードへのファイル書き込みに失敗した。

□ 利用例

ファイルを削除する

REMOVE "/SRC/SAMPLE.BAS"

OK

7.25 CAT ファイルの内容表示

た書 口

CAT "ファイル名"

□ 引数

"ファイル名" : ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字 のファイル名(63文字まで)

□ 説明

SD カード内の指定したテキストファイルの内容を画面に表示します。 表示テキストには先頭にコメントコマンド(*)が付加されます。

ファイル名にはディレクトリ名+ファイル名の形式での記述が可能です。

上位のディレクトリ名は"/"です(名前指定において省略可能)。

次の2つは同じ動作をします。

CAT "/SAMPLE.BAS"

CAT "SAMPLE.BAS"

ディレクトリ内のファイルを表示する場合はそのディレクトリ名も指定します。

CAT "/SRC/SAMPLE.BAS"

または

CAT "/SRC/SAMPLE.BAS"

(注意) バイナリ形式のファイルには対応していません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったBad file name: 指定したファイル名が正しくないSD I/O error: SD カードの利用が出来ない

File read error : SD カードからのファイル読み込みに失敗した

□ 利用例

ファイルの内容を表示する

CAT "/SRC/SAMPLE.BAS"

'10 PRINT "Hello Tiny BASIC"

'20 PRINT "Hello Arduino STM32"

'30 END OK

7.26 ABS 絶対値の取得(数値関数)

た書 口

ABS(値)

□ 引数

値 : -32767~ 32767

式、変数、配列変数、数値、数値定数の指定が可能

□ 戻り値

指定した値の絶対値

□ 説明

指定した値の絶対値を返します。

(注意) -32768 の絶対値 32768 はオーバーフローとなるため、-32768 を指定した場合は オバーフローエラーとなります。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32767 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

変数の値の絶対値を表示する

```
10 FOR I=-3 TO 3
20 PRINT ABS(I)
30 NEXT I

RUN
3
2
1
0
2
3
OK
```

7.27 ASC 文字から文字コードへの変換(数値関数)

た 書工

ASC(文字列)

ASC(文字列,文字位置)

ASC(変数)

ASC(変数,文字位置)

□ 引数

文字列: "文字列"

"ABC"の形式とし、ダブルクォーテーション文字を囲みます

文字位置: 1~32767

変換対象となる左からの文字位置を指定します。

変数: 文字列参照している変数または配列変数

□ 戻り値

指定文字に対応する文字コード(O~255)

□ 説明

指定した文字に対応する文字コードを返します。

文字列のみを指定した場合、先頭の文字コードを返します。

```
10 ?ASC("ABCD")
RUN
65
OK
```

文字位置を指定した場合、指定した位置の文字コードを返します。

```
10 ?ASC("ABCD",3)
RUN
67
OK
```

変数を指定した場合、変数が参照している文字列のコードを返します。

```
10 A="ABCDEF"
20 ?ASC(A)
30 ?ASC(A,3)
RUN
65
67
OK
```

(注意)変数の文字列参照はプログラム中にのみ有効です。コマンドラインでは文字列参照を 正しく行うことが出来ません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

lllegal value : 文字指定位置が不当 '(' or ')' expected : '(' または ')'がない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

アルファベット A~Z を表示する

```
10 C=ASC("A")
20 FOR I=0 TO 25
30 PRINT CHR$(C+I);
40 NEXT I
50 PRINT

run
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
OK
```

7.28 FREE プログラム領域の残りバイト数の取得(数値関数)

た書 口

FREE()

口 引数

なし

□ 戻り値

プログラム領域の残りバイト数 0 ~ 4095

□ 説明

プログラム領域の残りバイト数を返します。 作成したプログラムサイズを確認する場合は、下記の記述にて行うことが可能です。 PRINT 4095-FREE()

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

'(' or ')' expected : 引数部の記述が正しくない

□ 利用例

プログラムサイズを調べる

PRINT 4095-FREE() 287 OK

7.29 INKEY キー入力の読み取り(数値関数)

た書 口

INKEY()

□ 引数

なし

□ 戻り値

押したキーの文字コード $O \sim 255$ キーが押されていない場合は O を返します

□ 説明

キーボード上の押しているキーのコードを取得します。キーが押されていない場合は、O を返します。押したキーが返すコードについては「1.14 キー入力コード」を参照下さい。

(注意) [ESC]、[CTRL-C]はプログラム中断用のため、キー入力の読み取りは出来ません。 キーボードにおいて利用出来ないキーはコードの取得が出来ません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない

□ 利用例

入力したキーのコードを調べる

10 CLS

20 I= INKEY()

30 IF I>0 LOCATE 0,0:?#3,I

40 GOTO 20

7.30 RND 乱数の発生(数値関数)

た書 口

RND(値)

□ 引数

値 :0~32767

式、変数、配列変数、数値、数値定数の指定が可能

□ 戻り値

Oから指定した値未満の乱数

□ 説明

○から指定した値-1の範囲の乱数を発生させ、その値を返します。

R=RND(10)

の場合、変数 R には 0~9 範囲の値が代入されます。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

ジャンケンの表示

```
10 @(0)="/) -", "f=‡", "/) -"
20 FOR I=1 TO 5
30 R=RND(3)
40 PRINT I, ":"; STR$(@(R))
50 NEXT I
run
1:f=‡
2:/\(\hat{\chi}\) -
3:f=‡
4:/\(\hat{\chi}\) -
5:/\(\hat{\chi}\) -
OK
```

7.31 LEN 文字列の長さの取得(数値関数)

た書 口

LEN(変数)

LEN(文字列)

口 引数

変数 :変数、または配列変数

文字列 : "文字列"の形式(ダブルクォーテーションで囲み)

□ 戻り値

文字列の長さ 0 ~ 32767

□説明

文字列定数、変数で参照してる文字列の文字数をカウントし、その値を返します。

```
10 ?LEN("12345678")
20 A="ABCDEF"
30 @(0)="abcdef"
40 ?LEN(A)
40?LEN(@(0))
RUN
8
6
6
6
0K
```

(注意)「豊四季タイニーBASIC for Arduino」の文字列のサポートは限定的です。

他の文字列関数と組み合わせた利用はサポートしていません。

例) 下記のような記述は出来ません。

?LEN(BIN\$(100))

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

文字を拡大表示する

変数 A が参照している文字列の長さ LEN(関数で取得し、その長の分、文字を拡大表示します。

```
10 CLS
20 A="Hello!"
30 FOR I=1 TO LEN(A)
40 BITMAP (I-1)*30,0,FNT,ASC(A,I),6,8,5
50 NEXT I
60 LOCATE 0,5
```

実行結果



7.32 MAP 数値のスケール変換(数値関数)

た 書 口

MAP(値,範囲下限, 範囲上限, 新範囲下限, 新範囲上限)

□ 引数

値 : 変換対象の数値 -32768 ~ 32767

範囲下限 : 対象数値の数値の下限 -32768 ~ 32767範囲上限 : 対象数値の数値の上限 -32768 ~ 32767

新範囲下限 : 新しい対象数値の数値の下限 -32768 ~ 32767

新範囲上限 : 新しい新しい対象数値の数値の下限 -32768 ~ 32767

□ 戻り値

スケール変換後の値 -32767 ~ 32767

□ 説明

指定した値のスケール変換を行い、その値を返します。

例

A=MAP(ANA(PA07),0,4095,0,99)

上記の例ではアナログ入力値 0~4095 を 0 ~ 99 のレンジに変換し、その値を返します。 アナログ入力や画面座標指定、PWM パルス出力等にて MAP 関数を使うことで、簡単にレンジ変換を行うことができます。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

アナログ入力値 0~4095 を 0~3.3V で表示する

10 CLS

20 GPIO PB1, ANALOG

30 V=MAP(ANA(PB1),0,4095,0,3300)

40 LOCATE 0,0:? DMP\$(V,3)

50 WAIT 200

60 GOTO 30

7.33 CHR\$ 文字コードから文字への変換(文字列関数)

た 書工

CHR\$(文字コード)

□ 引数

文字コード: 0~255

□ 戻り値

指定位置に表示されている文字の文字コード(0~255)

□ 説明

指定した文字コードに対応する文字を返します。 PRINT、SPRINT、GPRINTの引数にて利用可能です。 範囲外の値を指定した場合は空白文字(*´´)を返します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 文字コードに 0~255 以外の数値を指定した

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

アルファベット A~Z を表示する

10 C=ASC("A")
20 FOR I=0 TO 25
30 PRINT CHR\$(C+I);
40 NEXT I
50 PRINT

run
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
OK

7.34 BIN\$ 数値から2進数文字列への変換(文字列関数)

た書 口

BIN\$(数值)

BIN\$(数值,桁数)

□ 引数

数値: 変換対象の整数値(-32768 ~ 32767)

桁数: 出力桁数(O ~ 16)

□ 戻り値

2 進数文字列(1 桁~16 桁)

□ 説明

指定した数値を2進数文字列に変換します。

数値には式、変数、定数等の指定が可能です。

PRINT、SPRINT、GPRINT の引数にて利用可能です。

桁数を指定した場合は数値が指定した桁数に満たない場合は、Oで桁を補います。

指定した桁数を超える場合は数値の桁数を優先します。

桁数をしない場合は、先頭のOは付加されません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない lllegal value : 桁数の値が正しくない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

2進数で変数の内容を表示する

```
10 A=1234:B=1
20 PRINT BIN$(A)
30 PRINT BIN$(B)
40 PRINT BIN$(B,4)
50 PRINT BIN$(B,4)

run
10011010010
1
10011010010
0001
0K
```

7.35 HEX\$ 数値から 16 進数文字列への変換(文字列関数)

た書 口

HEX\$(数值)

HEX\$(数值,桁数)

□ 引数

数値: 変換対象の整数値(-32767 ~ 32767)

桁数: 出力桁数(O ~ 4)

□ 戻り値

16 進数文字列(1 桁~4 桁)

□ 説明

指定した数値を 16 進数文字列に変換します。

数値には式、変数、定数等の指定が可能です。

PRINT、SPRINT、GPRINT の引数にて利用可能です。

桁数を指定した場合は数値が指定した桁数に満たない場合は、Oで桁を補います。

指定した桁数を超える場合は数値の桁数を優先します。

桁数をしない場合は、先頭の○は付加されません。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない lllegal value : 桁数の値が正しくない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

入力した整数値を 16 進数表示する

10 INPUT "value=",V

20 PRINT HEX\$(V,4)

30 GOTO 10

7.36 DMP\$ 整数の小数付き数値文字列への変換(文字列関数)

た 書 口

DMP\$(数值

DMP\$(数值,小数点桁数)

DMP\$(数值,小数点桁数,自然部桁数)

□ 引数

数值 :変換対象整数 -32767 ~ 32767

小数点桁数 : 小数点以下の桁数を指定 $O \sim 4$ (省略時は 2)整数部桁数 : 小数点以上の桁数を指定 $O \sim 8$ (省略時は O)

□ 戻り値

小数点を付加した数値文字列

□ 説明

指定した整数を小数点付きの文字列数値に変換します。

引数の小数点以下の桁数を n とした場合、数値 \div 10^n の計算を行い、小数点以下の数値を含めて表示します。

PRINT DMP\$(3141,3)

3.141

小数点以下の桁数を指定しない場合、小数点桁数は2となります。

PRINT DMP\$(3141)

3.14

整数部桁数を指定した場合、桁数に満たない場合は空白で補完します。

本関数は PRINT、SPRINT、GPRINT の引数にて利用可能です。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数の値が有効範囲を超えている

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

lllegal value : 桁数の値が正しくない '(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

アナログ入力値 0~4095 を 0~3.3V で表示する

10 CLS

20 GPIO PB1, ANALOG

30 V=MAP(ANA(PB1),0,4095,0,3300)

40 LOCATE 0,0:? DMP\$(V,3)

50 WAIT 200

60 GOTO 30

実行結果

run 2.011 2.215

2.294

2.330

アナログ入力値 0~4095 を MAP 関数にて 0~3300 に変換し、

7.37 STR\$ 変数が参照する文字列の取得・文字列の切り出し

た書 口

STR\$(変数)

STR\$(変数,先頭位置,長さ)

STR\$(文字列)

STR\$(文字列,先頭位置,長さ)

口 引数

変数 : 文字列を参照している変数または配列変数

先頭位置:切り出す文字位置先頭 1~32767 長さ :切り出す文字の長さ 1~32767

文字列 : ダブルクォーテーションで囲った文字列定数("文字列")

□ 戻り値

指定した文字列および変数が参照している文字列を全部または切り出して返します。

□ 説明

指定した文字列および変数が参照している文字列を全部または切り出して返します。 引数に先頭位置、長さを指定した場合は、その条件にて文字列を切り出して返します。 先頭位置は 1 からの指定となります。

PRINT、SPRINT、GPRINT の引数にて利用可能です。

例:

```
10 S="123456789"
20 ?STR$(S)
30 ?STR$(S,5,2)
40 ?STR$("ABCDE",5,1)
```

実行結果

```
run
123456789
56
E
OK
```

上記の例では、変数 S が参照している文字列"123456789"に対して、

20 行は全て出力、30 行は5番目からの文字から2文字 "56"を出力、

30 行は直接指定した文字列"ABCDE"の5番目の文字から1文字を出力しています。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した文字位置、長さの値が不当

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

変数が参照している文字列を切り出して表示する

```
10 'モジレツソウサ サンプル
20 S="Hello,Tiny BASIC"
30 L=LEN(S)
40 PRINT STR$(S);" LEN=";L
50 PRINT STR$(S,1,5)
60 C=ASC(S,12)
RUN
Hello,Tiny BASIC LEN=16
Hello
```

7.38 WAIT 時間待ち

た 書工

WAIT 待ち時間(ミリ秒)

□ 引数

待ち時間: 0 ~ 32767 (単位 ミリ秒)

□ 説明

引数で指定した時間(ミリ秒単位)、時間待ち(ウェイト)を行います。

最大で32767ミリ秒(32.8秒)の時間待ちが可能です。

長い時間待ちを行う必要がある場合は、TICK()や GETTIME を使った方法を検討してください。

(注意) 時間待ち中はキー操作によるプログラム中断を行うことは出来ません。 短い時間の指定にてループ処理を行う等の対策を行ってください。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Illegal value : 待ち時間に範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

画面上の指定位置に時刻を 1 秒間隔で更新表示する

10 SETDATE 2017,4,1,12,0,0

20 CLS

30 LOCATE 5,5

40 DATE

50 WAIT 1000

60 GOTO 30

7.39 CLT 起動からの経過時間カウントのリセット

た書 口

CLT

□ 引数

なし

□ 説明

TICK()の起動からの経過時間カウンタをリセット(Oを設定)します。

TICK()関数使う前に経過時間カウントをリセットすることでOからのカウントを行うことが出来ます。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

1万回ループの実行時間を測定する(プログラム: TICK. BAS)

10 A=0

20 CLT

30 FOR I=1 TO 10000

40 A=A+1

50 NEXT I

60 PRINT A

70 PRINT TICK(); "msec"

RUN

10000

225msec

7.40 TICK 経過時間取得(数値関数)

経過時間を取得する。

た 書工

TICK()

TICK(モード)

□ 引数

モード O: 経過時間をミリ秒単位で取得する(デフォルト)

1:経過時間を秒単位で取得する

□ 戻り値

モード指定に従った経過時間を返す。

モード O: O ~ 32767 ミリ秒の経過時間を返す(約32.767 秒でオーバーフロー)

モード 1: 0 ~ 32767 秒の経過時間を返す(約9.1 時間でオーバーフロー)

□ 説明

起動からの経過時間を返します。経過時間は CLT コマンドにて初期化が可能です。

CLT コマンドと組み合わせて使うことで、処理時間の測定を行うことが出来ます。

モード指定無し、または0を指定の場合、ミリ秒単位の経過時間を返します。

1 を指定した場合は、砂単位の経過時間を返します。

(注意) オーバーフローが発生しますので、長時間の測定には利用することが出来ません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った '(' or ')' expected : '(' または ')'がない、引数の指定が正しくない

Illegal value : モードの指定値が正しくない

Overflow : モードの指定値が-32767 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

1万回ループの実行時間を測定する(プログラム: TICK. BAS)

10 A=0

20 CLT

30 FOR I=1 TO 10000

40 A=A+1

50 NEXT I

60 PRINT A

70 PRINT TICK();"msec"

RUN

10000

225msec

7.41 POKE 指定アドレスへのデータ書き込み

た 書 口

POKE 仮想アドレス,データ

POKE 仮想アドレス,データ,データ, ... データ (可変個数指定)

□ 引数

仮想アドレス : 仮想アドレス(16 ビット) \$0000 ~データ : 書き込むデータ (下位 8 ピットのみ有効)

□ 説明

指定した仮想アドレスに指定したデータを書き込みます。

仮想アドレスの指定には次の定数を利用することで有用な領域への書込みが簡単に行えます。

VRAM : 画面表示用メモリ (CW×CH) サイズは SCREEN モードにより可変

VAR: 変数領域サイズ 416 バイトARRAY: 配列変数領域(@(O)~@(99))サイズ 200 バイトPRG: プログラム領域サイズ 4096 バイトMEM: ユーザーワーク領域サイズ 1024 バイト

GRAM : グラフィック表示用メモリ サイズは SCREEN モードにより可変

仮想アドレスの詳細については、「1.12メモリーマップ」の「仮想アドレス」を参照下さい。

ユーザーワーク領域は利用者が自由に利用出来る領域です。

それ以外の領域は BASIC の実行にて利用する領域です。

指定した仮想アドレスに上記以外の領域を指定した場合はエラーとなります。

例として画面上のカーソル位置 X.Y への文字の書込みは次のようになります。

VRAM に書き込んだ内容を画面の表示に反映するには REDRAW コマンドを実行します。

10 POKE VRAM+Y*80+X,ASC("A")

20 REDRAW

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Out of range value : S 領域外のアドレスを指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

変数AからZの内容をユーザーワーク領域に保存する

10 FOR I=0 TO 51

20 POKE MEM+I, PEEK(VAR+I)

30 NEXT I

7.42 PEEK 指定アドレスの値参照 (数値関数)

た 書 口

PEEK(仮想アドレス)

口 引数

仮想アドレス: 参照を行う SRAM 領域先頭からの相対バイトアドレス(16 ビット) \$0000 ~

□ 戻り値

指定した仮想アドレスに格納されている1バイトデータ(0~255)

□ 説明

指定した仮想アドレスに格納されている値(1バイト)を返します。

仮想アドレスの指定には次の定数を利用することで有用な領域への参照が簡単に行えます。

VRAM : 画面表示用メモリ(CW×CH) サイズは SCREEN モードにより可変

VAR: 変数領域サイズ 416 バイトARRAY: 配列変数領域(⑩(O)~⑩(99))サイズ 200 バイトPRG: プログラム領域サイズ 4096 バイトMEM: ユーザーワーク領域サイズ 1024 バイトFNT: フォントデータサイズ 2048 バイト

GRAM : グラフィック表示用メモリ サイズは SCREEN モードにより可変

仮想アドレスの詳細については、「1.12 メモリーマップ」の「仮想アドレス」を参照下さい。

ユーザーワーク領域は利用者が自由に利用出来る領域です。

それ以外の領域は BASIC の実行にて利用する領域です。

例として画面上のカーソル位置 X,Y に格納されている文字の参照は次のようになります。

C = PEEK(VRAM+Y*CW+X)

エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Out of range value :領域外のアドレスを指定した'(' or ')' expected :括弧の指定が正しくない

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

文字"A"のフォントデータを参照し、2 進数で表示する

10 FOR I=0 TO 7 20 D=PEEK(FNT+ASC("A")*8+I) 30 PRINT BIN\$(D,8) 40 NEXT I

実行結果

7.43 PRINT 画面への文字表示

た 書 口

PRINT

PRINT 文字列数值

PRINT 文字列数值;

PRINT 文字列|数值;文字列|数值;··· PRINT 文字列|数值;文字列|数值;···;

PRINT #桁数,文字列|数值; 文字列|数值;…;

※ …は可変指定を示す

※;は連結指定、カンマ','も可能

口 引数

文字列 : 文字列定数または文字列関数

数値 :数値定数、変数、配列変数、または数値関数、式

連結指定 : セミコロン"; または カンマ';'

文末に付けると改行抑制される

桁数 : #数値 または #-数値 の形式で指定する

例:#3 、 #-3

□ 説明

指定した文字列、式、関数、変数、数値をスクリーン画面のカーソル位置に表示します。

```
PRINT "Hello,World"
Hello,World
OK
PRINT 123*3
369
OK
PRINT HEX$(123*3)
171
OK
```

文字列、式、関数、変数、数値は連結指定のセミコロン"、またはカンマ、パにて連結して表示することが出来ます。また最後に"または"、が付加されている場合は改行しません。

```
10 N=5:C=3:K=10

20 PRINT "N=";N;" C=";C;

30 PRINT " K=";

40 PRINT K

RUN

N=5 C=3 K=10

OK
```

数値の整形表示

#数値にて桁数を指定することで、任意の桁数(指定桁に満たない場合は空白を入れる)にて等間隔で表示します。数値の前に-(マイナス)を付加した場合、空白をではなく、O(零)で不足桁を補います。

#数値は任意の位置、任意の回数指定できます。

桁数指定なし

```
PRINT 1;":";2;":";3
1:2:3
```

桁数指定あり(空白文字で補間)

```
PRINT #2,1;":";2;":";3
1: 2: 3
```

桁数指定あり(0で補間)

```
PRINT #-2,1;":";2;":";3
01:02:03
```

表示位置の指定

LOCATE コマンドを併用することで、スクリーン画面の任意の位置に文字を表示することが出来ます。

```
10 LOCATE 10,10
20 PRINT "Hello!"
```

色、属性の指定

スクリーン画面が SCREEN O のターミナルコンソールの場合、

COLOR コマンド、ATTR コマンドを併用することで、文字の前景色、背景色の指定、点滅、アンダーライン等の属性を付加することが出来ます。

```
10 COLOR 4,3
20 PRINT "Hello,";
40 ATTR 2
50 PRINT "World".
60 COLOR 7,0:ATTR 0
```

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

時刻を表示する

```
10 GETTIME A,B,C
20 LOCATE 0,0:PRINT #-2,A;":";B;":";C
30 WAIT 1000
40 GOTO 20
```

実行結果

```
10:52:00
```

7.44 INPUT 数値の入力

た書 口

INPUT 変数

INPUT 変数,オーバーフロー時の既定値

INPUT プロンプト,変数

INPUT プロンプト,変数,オーバーフロー時の既定値

口引数

変数 : 入力した値を格納する変数または配列変数

プロンプト : 文字列定数 "プロンプト" オーバーフロー時の既定値 : -32768 ~ 32767

□ 説明

現在のカーソル位置にて数値の入力をし、指定した変数にその値を格納します。

キーボードから入力できる文字は数値 $0\sim9$ 、入力訂正の[BS]、[DEL]、入力確定の[Enter]です。

それ以外の入力はできません。

数値を入力せずに、[Enter]にて入力確定を行った場合、変数には O が格納されます。

引数に変数のみを指定した場合、"変数名:"を表示しその後ろの位置から数値を入力します。

```
INPUT A
A:
```

プロンプトを指定した場合は、そのプロンプトを表示しその後ろ位置から数値を入力します。

```
INPUT "Value=",A
Value=
```

オーバーフロー時の既定値を指定した場合、入力値した数値がオーバーフローを発生した場合は、オーバーフロー時の既定値を変数に設定します。オーバーフロー時の既定値を設定していない場合は、Overflow エラーとなります。

オーバーフロー時の既定値なし

```
INPUT A
A:111111
Overflow
OK
```

オーバーフロー時の既定値あり

```
INPUT A,-1
A:111111
OK
?A
-1
OK
```

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

```
INPUT A
A=1234
OK
INPUT "Value=" A
Value=1234
OK
```

口 書式 CLS	
ロ 引数 なし	
□ 説明 画面上に表示している	る内容を全て消します。
ロ エラーメッセージ Syntax error	:文法エラー、書式と異なる利用を行った
□ 利用例 画面の表示内容を消	去する

7.45 CLS 画面表示内容の全消去

OK

7.46 COLOR 文字色の設定

た 書 口

COLOR 文字色 COLOR 文字色, 背景色

□ 引数

□ 説明

文字色の設定を行います。指定した色は以降の文字表示に反映されます。 文字色、背景色で指定する色コードに対する色は次の表の通りです。

表 1 色コード

色コード	色
0	黒
1	赤
2	緑
3	茶
4	青
5	マゼンタ
6	シアン
7	白(デフォルト)
8	黄

TFT(ILI9341)ディスプレイを利用している場合、上記の色コードに加えて、

RGB コード: \$0009 ~ \$FFFF の色指定が可能です。RGB コードは次の構成となります。

(注意) TFT デスプレイ、ターミナル版のみ利用可能です。

(注意) 利用するターミナルソフトにより色が正しく表示されない場合があります。 属性指定との併用では正しく表示されない場合があります。 画面を[CTRL-R]、[Page UP]、[Page Down]キーにて再表示した場合、 色情報は欠落します。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 色コードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

ランダムな色で*を表示する

```
10 FOR I=0 TO 10
20 FOR J=0 TO 10
30 COLOR RND(8): ? "*";
35 WAIT 100
40 NEXT J
50 ?
60 NEXT I
```

7.47 ATTR 文字表示属性の設定

た 書工

ATTR 属性

□ 引数

属性: 属性コード O ~ 4

□ 説明

文字の表示属性を設定します。指定した表示属性は以降の文字表示に反映されます。 属性に指定する属性コードは次の表の通りです。

表 2 属性コード

属性コード	機能
0	標準(デフォルト)
1	下線
2	反転
3	ブリンク
4	ボールド

(注意) ターミナル版のみ利用可能です。

(注意) 利用するターミナルソフトにより色が正しく表示されない場合があります。

属性指定との併用では正しく表示されない場合があります。

画面を[CTRL-R]、[Page UP]、[Page Down]キーにて再表示した場合、

色情報は欠落します。

□ エラーメッセージ

Syntax error :文法エラー、書式と異なる利用を行った :属性コードに範囲外の値を指定した Illegal value

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

Hello,world を反転表示する

10 CLS

20 LOCATE 5,5 30 ATTR 2:? "Hello,world"

40 ATTR 0

7.48 LOCATE カーソルの移動

た 書工

LOCATE 横位置, 縦位置

□ 引数

横位置: 画面上の横位置 O \sim CW-1 縦位置: 画面上の縦位置 O \sim CH-1

CW、CH は画面の横桁数、縦行数の示す定数です。

利用するフォント等により異なります。

□ 説明

カーソルを指定した位置に移動します。

縦横位置それぞれの指定に 0 以下の数値を指定した場合、それぞれの位置は 0 となります。

横位置に CW-1 を超える数値を指定した場合、横位置は CW-1 となります。縦位置に CH-1 を超える数値を指定した場合、縦位置は CH-1 となります。

定数 CW、CH に設定されている値は次のようすることで確認することができます。

```
?CW
37
OK
?CH
27
OK
```

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

画面の指定位置にメッセージを表示する

```
10 CLS
20 LOCATE 5,5:PRINT "Hello,world."
30 LOCATE 6,6:PRINT "TinyBASIC"
40 LOCATE 7,7:PRINT "Thank you."
```

```
Hello,world.
TinyBASIC
Thank you.
```

7.49 REDRAW 画面表示の再表示

た書 口

REDRAW

口 引数

なし

□ 説明

表示用メモリ(VRAM)の内容を画面に再表示を行います。
[CTRL-R]、[Page UP]、[Page Down]キーによる再表示をコマンドにて行います。
再表示においては、カーソルの移動は行いません。

再表示においては、個々に色付しけした文字の色、背景色、属性は欠落します。 再表示後は最後に指定した文字色、背景色、属性に統一されます。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

表示用メモリ(VRAM)に直接書き内容を画面に反映させる

10 POKE VRAM+80*5+50, ASC("b")

20 REDRAW

7.50 CSCROLL キャラクタ画面スクロール

た 書 口

CSCROLL x1,y1,x2,y2,方向

□ 引数

 x1
 : 左上横座標 O ~ CW-1 (最大値は利用フォントにより可変)

 y1
 : 左上縦座標 O ~ CH-1 (最大値は利用フォントにより可変)

 x2
 : 右下横座標 O ~ CW-1 (最大値は利用フォントにより可変)

 y2
 : 右下縦座標 O ~ CH-1 (最大値は利用フォントにより可変)

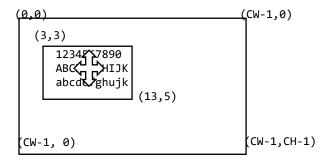
 方向
 : UP(O): 上、DOWN(1): 下、RIGHT(2): 右、LEFT(3): 左

※方向は定数またはカッコ内の数値の指定が可能

□説明

画面の指定範囲でテキストを1文字単位でスクロールします。

本コマンドは、シリアルコンソール画面、TFT ディスプレイでは利用出来ません。



画面全体をスクロールしたい場合は、

```
CSCROLL 0,0,CW-1,CH-1,LEFT
```

のように、画面の左上の位置と画面右下の位置を指定します。

指定した範囲をスクロールしたい場合は、

```
CSCROLL 3 ,3,13,5,LEFT
```

のように範囲を指定します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

Illegal value : 指定した数値が不当である

Not supported : SCREEN 1~3 以外でコマンドを利用した

□ 利用例

文字をスクロールする

- 10 CLS
- 20 LOCATE 10,10:?"Hello,TinyBASIC"
- 25 WAIT 200
- 30 FOR I=0 TO 15
- 40 CSCROLL 10,10,24,10,LEFT
- 50 WAIT 500
- 60 NEXT I

7.51 VPEEK 画面指定位置の文字コード参照(数値関数)

た書 口

VPEEK(横位置,縦位置)

□ 引数

横位置: O~CW - 1 縦位置: O~CH - 1

CW、CH は画面の横桁数、縦行数の示す定数です。

利用するフォント等により異なります。

□ 戻り値

指定位置に表示されている文字の文字コード(O ~ 255)

□ 説明

画面上の指定位置に表示されている文字の文字コードを取得します。 引数の指定位置が範囲外の場合は O を返します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数の値が有効範囲を超えている

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

画面最上位の行に表示されている文字を表示する

10 FOR I=0 TO CW-1 20 C=VPEEK(I,0)

30 PRINT CHR\$(C); 40 NEXT I

50 PRINT

7.52 PSET 点の描画

た 書 口

PSET 横座標, 縦座標, 色

□ 引数

横座標 : O \sim GW-1 (注意 最大値は利用環境により異なる場合があります) 縦座標 : O \sim GH-1 (注意 最大値は利用環境により異なる場合があります)

色 : O 黒 、1 白 、2 反転 または RGB コード \$0000~\$FFFF (TFT ディスプレイのみ)

※GW、GHはグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。

この定数は、画面解像度に設定等により変わります。

□ 説明

指定したグラフィク座標に指定した色の点を描画します。

色に2をした場合は、座標位置の色を反転した点を描画します。

本コマンドは NTSC 出力版またはグラフィク表示デバイス版にて利用可能です。

(注意) 範囲外の座標を指定した場合、 範囲内の境界に描画します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

半径 100 ドット内に点を描画する

10 CLS

20 FOR N=0 TO 30000

30 IF V!=99 Y=Y+V:V=V+1

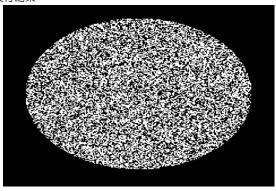
40 X=RND(200)-100

50 Y=RND(200)-100

60 IF X*X+Y*Y<10000 PSET X+110,Y+108,1

70 NEXT N

80 GOTO 80



7.53 LINE 直線の描画

た 書工

LINE 横座標 1, 縦座標 1, 横座標 2, 縦座標 2,色

□ 引数

横座標 1 : O ~ GW-1 縦座標 1 : O ~ GH-1 横座標 2 : O ~ GW-1 縦座標 2 : O ~ GH-1

色 : 0 黒 、1 白 、2 反転 または RGB コード \$0000~\$FFFF(TFT ディスプレイのみ)

※GW、GH はグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。

この定数は、画面解像度により変わります。

□ 説明

指定したグラフィク座標 (横座標 1,縦座標 1)と(横座標 2,縦座標 2)間を結ぶ直線を指定した色で描画します。色に 2 をした場合は、座標位置の色を反転した点を描画します。

本コマンドは NTSC 出力版またはグラフィク表示デバイス版にて利用可能です。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

直線を描画する

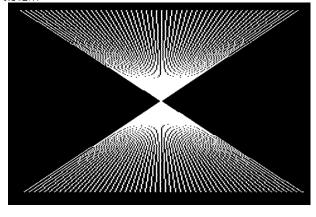
10 CLS

20 FOR X=0 TO 223 STEP 4

30 LINE X,0,223-X,215,1

40 NEXT X

50 GOTO 50



7.54 RECT 矩形の描画

た 書 口

RECT x1, y1,x2, y2, 色, モード

□ 引数

x1 : 左上横座標 $O \sim GW-1$ (最大値は環境により可変) y1 : 左上縦座標 $O \sim GH-1$ (最大値は環境により可変) x2 : 右下横座標 $O \sim GW-1$ (最大値は環境により可変) y2 : 右下縦座標 $O \sim GH-1$ (最大値は環境により可変)

色 : 0 黒 、1 白 、2 反転 または RGB コード \$0000~\$FFFF (TFT ディスプレイのみ)

モード : 0 塗りつぶしなし,0 以外 塗りつぶしあり

※GW、GH はグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。

この定数は、画面解像度に設定等により変わります。

□説明

指定した位置に指定した色で矩形を描画します。

モードにOを指定した場合は線のみを描画します。O以外を指定した場合は白で塗りつぶします。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

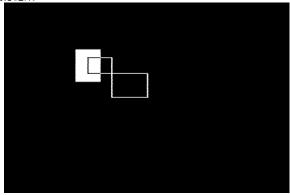
Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

Illegal value : 指定した数値が不当である

□ 利用例

矩形を描画する

10 CLS
20 RECT 50,50,70,90,1,1
30 RECT 60,60,80,80,2,0
40 RECT 80,80,110,110,1,0
50 GOTO 50



7.55 CIRCLE 円の描画

た書 口

CIRCLE 横中心座標, 縦中心座標, 半径, 色, モード

□ 引数

横中心座標 : 0 \sim GW-1 縦中心座標 : 0 \sim GH-1

半径 : 1 ∼ GW-1

色 : O 黒 、1 白 、2 反転 または RGB コード \$0000~\$FFFF(TFT ディスプレイのみ)

モード : 0 塗りつぶしなし,0 以外 塗りつぶしあり

※GW、GH はグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。

この定数は、画面解像度に設定等により変わります。

□ 説明

指定した中心座標(横中心座標,縦中心座標)を起点に指定した半径の円を色で描画します。 モードに O を指定した場合は線のみを描画します。 O 以外を指定した場合は指定した色で塗りつぶします。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

円を描画する

10 CLS 20 FOR Y=0 TO 215 STEP 40

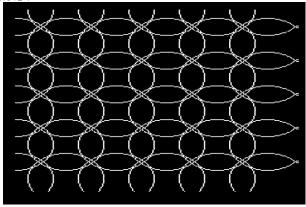
30 FOR X=0 TO 223 STEP 40

40 CIRCLE X,Y,30,1,0

50 NEXT X

60 NEXT Y

70 GOTO 70



7.56 BITMAP ビットマップ画像の描画

た 書工

BITMAP 横座標, 縦座標, 仮想アドレス, インデックス, 幅, 高さ [,倍率]

□ 引数

横座標 : O \sim GW-1 縦座標 : O \sim GH-1

仮想アドレス : 数値(任意の仮想アドレス)

インデックス : 0 ~ 32767 幅 : 1 ~ GW-1 高さ : 1 ~ GH-1 倍率 : 1 ~ 8

GW、GH はグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。 この定数は、画面解像度により変わります。

□ 説明

指定した座標にビットマップ画像を描画します。

仮想アドレスに描画対象の画像データの先頭格納アドレスを指定します。

インデックスには画像データの先頭格納の格納位置を指定します。

(幅 + 7) / 8 + 高さ * インデックス の計算にて参照する画像格納位置を移動します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

インベーダーのキャラクタをアニメーション表示する(4倍で表示)

10 CLS

20 POKE MEM+0,\$10,\$40,\$48,\$90,\$5F,\$D0,\$77,\$70

30 POKE MEM+8,\$3F,\$E0,\$1F,\$C0,\$10,\$40,\$20,\$20

40 POKE MEM+16,\$10,\$40,\$08,\$80,\$1F,\$C0,\$37,\$60

50 POKE MEM+24,\$7F,\$F0,\$5F,\$D0,\$50,\$50,\$0D,\$80

60 FOR A=0 TO 20

70 BITMAP A,0,MEM,A%2,12,8,4

80 WAIT 200

90 NEXT A



7.57 GPRINT 文字列の描画

た 書 口

GPRINT 横座標,縦座標

GPRINT 横座標,縦座標文字列|数値

GPRINT 横座標,縦座標文字列|数値;

GPRINT 横座標,縱座標文字列|数值;文字列|数值;…

GPRINT 横座標,縱座標文字列|数值;文字列|数值;…;

GPRINT 横座標,縦座標#桁数,文字列|数值;文字列|数值;…;

※ | はいずれのうち1つを示す

※ …は可変指定を示す

※;は連結指定、カンマ','も可能

□ 引数

横座標 : 横描画位置 O \sim GW-1(通常は 223) 縦座標 : 縦描画位置 O \sim GH-1(通常は 215)

文字列 : 文字列定数または文字列関数

数値 :数値定数、変数、配列変数、または数値関数、式

連結指定 : セミコロン", または カンマ()

文末に付けると改行抑制される

桁数 : #数値 または #-数値 の形式で指定する

例:#3 、 #-3

□ 説明

指定したグラフィック座標にグラフィックとして文字列を描画します。

横座標、縦座標以降の記述及び出力結果は PRINT 文と同等です。

出力する文字列の表記方法については、「7.43 PRINT 画面への文字表示」を参照下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った、引数に数値以外を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

時刻を表示する

10 GETTIME A,B,C

20 GPRINT 0,0,#-2,A;":";B;":";C

30 WAIT 1000

40 GOTO 10

実行結果

10:52:00

7.58 GSCROLL グラフィックスクロール

た 書 口

GSCROLL x1, y1, x2, y2,方向

口 引数

x1 : 左上横座標 $O \sim GW-1$ (最大値は環境により可変) y1 : 左上縦座標 $O \sim GH-1$ (最大値は環境により可変) x2 : 右下横座標 $O \sim GW-1$ (最大値は環境により可変) y2 : 右下縦座標 $O \sim GH-1$ (最大値は環境により可変)

方向 : UP(O): 上、 DOWN(1): 下、 RIGHT(2): 右、 LEFT(3): 左

※方向は定数またはカッコ内の数値の指定が可能

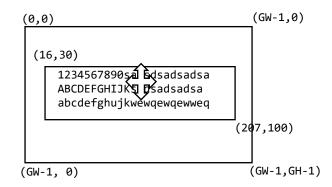
※GW、GHはグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。

この定数は、画面解像度により変わります。

□説明

画面上の指定範囲表示内容を 1 ドット単位でスクロールします。

本コマンドは、シリアルコンソール画面、TFT ディスプレイでは利用出来ません。



NTSC ビデオディスプレイ使用時には次の制約があります。OLED ディスプレイでは制約はありません。

- ・右上横方向 x1 は8の倍数で指定して下さい(バイト境界指定)。
- ・左下横座標x2は8の倍数-1で指定指定して下さい(バイト境界指定)。

上記以外の数値を指定した場合、指定数値をバイト境界に補正します。

画面全体を左スクロールしたい場合は、

GSCROLL O, O,GW-1,GH-1, LEFT

のように、画面全体の領域を指定します。

指定した範囲をスクロールしたい場合は、

GSCROLL 16,30,207,100, LEFT

のように範囲を指定します。

(注意) GSCROLL でスクロールした場合、見かけ上のテキストとテキスト表示管理の情報にずれが生じます。 VPEEK による表示位置の文字コード取得は正しい値を返しません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

Illegal value : 指定した数値が不当である

□ 利用例

簡易オシロスコープ

```
10 'oscilloscope
20 CLS
30 GPIO PB1,ANALOG
40 "LOOP"
50 R=ANA(PB1)
60 Q=R/20
70 LOCATE 0,0:?R;" "
80 PSET 223,221-Q,1
90 WAIT 50
100 GSCROLL 0,8,GW-1,GH-1,LEFT
110 GOTO "LOOP"
```

7.59 LDBMP ビットマップファイルの読み込み

た 書 口

LDBMP "ファイル名",仮想アドレス,bx,by, 幅, 高さ[,色指定]

口 引数

″ファイル名″ :ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字 のファイル名

仮想アドレス : データの読み込みアドレス(仮想アドレス)

Bx: ビットマップ画像の切り出し横座標 0 ~ 32767By: ビットマップ画像の切り出し縦座標 0 ~ 32767幅: ビットマップ画像の切り出しドット幅 1 ~ 32767高さ: ビットマップ画像の切り出しドット高 1 ~ 32767

色指定 : 0 変換なし、1 反転

□ 説明

SD カード内の Windows ビットマップファイル(モノクロ 2 値)の指定領域の画像を切り出して、メモリ上に読み込みます。 読み込む画像はファイル名で指定します。

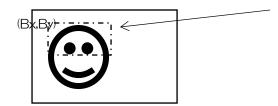
仮想アドレスの指定には次の定数を利用することで有用な領域への書込みが簡単に行えます。

VRAM :画面表示用メモリ(CW×CH) サイズは SCREEN モードにより可変

VAR: 変数領域サイズ 416 バイトARRAY: 配列変数領域(@(O)~@(99))サイズ 200 バイトPRG: プログラム領域サイズ 4096 バイトMEM: ユーザーワーク領域サイズ 1024 バイト

GRAM : グラフィック表示用メモリ サイズは SCREEN モードにより可変

仮想アドレスの詳細については、「1.12メモリーマップ」の「仮想アドレス」を参照下さい。



切り出す領域

ビットマップ画像の座標(Bx,By)から幅、高さの画像を連続データとして指定したアドレスに格納する。

ビットマップ画像上の座標 Bx、By から指定した幅、高さの画像を指定したアドレスに連続データとして格納します。指定した幅、高さがビットマップ画像よりも大きい場合は、切り出し幅、高さを画像サイズにて調整します。

引数の色指定にて、元の画像の白・黒を反転して読み込む指定が可能です。

(注意) 連続したデータが指定した保存可能な領域をオーバーするチェックは行っていません。 あらかじめ画像サイズを見積もった上で利用して下さい。 ユーザーワーク領域 (1024 バイト) を利用した場合、 格納できる画像は、

128 ドット×64 ドットの画像程度です。

大きい画像を表示する場合、グラフィック表示用メモリに直接読み込むか、

DWBMP コマンドを利用して下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

下記の横 96 ドット、縦 64 ドットの画像 (768 バイト)ファイル TT.BMP の全データをユーザーワーク領域(MEM~)に読込み、BITMAP コマンドで 2 倍表示する。

画像ファイル

プログラム



- 10 CLS
- 20 LDBMP "TT.BMP", MEM, 0, 0, 96, 64
- 30 BITMAP 10,30,MEM,0,96,64,2
- 40 GOTO 40

実行結果



同画像を、「豊」「四」「季」「TBASIC」の 4 つに分けて読込み、BITMAP コマンドで分離して表示する。「豊」は反転して読み込む。

プログラム

- **10 CLS**
- 20 LDBMP "TT.BMP", MEM, 0, 0, 32, 32, 1
- 30 LDBMP "TT.BMP", MEM+128, 32, 0, 32, 32
- 40 LDBMP "TT.BMP", MEM+256, 64, 0, 32, 32
- 50 LDBMP "TT.BMP", MEM+384, 0, 32, 96, 32
- 60 BITMAP 10,30,MEM,0,32,32,2
- 70 BITMAP 74,40,MEM,1,32,32,2
- 80 BITMAP 138,50,MEM,2,32,32,2
- 90 BITMAP 10,120,MEM+384,0,96,32,2

実行結果

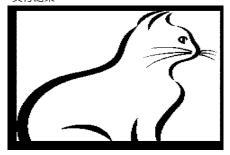


大きいサイズの画像を直接グラフィック表示用メモリに読み込んで画像を表示する。

プログラム

- 10 CLS
- 20 LDBMP "CAT.BMP", GRAM, 0, 0, GW, GH
- 30 GOTO 30

実行結果



※画像はHelm42 さんの猫絵を利用させて頂いています。

http://free-illustrations.gatag.net/tag/%E7%8C%AB-%E3%83%8D%E3%82%B3

7.60 DWBMP BMP ファイルの表示

た 書 口

DWBMP "ファイル名", x, y, Bx, By 幅, 高さ[,色指定]

口 引数

″ファイル名″ :ディレクトリパス(省略可能)+ファイル8文字+拡張子3文字 のファイル名

X : 画像表示位置 横 O ~ GW-1 ※8 の倍数であること

y : 画像表示位置 縦 O ~ GH-1

Bx : ビットマップ画像の切り出し横座標 0~32767 ※8の倍数であること

By : ビットマップ画像の切り出し縦座標 O ~ 32767

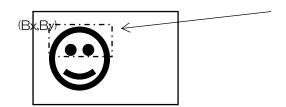
幅 : ビットマップ画像の切り出しドット幅 1 ~ GW ※8 の倍数であること

高さ : ビットマップ画像の切り出しドット高 1 ~ GH

色指定 : O 変換なし、1 反転 ※ TFT ディスプレイの場合、指定出来ません

□ 説明

SD カード内の Windows ビットマップファイルの指定領域の画像を切り出して、指定した座標(x,y)に表示します。 NTSC、OLED ディスプレイの場合、ビットマップファイルはモノクロ(白黒2値)画像のみ利用出来ます。 TFT デスプレイの場合、16 ビットカラービットマップファイルのみ利用出来ます。



切り出す領域

ビットマップ画像の座標(Bx,By)から幅、高さの画像を連続データとして指定したアドレスに格納する。

ビットマップ画像上の座標 Bx、By から指定した幅、高さの画像を切り出して指定位置に表示します。

表示位置の x、 ビットマップ画像の切り出し位置 Bx、切り出し幅はバイト境界である8の倍数である必要があります。8の倍数でない場合は8の倍数に丸めます。

NTSC、OLED ディスプレイの場合、引数の色指定にて、元の画像の白・黒を反転して読み込む指定が可能です。 TFT ディスプレイの場合、引数の色指定は利用出来ません。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

下記の横 96 ドット、縦 64 ドットの画像 (768 バイト)ファイル TT.BMP を3つ表示する。 それのれの画像表示開始位置は、座標(0,0)、座標(8,64)、座標(16,130)とする。

画像ファイル プログラム



10 CLS

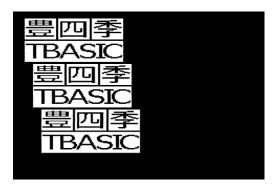
20 DWBMP "TT.BMP",0,0,0,0,96,64

30 DWBMP "TT.BMP",8,65,0,0,96,64

40 DWBMP "TT.BMP",16,130,0,0,96,64

50 GOTO 50

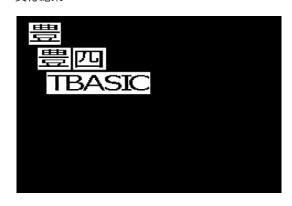
実行結果



同画像から指定境域の画像を切り出して表示する。

プログラム

10 CLS 20 DWBMP "TT.BMP",0,0,0,0,30,30 30 DWBMP "TT.BMP",8,33,0,0,64,32 40 DWBMP "TT.BMP",16,66,0,32,96,32 50 GOTO 50



7.61 GPEEK 画面上の指定位置ピクセルの参照(数値関数)

た 書工

GPEEK(横位置,縦位置)

口 引数

横位置: O~GW - 1 縦位置: O~GH - 1

※GW、GH はグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。 画面解像度により異なります。

□ 戻り値

指定位置に表示されているピクセルの色 O または 1

□ 説明

画面上の指定位置に表示されているピクセルを参照します。 引数の指定位置が範囲外の場合は O を返します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

画面上に表示しているドットに有無を2進数で表示する

10 B=0

10 FOR I=0 TO 7

20 B=(B<<1)+GPEEK(I,0)

30 NEXT I

40 PRINT BIN\$(B,8)

50 END

7.62 GINP 指定領域のピクセルの有無判定(数値関数)

た書 口

GINP(横位置,縦位置,高さ,幅,色)

□ 引数

横位置 : $O\sim GW-1$ 縦位置 : $O\sim GH-1$ 幅 : $1\sim GW-1$ 高さ : $1\sim GH-1$ 色 : $O\gg 1$ 1 白

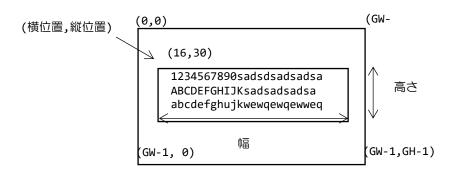
※GW、GHはグラフィック画面の横ドット数、縦ドット数を示す定数です。 画面解像度より異なります。

□ 戻り値

1 : 指定領域内(境界含む)に指定した色のピクセルが存在する O : 指定領域内(境界含む)に指定した色のピクセルが存在しない

□説明

指定した領域内の指定した色のピクセルが存在するをチェックし、その結果を返します。



ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'が無い

□ 利用例

画面上に表示しているドットに有無を2進数で表示する

10 B=0 10 FOR I=0 TO 7 20 B=(B<<1)+GPEEK(I,0) 30 NEXT I 40 PRINT BIN\$(B,8) 50 END

7.63 TONE 単音出力

た書 口

TONE 周波数

TONE 周波数,出力期間

□ 引数

周波数 : O ~ 32767 (Hz) O の場合は消音

出力期間 : O ~ 32767 (ミリ秒) O の場合は、継続再生

□ 説明

PB9 ピンより、指定した周波数のパルス出力(デューティ比 50%)を行います。 PB9 ピンに圧電スピーカー(圧電サウンダ)を接続すること音を出すことが出来ます。

出力期間の指定がある場合は、その期間パスルを出力します(ミリ秒単位)。

出力期間の指定がある場合、出力完了待ちを行います。

出力期間の指定がない場合は、NOTONE コマンドで停止指示をするまでパスルを出力し続けます。

(TONE O は NOTONE と等価です)

音階 • 周波数対応表

	۴	۲#	レ	レ#	11	ファ	ファ	ソ	ソ#	ラ	ラ#	シ
							#					
1	33	35	37	39	41	44	46	49	52	55	58	62
2	65	69	73	78	82	87	93	98	104	110	117	123
3	131	139	147	156	165	175	185	196	208	220	233	247
4	262	277	294	311	330	349	370	392	415	440	466	494
5	523	554	587	622	659	698	740	784	831	880	932	988
6	1047	1109	1175	1245	1319	1397	1480	1568	1661	1760	1865	1976
7	2093	2217	2349	2489	2637	2794	2960	3136	3322	3520	3729	3951
8	4186	4435	4699	4978	5274	5588	5920	6272	6643	7040	7459	7902

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

スペースキーを押したら音を鳴らす

10 IF INKEY() = 32 TONE 800,50

20 GOTO 10

7.64 NOTONE 单音出力停止

た書 口

NOTONE

口 引数

なし

□ 説明

TONE コマンドによるパスル出力を停止します。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

音を停止する

10 TONE 400 20 WAIT 200

30 NOTONE

7.65 DATE 現在時刻の表示

た書 口

DATE

口 引数

なし

□ 説明

内蔵 RTC から現在の時刻を読み、その情報を画面に表示します。

(注意) 内蔵 RTC 用のバックアップ電池を搭載していないボードでは、時刻情報は電源 OFF により初期化されます。その場合は SETDATE コマンドにて時刻設定を行って下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

時刻の設定と表示を行う

SETDATE 2017,4,1,12,00,00

DATE

2017/04/01 [Sat] 12:00:03

OK

7.66 GETDATE 日付の取得

た 書工

GETDATE 年格納変数,月格納変数,日格納変数,曜日格納変数

口 引数

年 格 納 変 数: 取得した西暦年を格納する変数を指定 月 格 納 変 数: 取得した月を格納する変数を指定 日 格 納 変 数: 取得した日を格納する変数を指定

曜日格納変数: 取得した曜日コードを格納する変数を指定

□ 説明

内蔵 RTC から日付情報を取得し、その値を指定した変数に格納します。

格納される値は次の通りです。

年格納変数: 西暦年4桁整数 1900~2036

月格納変数: 1 ~ 12 日格納変数: 1 ~ 31

曜日格納変数:曜日コード0~6(0:日1:月2:火3:水4:木5:金6:土)

(注意) 内蔵 RTC 用のバックアップ電池を搭載していないボードでは、時刻情報は電源 OFF により初期化されます。その場合は SETDATE コマンドにて時刻設定を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

OK

現在の日付を取得する

DATE
2017/04/01 [Sat] 12:03:05
OK
GETDATE A,B,C,D
OK
PRINT a;b;c;d
2017416

7.67 GETTIME 時刻の取得

た 書工

GETTIME 時格納変数,分格納変数 秒格納変数

□ 引数

時格納変数: 取得した時を格納する変数を指定 分格納変数: 取得した分を格納する変数を指定 秒格納変数: 取得した秒を格納する変数を指定

□ 説明

内蔵 RTC から日付情報を取得し、その値を指定した変数に格納します。

格納される値を次の通りです。

時格納変数: $O \sim 23$ 整数 分格納変数: $O \sim 59$ 整数

砂格納変数: ○ ~ 61 整数(うるう砂考慮)

(注意) 内蔵 RTC 用のバックアップ電池を搭載していないボードでは、時刻情報は電源 OFF により初期化されます。その場合は SETDATE コマンドにて時刻設定を行って下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

現在の時間を取得する

```
DATE
2017/04/01 [Sat] 12:10:51
OK
GETTIME A,B,C
OK
PRINT #-2,a;":";b;":";c
12:11:01
OK
```

(補足) PRINT 文の #-2 は数値を 2 桁(O 付き)で表示する指定です。

7.68 SETDATE 時刻の設定

た 書工

SETDATE 年,月,日,時,分,秒

□ 引数

年:1900 ~ 2036 西暦年4桁の整数

月:1~12 整数 日:1~31 整数 時:0~23 整数 分:0~59 整数

秒:0~61 整数(うるう秒考慮)

□ 説明

指定した時刻を内蔵 RTC に設定します。

(注意) 内蔵 RTC 用のバックアップ電池を搭載していないボードでは、時刻情報は電源 OFF により初期化されます。その場合は SETDATE コマンドにて時刻設定を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Illegal value: 指定した引数の数値が有効範囲以外Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

時刻の設定と表示を行う

Y=2017:M=4:D=1:H=12:N=0:S=0

SETDATE Y,M,D,H,N,S

OK DATE

2017/04/01 [Sat] 12:00:03

OK

7.69 GPIO GPIO 機能設定

た 書 口

GPIO ピン番号, モード

口 引数

ピン番号:0~34

ピン番号は数値の他に次のピン名(定数)での指定も可能です。

PAO, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8, PA9, PA10, PA13, PA14, PA15, PB0, PB1, PB2, PB3, PB8, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PC13

モード:

OUTPUT_OD : デジタル出力 (オープンドレイン)

OUTPUT : デジタル出力

INPUT FL : デジタル入力(フロート状態: Arduino の INPUT 指定と同じ)

INPUT_PU: デジタル入力(内部プルアップ抵抗有効)INPUT_PD: デジタル(内部プルダウン抵抗有効)

ANALOG : アナログ入力 PWM : PWM 出力

□ 説明

ボード上の指定したピン番号の入出力機能の設定を行います。

Arduino の pinMode()に相当します。

起動直後の各ピン(特定用途のピンを覗く)は INPUT が設定されています。

ただし、GPIO ピンを使って信号の入出力を行う場合は、必ず本コマンドによる設定を行って下さい。 ピン番号の指定には、0~34 の数値または、定数 PAO~PC15 が可能です。

また、GPIOは省略可能です。下記の2つは等価です。

GPIO PAO,OUTPUT PAO,OUTPUT

各モードで利用可能なピン番号

モード	ピン番号					
OUTPUT_OD	PA0,PA2,PA3,PA4,PA5,PA6,PA7,PA8,PA9,PA10,					
OUTPUT	PA13,PA14,PA15,					
INPUT_FL	PB0,PB1,PB2,PB3,PB8,PB10,PB11, PB12,PB13,PB14,					
INPUT_PU	PC13					
INPUT_PD						
ANALOG	PAO,PA2,PA3,PA4,PA5,PA6,PA7,PB0,PB1					
PWM(※ 1)	グループ1 PA6,PA7,PB0,PB1					
	グループ 2 PA8,PA9,PA10					

※1 PWM のグループ内では PWM 周波数が共通設定となります

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

起動直後では各ピンの設定は、デジタル入力(IN())またはアナログ入力(ANA())となります。 これは動作を保障するものではありません。GPIOによる機能設定を行って下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定したCannot use GPIO fuintion: ピン番号に利用出来ないモード設定を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

Illegal value : 指定した数値が不当である

□ 利用例

PB1 ピンからアナログ入力値を読み取り、その値を画面に随時表示します。

10 CLS
20 GPIO PB01,ANALOG
30 A=ANA(PB1)
40 LOCATE 5,5: ? A; " "
50 GOTO 30

7.70 OUT デジタル出力

た 書工

OUT ピン番号, 出力値

□ 引数

ピン番号:0~34

PA0, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8, PA9, PA10, PA13, PA14, PA15, PB0, PB1, PB2, PB3, PB8, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PC13

出力值:

 LOW または 0
 : 0V を出力する

 HIGH or 0 以外の値
 : 3.3V を出力する

□説明

指定ピンから、指定した出力を行います。

出力を行う場合は事前に GPIO コマンドによる機能設定(出力設定)が必要です。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったCannot use GPIO fuintion: ピン番号に利用出来ないモード設定を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

Blue Pill ボードの搭載 LED (PC13 ピン)を点滅させます。

10 P=PC13

20 GPIO P,OUTPUT

30 OUT P,HIGH

40 FOR I=1 TO 10

50 OUT P,LOW

60 WAIT 300

70 OUT P,HIGH

80 WAIT 300

90 NEXT I

7.71 POUT PWM パルス出力

た 書 口

POUT ピン番号, デューティー値 POUT ピン番号, デューティー値,周波数

□ 引数

ピン番号: O~34 下記のピンが利用可能です。

グループ 1 PA6,PA7,PB0,PB1 グループ 2 PA8,PA9,PA10

デューティー値: O ~ 4095

0 がデューティー比 100%となります。4095 がデューティー比 100%となります。

周波数: O ~ 32767 (単位 Hz)

指定しない場合は 490Hz となります(Arduino Uno 互換)

周波数はピン番号のグループ内で共通

□ 説明

指定ピンから、PWM パルス出力を行います。

出力を行う場合は事前に GPIO コマンドによる PWM 設定(出力設定)が必要です。

パルス出力を停止する場合は、デューティー値にOを指定して下さい。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

アナログジョイスティックでサーボーモーターの制御を行う

1 'サーボ モーターセイギョ

5 CLS

10 GPIO PB0, ANALOG

20 GPIO PA8, PWM

30 P=MAP(ANA(PB0),0,4095,102,491)

40 POUT PA8,P,50

45 D=MAP(P,102,491,-90,90)

47 LOCATE 0,0:?#3,D

50 GOTO 30

7.72 SHIFTOUT デジタルシフトアウト出力

た 書工

SHIFTOUT データピン番号, クロックピン番号, 出力形式, 出力データ

□ 引数

データピン番号: $0 \sim 34$ データを出力するピン クロックピン番号: $0 \sim 34$ クロックを出力するピン

PAO, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8, PA9, PA10, PA13, PA14, PA15,

PB0, PB1, PB2, PB3, PB8, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PC13

出 カ 形 式:出力するデータの順番を下記にて指定

LSB または 0: 下位ビットから出力する MSB または 1: 上位ビットから出力する

出 カ デ ー タ: 出力するデータ(下位8ビットのみ有効)

□ 説明

クロックにて同期を行い、データピンから 1 バイト分のデータを 1 ビットずつ出力します。 Arduino の shiftOut()と同等の動作をします。

データピン、クロックピンは事前に GPIO コマンドによる機能設定(デジタル出力)が必要です。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

シフトレジスタ 74HC595 を使って LED8 個を制御する

```
10 GPIO PB12,OUTPUT
20 GPIO PB13,OUTPUT
30 GPIO PB14,OUTPUT
40 D=$80
50 FOR I=0 TO 6
60 GOSUB "led"
70 D=D>>1
80 WAIT 200
90 NEXT I
100 FOR I=0 TO 6
110 GOSUB "led"
120 D=D<<1
130 WAIT 200
140 NEXT I
150 GOTO 40
160 "led"
170 OUT PB13,LOW
180 SHIFTOUT PB12, PB14, MSB, D
190 OUT PB13,HIGH
200 TONE 600,10
210 RETURN
```

7.73 IN デジタル入力 (数値関数)

た 書工

IN(ピン番号)

□ 引数

ピン番号:0~34

PA0, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8, PA9, PA10, PA13, PA14, PA15, PB0, PB1, PB2, PB3, PB8, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PC13

□ 戻り値

取得した値 O(LOW) または 1(HIGH)

□ 説明

指定ピンの入力値を読み取り、その値を返します。

入力を行う場合は事前に GPIO コマンドによる機能設定(入力設定)が必要です。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定したCannot use GPIO fuintion: ピン番号に利用出来ないモード設定を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない

□ 利用例

7.74 ANA アナログ入力 (数値関数)

た 書工

ANA(ピン番号)

□ 引数

ピン番号: O \sim 7, 16, 17 または以下の定数 PA00, PA01, PA02, PA03, PA04, PA05, PA06, PA07, PB00, PB0

□ 戻り値

取得した値 0~4095(12ビット)

□ 説明

指定ピンのアナログ入力値を読み取り、その値を返します。 アナログ入力を行う場合は事前に GPIO コマンドによる機能設定(アナログ入力)が必要です。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない

□ 利用例

PB1 ピンからアナログ入力値を読み取り、その値を画面に随時表示します。

10 CLS

20 GPIO PB01,ANALOG

30 A=ANA(PB1)

40 LOCATE 5,5: ? A; "

50 GOTO 30

7.75 SHIFTIN デジタルシフトアウト入力 (数値関数)

□ 書式

SHIFTIN(データピン番号, クロックピン番号, 入力形式)
SHIFTIN(データピン番号, クロックピン番号, 入力形式, 条件)

口 引数

データピン番号 : $O \sim 34$ データを入力するピン クロックピン番号 : $O \sim 34$ クロックを出力するピン

上記のピン番号は数値の他に次のピン名(定数)での指定も可能です。 PAO, PA2, PA3, PA4, PA5, PA6, PA7, PA8, PA9, PA10, PA13, PA14, PA15, PB0, PB1, PB2, PB3, PB8, PB10, PB11, PB12, PB13, PB14, PC13

入力形式: 入力するデータの順番を下記にて指定

LSB または 0下位ビットから入力する MSB または 1上位ビットから入力する

条件: LOW または HIGH

データピンからのデータを読み取るクロックのタイミングを指定します。

LOW: クロックが LOW の場合にデータを読み取る。 HIGH: クロックが HIGH の場合にデータを読み取る。

□ 戻り値

入力値(1バイト)

□ 説明

クロックにて同期を行い、データピンから 1 バイト分のデータを 1 ビットずつ入力します。 Arduino の shiftln()と同等の動作をします。

引数に条件を指定した場合、クロックが指定した状態の時にデータピンからデータを読み取ります。 条件を指定していない場合は、条件は HIGH (Arduino の shiftIn()と同様の仕様)となります。

データピン、クロックピンは事前に GPIO コマンドによる機能設定(デジタル入出力)が必要です。

(注意) ピン番号の指定範囲及び定数は、ST32F103C8T6 での利用を想定したものです。 ST32F103C8T6 以外の MPU にて使う場合は、機能設定できない場合があります。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: ピン番号、モードに範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

'(' or ')' expected : '(' または ')'がない

□ 利用例

ファミコン用ゲームパッドからボタン操作情報を取得する

10 CLS
20 GPIO PB12,INPUT_FL
30 GPIO PB13,OUTPUT
40 GPIO PB14,OUTPUT
50 OUT PB13,HIGH

60 OUT PB13,LOW

70 R=SHIFTIN(PB12,PB14,LSB,LOW)

80 LOCATE 0,0:?BIN\$(R,8)

90 WAIT 100 100 GOTO 50

7.76 I2CR I2C スレーブデバイスからのデータ受信(数値関数)

□ 書式

I2CR(デバイスアドレス,コマンドアドレス,コマンド長,データアドレス,データ長)

□ 引数

デバイスアドレス : 0 ~ 127 (\$00 ~ \$7F) (7 ビット指定)

I2C スレーブアドレスを 7 ビット形式で指定

コマンドアドレス : 0 ~ 32767(\$0000 ~ \$1FFFF)

送信するコマンドが格納されている仮想アドレス

コマンド長 :0~32767

送信するコマンドのバイト数

受信データアドレス : 0 ~ 32767(\$0000 ~ \$1FFFF)

受信データを格納する SRAM 内仮想アドレス

データ長 : 0 ~ 32767

送信するデータのバイト数

□ 説明

I2C スレーブデバイスからデータを受信します。

送信先はデバイスアドレスにてI2Cスレーブアドレスを指定します。

受信において、コマンド等の制御データの送信が必要な場合は、コマンドアドレス、コマンド長にて送信するデータを指定します。受信のみを行う場合は、コマンドアドレス、コマンド長に O を設定します。送信受信するデータは仮想アドレスにて指定します。

仮想アドレスの指定には次の定数を利用することで有用な領域への書込み・参照が簡単に行えます。

MEM: ユーザーワーク領域 サイズ 2048 バイト

VRAM : 画面表示用メモリ(CW×CH) サイズ利用フォントにより可変

VAR: 変数領域(A~Z) サイズ 52 バイト

ARRAY : 配列変数領域(@(O)~@(99)) サイズ 200 バイト

I2C 通信には次の接続ピンを利用します。

PB6: SCL (I2C クロック) PB7: SDA (I2C データ)

(注意) SRAM 容量を超える仮想アドレス (STM32F103C8T6 の場合は 20480) への参照はエラーとなります。

□ 戻り値

O:正常終了

1:通信バッファに対してデータが長すぎる

2: アドレス送信に NACK が返された 3:データ送信に NACK が返された

4:その他のエラー

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Illegal value : 指定した引数の値が不当である
Out of range value : 指定した値が有効範囲を超えている

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

I2C EEPROM(AT24C256 スレーブアドレス \$50)にデータの読み書きを行う

```
100 POKE MEM+0,$00,$00

110 POKE MEM+2,64,65,66,67

120 R=I2CW($50,MEM,2,MEM+2,4)

130 ? "snd r=";R

140 POKE MEM+6,0,0,0,0

150 WAIT 5

160 R=I2CR($50,MEM,2,MEM+6,4)

170 ? "rcv r=";R

180 ? "rcv data:";

190 FOR I=0 TO 3

200 ? PEEK(MEM+6+I);" ";

210 NEXT I

220 ?
```

```
run
snd r=0
rcv r=0
rcv data:64 65 66 67
OK
```

7.77 I2CW I2C スレーブデバイスへのデータ送信(数値関数)

た書 口

I2CW(デバイスアドレス,コマンドアドレス,コマンド長,データアドレス,データ長)

口 引数

デバイスアドレス : 0 ~ 127 (\$00 ~ \$7F) (7 ビット指定)

I2C スレーブアドレスを 7 ビット形式で指定

コマンドアドレス : 0 ~ 32767(\$0000 ~ \$1FFFF)

送信するコマンドが格納されている SRAM 内仮想アドレス

コマンド長 : 0 ~ 32767

送信するコマンドのバイト数

データアドレス : 0 ~ 32767(\$0000 ~ \$1FFFF)

送信するデータが格納されている SRAM 内仮想アドレス

データ長 : 0 ~ 32767

送信するデータのバイト数

□ 説明

I2C スレーブデバイスにデータを送信します。

送信先はデバイスアドレスにてI2Cスレーブアドレスを指定します。

送信するデータは SRAM 先頭からの仮想アドレスにて指定します。

送信するデータはあらかじめ、設定しておく必要があります。

コマンドとデータの区別はありません。デバイスに対しては、単純にコマンド、データの順に送信しています。

仮想アドレスの指定には次の定数を利用することで有用な領域への書込み・参照が簡単に行えます。

MEM: ユーザーワーク領域 サイズ 2048 バイト

VRAM : 画面表示用メモリ(CW×CH) サイズ利用フォントにより可変

VAR : 変数領域 (A~Z) サイズ 52 バイト

ARRAY : 配列変数領域(@(0)~@(99)) サイズ 200 バイト

I2C 通信には次の接続ピンを利用します。

PB6: SCL (I2C クロック) PB7: SDA (I2C データ)

(注意) SRAM 容量を超える仮想アドレス (STM32F103C8T6 の場合は 20480) への参照はエラーとなります。

□ 戻り値

0:正常終了

1:通信バッファに対してデータが長すぎる

2: アドレス送信に NACK が返された

3:データ送信に NACK が返された

4:その他のエラー

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Illegal value : 指定した引数の値が不当である
Out of range value : 指定した値が有効範囲を超えている

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

I2C EEPROM(AT24C256 スレーブアドレス \$50)にデータの読み書きを行う

```
100 POKE MEM+0,$00,$00

110 POKE MEM+2,64,65,66,67

120 R=I2CW($50,MEM,2,MEM+2,4)

130 ? "snd r=";R

140 POKE MEM+6,0,0,0,0

150 WAIT 5

160 R=I2CR($50,MEM,2,MEM+6,4)

170 ? "rcv r=";R

180 ? "rcv data:";

190 FOR I=0 TO 3

200 ? PEEK(MEM+6+I);" ";

210 NEXT I

220 ?
```

実行結果

```
run
snd r=0
rcv r=0
rcv data:64 65 66 67
OK
```

接続している I2C スレーブを調べる

(補足) I2C スレーブアドレスのみ送信し、正常終了(ACK を返した)のアドレスを調べています。

```
10 FOR I=0 TO $7F

20 C=I2CW(I,MEM,0,MEM,0)

30 IF C=0 PRINT HEX$(I,2);" ";

40 NEXT I

50 PRINT :PRINT "done."
```

実行結果

```
run
50
done.
OK
```

7.78 SMODE シリアルポート機能設定

た書 口

SMODE 0

SMODE 1, "通信速度"

SMODE 2

SMODE 3, 制御コード無加工指定

口 引数

通信速度 : 文字列形式の数値 "110"~ "921600"

制御コードの制御 : 0 なし、1:あり

□ 説明

2つのシリアルポート(USBポート、GPIO シリアルポート)に関する機能設定を行います。

1)SMODE 0

2つのシリアルポートに次の機能を割り付けます(デフォルト設定)

• USB ポート : ターミナル対話利用(入力、プログラム転送、デバッグ)

• GPIO シリアルポート(PA9、PA10) : データ通信用(SREAD、SWRITE 等のコマンド利用用)

2)SMODE 1, "通信速度"

2つのシリアルポートに次の機能を割り付けます(デフォルト設定)

• USB ポート : データ通信用 (SREAD、SWRITE 等のコマンド利用用)

GPIO シリアルポート(PA9、PA10) :ターミナル対話利用(入力、プログラム転送、デバッグ)

第2引数にはGPIOシリアルポート(PA9、PA10)の通信速度を数字文字列にて指定します。

本コマンドにより、GPIO シリアルポートは指定した通信速度にてオープンされます。

3) SMODE 2

シリアル通信禁止

ターミナル対話利用のコンソールでの入出力、データ通信用の入出力は利用出来ません。 出力を行った場合は破棄されます。

4)SMODE 3, 制御コード無加工指定

シリアルターミナルからの制御コードの処理を指定します。

○の場合、処理を行いません。1の場合は処理を行います。

シリアルポートをデータ通信に設定した場合は次のコマンドを利用することができます。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、

正しい動作を行うことが出来ません。

必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数に範囲外の値を指定した

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

SMODE 1

7.79 SOPEN シリアル通信オープン

た書 口

SOPEN 通信速度

口 引数

通信速度 : 文字列形式の数値 "110"~ "921600"

例:"115200"

□ 説明

データ通信設定したシリアルポートのシリアル通信の利用を開始します。

通信速度は文字列形式の数値で指定します。

シリアル通信は次の GPIO ピンまたは、USB ポートを利用することが出来ます。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアルポートが既にオープン状態の場合は、シリアルポートをクローズしてからオープンします。

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、正しい動作を行うことが出来ません。必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったIllegal value: 指定した引数に範囲外の値を指定した

□ 利用例

シリアル通信経由でテキストメッセージを送信する

10 SOPEN "9600"

20 SPRINT "Hello, TinyBASIC"

30 SCLOSE

7.80 SCLOSE シリアル通信クローズ

た 書工

SCLOSE 通信速度

口 引数

なし

□ 説明

データ通信設定したシリアルポートのシリアル通信を終了します。

シリアル通信は次の GPIO ピンまたは、USB ポートを利用することが出来ます。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、正しい動作を行うことが出来ません。必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

シリアル通信経由でテキストメッセージを送信する

10 SOPEN "9600"

20 SPRINT "Hello, TinyBASIC"

30 SCLOSE

7.81 SPRINT シリアル通信文字列出力

た書 口

PRINT

PRINT 文字列数值

PRINT 文字列|数值;

PRINT 文字列|数值;文字列|数值;…

PRINT 文字列|数值;文字列|数值;…;

PRINT #桁数,文字列|数值; 文字列|数值;…;

※ | はいずれのうち1つを示す

※ …は可変指定を示す

※;は連結指定、カンマ','も可能

口 引数

文字列 : 文字列定数または文字列関数

数値 :数値定数、変数、配列変数、または数値関数、式

連結指定 : セミコロン"; または カンマ;

文末に付けると改行抑制される

桁数 : #数値 または #-数値 の形式で指定する

例:#3 、 #-3

□ 説明

指定した文字列、数値をデータ通信設定したシリアルポートに出力します。

書式は PRINT 文と同じです。

表示要素である文字列、数値は区切り文字のセミコロン"、またはカンマ、いて連結して表示することが出来ます。連結表示において、数値は桁指定により指定した桁幅にて等間隔で表示します。

桁指定においてマイナスの数値を指定した場合は、間隔を○で補完します。

正の数値の場合は空白文字で補完します。

PRINT 文の引数の最後に",'または','が付加されている場合は改行しません。

付加されていない場合は引数の内容を表示後、改行します。

シリアル通信は次の GPIO ピンを利用します。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SOPEN: シリアル通信開始SERITE: 1 バイト送信

SREAD : 1 バイト受信 SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、正しい動作を行うことが出来ません。

必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

□ エラーメッセージ

:文法エラー、書式と異なる利用を行った Syntax error

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

シリアル通信経由でテキストメッセージを送信する

10 SOPEN "9600" 20 SPRINT "Hello,TinyBASIC"

30 SCLOSE

7.82 SWRITE シリアル通信 1 バイト出力

た 書 口

SERITE 送信データ

口 引数

送信データ : 0~255 (1 バイトデータ、変数指定時は上位 8 ビットは無視)

□ 説明

データ通信設定したシリアルポートに 1 バイト分のデータを出力します。

シリアル通信は次の GPIO ピンを利用します。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、

正しい動作を行うことが出来ません。

必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

Overflow : 指定した数値が-32768 ~ 32767 を超えている

□ 利用例

シリアルポートに'A'から'Z'の文字コードを出力する

10 SOPEN "115200"

20 FOR C=ASC("A") TO ASC("Z")

30 SWRITE C 40 NEXT C 50 SCLOSE

7.83 SREADY シリアル通信データ受信データ確認 (数値関数)

た 書 口

SREADY()

口 引数

なし

□ 戻り値

O:受信データなし1:受信データあり

□ 説明

シリアルポートに受信可能なデータが着信しているかを確認します。

シリアルポートから SREAD 関数にてデータの受信を行う際に、事前にデータの有無を確認することが出来ます。

シリアル通信は次の GPIO ピンを利用します。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY :受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、正しい動作を行うことが出来ません。必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

□ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

受信した文字列を画面に表示する

(".":終了、\$OD:改行、それ以外の制御文字は無視)

```
10 SOPEN "115200"
20 IF SREADY()=0 GOTO 20
30 D=SREAD()
40 IF D=ASC(".") GOTO 80
50 IF D=$0D ?
60 IF D>=32 ? CHR$(D);
70 GOTO 20
80 SCLOSE
90 ? :? "Done."
```

7.84 SREAD シリアル通信 1 バイト受信(数値関数)

た 書 口

SREAD()

□ 引数

なし

□ 戻り値

受信データ : 0 ~ 255、データなしの場合は-1

□説明

データ通信設定したシリアルポートから1バイトデータを受信します。

データが無い場合は-1を返します。データが無い場合の受信待ちは行いません。

シリアル通信は次の GPIO ピンを利用します。

PA9 : TX 送信 PA10 : RX 受信

シリアル通信の利用には次のコマンドが用意されています。

SMODE : GPIO シリアルポート、USB シリアルポート機能切り替え

SOPEN : シリアル通信開始 SERITE : 1 バイト送信 SREAD : 1 バイト受信

SREADY : 受信データ有無の確認

SPRINT : 文字列出力(PRINT と同等の出力)

SCLOSE : シリアル通信クローズ

(注意) シリアル通信をオープンした状態で GPIO コマンドにて PA9,PA10 に I/O 機能の割り当てを行った場合、

正しい動作を行うことが出来ません。

必ず SCLOSE にてシリアル通信をクローズしてからピンに機能を割り当て下さい。

ロ エラーメッセージ

90 ? :? "Done."

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

受信した文字列を画面に表示する(".":終了、\$OD:改行、それ以外の制御文字は無視)

```
10 SOPEN "115200"
20 IF SREADY()=0 GOTO 20
30 D=SREAD()
40 IF D=ASC(".") GOTO 80
50 IF D=$0D ?
60 IF D>=32 ? CHR$(D);
70 GOTO 20
80 SCLOSE
```

7.85 EEPFORMAT 仮想 EEPROM のフォーマット

た 書工

EEPFORMAT

□ 引数

なし

□ 説明

仮想 EEPROM のフォーマットを行います。

仮想EEPROMとは内部フラッシュメモリの一部をソフトウェアにてEEPROMのように利用しますものです。仮想EEPROMに書き込んだデータは、マイコンボードの電源を落としても保持されます。

EEPFORMAT コマンドは仮想的に EEPROM として利用するためにフラッシュメモリの初期化処理を行います。既に EEPWTIRE コマンドにてデータの書込みを行っている場合、そのデータを含めて初期化されます。

仮想 EEPROM はフラッシュメモリの2ページ(1024 バイト×2)を利用しています。

フラッシュメモリの書込み回数の制約を考慮し、同じアドレスへの繰り返し書き込みに対して書き込み位置を分散しています。 仮想 EEPROM へのデータ保存は 2 バイト単位(変数のバイト数と同じ)です。

保存可能なデータ量は250ワード(250バイト)となります。

EEPWRITE、EEPREAD コマンドで指定する読書きを指定するアドレスは実際にはアドレスではなく、検索キーです。O~32767の間に任意で利用出来ます。

検索キー数はデータ保存量が 250 ワードの制約から、250 以内に抑える必要あります。 仮想 EEPROM の機構から数十以内に抑えることを推奨します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

□ 利用例

EEPFORMAT OK

7.86 EEPWRITE 仮想 EEPROM のへのデータ書き込み

□ 書式

EEPWRITE アドレス,データ

□ 引数

アドレス : 仮想 EEPROM 内アドレス 0 \sim 32767

データ: 書き込みデータ 32767 ~ 32767 (2バイト分)

\$0000 ~ \$FFFF

□ 説明

仮想 EEPROM の指定したアドレスにデータを書き込みます。

書き込み単位は 2 バイトです。仮想 EEPROM に初めてデータ書き込みを行う場合は事前に EEPFORMAT コマンドで初期 化をしておく必要があります。

仮想EEPROMとは内部フラッシュメモリの一部をソフトウェアにてEEPROMのように利用しますものです。仮想EEPROMに書き込んだデータは、マイコンボードの電源を落としても保持されます。

仮想 EEPROM はフラッシュメモリの2ページ(1024 バイト×2) を利用しています。

フラッシュメモリの書込み回数の制約を考慮し、同じアドレスへの繰り返し書き込みに対して書き込み位置を分散しています。 保存可能なデータ量は最大で 250 ワード(500 バイト)となります。

EEPWRITE、EEPREAD コマンドで指定する読書きを指定するアドレスは実際にはアドレスではなく、検索キーです。O~32767の間に任意で利用出来ます。

検索キー数はデータ保存量が 250 ワードの制約から、250 以内に抑える必要あります。 仮想 EEPROM の機構から数十以内に抑えることを推奨します。

ロ エラーメッセージ

Syntax error : 文法エラー、書式と異なる利用を行った

EEPROM out size : 書き込み容量を超えた

EEPROM bad FLASH : フラッシュメモリの異常が発生した

□ 利用例

EEPWRITE 1234, 123

OK

?EEPREAD(1234)

123 OK

7.87 EEPREAD 仮想 EEPROM のからのデータ読み込み(数値関数)

た書 口

EEPREAD(アドレス)

□ 引数

アドレス : 仮想 EEPROM 内アドレス 0 \sim 32767

□ 戻り値

読みだした2バイトデータ(-32767~32767, \$0000~\$FFFF)

□ 説明

仮想 EEPROM の指定したアドレスから 2 バイトデータを取得します。 があります。

EEPWRITE、EEPREAD コマンドで指定する読書きを指定するアドレスは実際にはアドレスではなく、検索キーです。O~32767の間に任意で利用出来ます。

指定したアドレスを検索キーとして該当するデータを返します。該当するデータない場合は 0 を返します。

□ エラーメッセージ

Syntax error: 文法エラー、書式と異なる利用を行ったEEPROM bad FLASH: フラッシュメモリの異常が発生した

□ 利用例

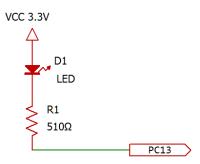
EEPWRITE 1234, 123
OK
?EEPREAD(1234)
123
OK

8. 応用プログラム(執筆中)

8.1 ボード上の LED の点滅

(1) ボード上の LED の点滅

BluePill ボードの LED は PC13 に接続しています。下記ど LED 周りの回路図です。



回路図から PC13 を OV(LOW)にすることで、LED 点灯することが出来ます。

逆に HIGH(3.3V)にするとこで LED を消灯出来ます。

LED を 1 秒周期で点滅(0.5 秒間点灯後、0.5 秒間消灯)させてみましょう。

プログラムは次のようになります。

1 'L 劫

10 GPIO PC13,OUTPUT

20 OUT PC13,LOW

30 WAIT 500

40 OUT PC13, HIGH

50 WAIT 500

60 GOTO 20

冗長性のある部分を共通化した修正です。繰り返し部分は1行短くなりました。 GPIO コマンドも省略形での記述としました。

1 'L 升 2

10 L=LOW

20 PC13,OUTPUT

30 OUT PC13,L

40 L=!L

50 WAIT 500

60 GOTO 30

0.2	
8.3	PWM による LED 輝度の制御
8.4	スライド抵抗をつかった LED の輝度調節
8.5	シフトレジスタ 74HC595 を使った 8 個の LED の制御
PWMによるサーボモータの制御	
8.6	I2C インタフェースの利用(基本編)
I2C バスを利用するには、2.2k~10kΩ程度でプルアップする必要があります。 (以降作成中)	
(I)	以降作成中)
8.7	シリアル通信
8.8	OLED(SSD1306)ディスプレイの利用